

Contents	
2022年冬鳥一斉カウント結果	2
野鳥の動向に関するトピックス（2021年7月～12月）	4
野鳥の集団ねぐら調査結果（2021年1月～12月）	6
2021年多摩大橋下流・ツバメ集団ねぐら観察結果	8
2021年八王子駅周辺3km四方ツバメの巣調査結果	10
2022年1月に多摩川・多摩大橋下流にコハクチョウ3度飛来	17
2021年「我が家の庭に来た野鳥」調査結果	18
公開野鳥講座「中西悟堂と高尾山の鳥」の概要	20
多摩森林科学園における鳥類標識調査（2021年）	23
2021年「カワセミハウス環境パネル展」出展報告	24
カワセミ会35周年記念事業	25
高尾・浅川野鳥図鑑の発刊	26
企画展「八王子・日野の野鳥展」開催報告	27
35周年記念事業企画展「八王子・日野の野鳥展」アンケート結果	28
「八王子・日野の野鳥写真展（Web開催）」について	30
カワセミ会ジュニアクラブ活動報告	32
● —— 表紙の絵 —— 「エナガ」（倉本 修）	34
●南風に吹かれて 第2話（宮島 仁）	35
●リレーコラム No.15 鳥とカメラと私（宮本 真里）	36
●リレーコラム No.16 私の好きな探鳥地・北アルプス（小川 圭太）	37
●地元発見探鳥会へ参加のおすすめ（関谷 孝）	38
●ホトトギスを友とする佐藤サヨ子さんの近況（佐藤 サヨ子）	40
●サシバの渡り調査シリーズ 第五回 茨城県内のサシバの秋の夕カ渡りの構造（池野 進）	41
外部機関が主催する探鳥会の支援記録（2021年7月～12月）	43
探鳥の記録（2021年7月～12月）	44
地元発見探鳥会の記録（2021年10月～12月）	53
鳥信（主として2021年7月～12月）	55
2021年 秋のサシバ等渡り調査結果	68
2021年 浅川流域イワツバメ営巣調査	74
定期カウント報告	77
2021年 片倉城跡公園巣箱設置調査報告	97

2022年冬鳥一斉カウント結果

まとめ： 佐藤 哲郎

2022年の冬鳥一斉カウントは1月8日午前8時から19区間で行われました。昨年は新型コロナ緊急事態宣言発出の影響で、原則として担当者のみで実施という異例の形でした。今年も新型コロナの感染は続いていましたが、2年ぶりに協力者を交えてカウントを行うことができました。

今回カウントされた総羽数は5,861羽で、昨年の5,505羽を上回りました。一方、種類数は57種で、昨年の58種を下回りました。

流域別では、浅川流域で57種5,085羽（57種4,945羽：昨年実績 以下同じ）、程久保川・谷地川で35種776羽（27種560羽）となっています。程久保川・谷地川でやや増えていますが、全体としては概ね昨年同様で、下げ止まりの傾向が出ているようにも見えます。来年以降の状況が注目されます。

区間別の種類数は浅川（ふれあい橋～多摩川合流）の35種、羽数は北浅川（松竹公園西～陵北大橋）で記録された542羽が最多となりました。参加人数は65名（26名）でした。

1. 数の多い鳥

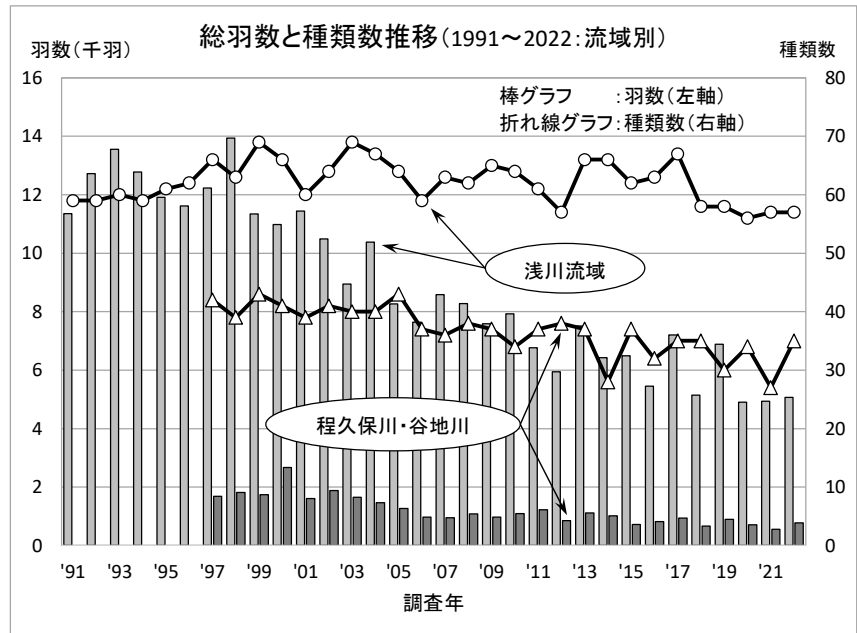
総羽数の上位3種は、①スズメ774羽（①765羽）、②ムクドリ497羽（②612羽）、③カワラヒワ481羽（③576羽）。上位10種の羽数計は3,954羽（3,879羽）で総羽数に対する比率は67.6%（70.5%）となり、昨年比では羽数、比率ともほぼ同じレベルでした。

調査した19区間全てで観察された鳥は、キジバト、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイの7種でした。

2. サギとカモ（表は次頁）

サギ3種（コサギ、ダイサギ、アオサギ）は、計298羽（177羽）と昨年よりも増加しましたが、浅川（ふれあい橋～多摩川合流）でダイサギが105羽観察されたのが影響しています。

カモ類は4種799羽（5種577羽）が観察され、そのうち冬鳥のカモは3種445羽（4種304羽）でした。浅川流域のコガモは合計348羽（226羽）と



区間毎の総羽数・種類数 注：()内は昨年

区 間		総羽数	種類数
北浅川	松竹 陵北	542 (397)	34 (28)
	陵北 松枝	253 (228)	32 (29)
浅川 (上流)	松枝 鶴巻	314 (277)	32 (25)
	鶴巻 大和田	435 (425)	32 (26)
	大和田 長沼	342 (403)	30 (30)
浅川 (下流)	長沼 一番	328 (340)	24 (28)
	一番 ふれあい	274 (279)	33 (29)
	ふれあい 合流	489 (547)	35 (38)
川口川	川口 明治	254 (305)	29 (29)
	明治 合流	246 (269)	26 (29)
南浅川	案内 敷島	104 (125)	14 (21)
	敷島 合流	381 (411)	24 (27)
城山川	月夜 合流	322 (303)	25 (24)
山田川	山田 合流	324 (369)	24 (30)
湯殿川	白旗 時田	222 (146)	26 (24)
	時田 合流	255 (121)	31 (21)
程久保川	小宮 合流	309 (176)	25 (20)
谷地川	月見 左入	168 (159)	24 (20)
	左入 合流	299 (225)	33 (24)
合計		5,861 (5,505)	57 (58)

昨年より増加しましたが、1993年に同流域で記録した1,944羽のわずか17.9%に過ぎません。程久保川・谷地川のコガモは61羽(57羽)でした。

その他、マガモ34羽(16羽)、ヒドリガモ2羽(0羽)が観察されました。オナガガモは今年もゼロでした。

3. 昨年との比較

昨年観察されずに今年観察された鳥は、ヒドリガモ、ノスリ、ミサゴ、セッカ、カオグロガビチョウの5種でした。逆に昨年観察されて今年観察されなかった鳥は、オカヨシガモ、ヨシガモ、ゴイサギ、クイナ、バン、ニシオジロビタキの6種でした。

4. その他の鳥

イソヒヨドリは冬鳥カウントでは2008年に初めて観察されました。今年は浅川(一番橋～ふれあい橋)、湯殿川(時田橋～浅川合流)の2区間で計5羽(6区間6羽)が観察されました。

ベニマシコは1区間(浅川：大和田橋～長沼橋)で2羽(1羽)観察されました。

カワセミは調査した19区間中15区

間(17区間)で観察され、総羽数は67羽(55羽)と、昨年より区間数は減少し羽数は増加しました。

タカ・ハヤブサの仲間はミサゴ1羽(0羽)、トビ19羽(13羽)、ハイタカ1羽(1羽)、オオタカ6羽(2羽)、ノスリ1羽(0羽)、チョウゲンボウ1羽(2羽)でした。

モズは50羽(35羽)、ジョウビタキは68羽(47羽)で、♂♀の比率はモズが56:44(56:44)、ジョウビタキが61:39(64:36)と、何れも♂が多い結果となりました(♂♀不明は母数に算入せず)。

その他、ツグミ48羽(90羽)、シメ14羽(16羽)、イカル132羽(132羽)、カシラダカ103羽(154羽)、アオジ120羽(84羽)、オオジュリン2羽(5羽)、ガビチョウ24羽(5羽)などが観察されました。

サギ類の経年変化(上段:確認された区間数/下段:羽数)

鳥名\年次	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22
コサギ	11	5	8	5	3	2	2	1
	66	36	55	8	5	9	2	1
ダイサギ	16	16	18	16	18	16	16	15
	59	112	92	69	104	56	124	250
アオサギ	17	16	18	16	18	15	16	18
	48	60	53	36	77	42	51	47

カモ類の経年変化(上段:確認された区間数/下段:羽数)

鳥名\年次	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22
マガモ	8	4	3	2	5	4	5	6
	42	9	6	4	30	7	16	34
カルガモ	16	17	16	15	15	15	14	16
	320	315	405	325	297	343	273	354
オナガガモ	1	1	0	0	0	0	0	0
	5	5	0	0	0	0	0	0
コガモ	17	10	10	15	15	14	11	14
	296	216	199	468	407	271	283	409
ヒドリガモ	0	0	0	1	0	0	0	1
	0	0	0	4	0	0	0	2

2022年冬鳥一斉カウント参加者 計65名(○印は担当者)

区 間			調 査 参 加 者
北浅川	大沢	陵北	○青木静子、白川司、白川史子、丸山三三夫、柚木育子
	陵北	松枝	○中村后子、河村洋子
浅川(上流)	松枝	鶴巻	○荻島伸介、岩崎和代、山浦秀雄
	鶴巻	大和田	○宮越俊一、宮越リカ
浅川(下流)	大和田	長沼	○佐藤哲郎、高梨規子、田中博之、馬場隆進、馬場啓子
	長沼	一番	○山崎悠一、山崎久美子
	一番	ふれあい	○玉木雅治、登坂久雄
川口川	ふれあい	合流	○門口一雄、小川圭太、原田佳世、山沢良雄
	川口	明治	○対中義雄、市橋ゆみ、植田益夫、氷渡トシ子
南浅川	明治	合流	○古山隆、小澤礼子
	案内	敷島	○加藤岸男、大野清司、関谷孝、宮本真理、横山由美子
城山川	敷島	合流	○門倉美登利、木野孔司、村田靖雄
	月夜	合流	○木村晴美、千葉禎子、中山尊人、中山千晶
山田川	山田	合流	○浜野建男、浜野知恵子
湯殿川	白旗	時田	○粕谷和夫、植木裕子、玉手道雄、玉手しのぶ、森田公子、会員外2名
	時田	合流	○渡辺正樹、岡田浩郎
程久保川	小宮	合流	○菅野桂子、阿部秀介、武藤邦子、渡辺仁
谷地川	月見	左入	○浅野恵美子、浅野幸男、井上京子、会員外2名
	左入	合流	○福本健、木澤隆雄

野鳥の動向に関するトピックス（2021年7月～12月）

まとめ： 粕谷 和夫

（各セクションの先頭の数字は鳥番号で、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会2012）で使用されている番号）

4 ヤマドリ

- 2021/10/27 1羽 小下沢林道旧キャンプ場手前 オス
- 2021/10/27 1羽 小下沢林道浩宮生誕記念碑手前 オス 同日に2羽目

27 ヨシガモ

- 2021/11/28 10羽 高月浄水場の池

37 トモエガモ

- 2021/11/28 1羽 多摩川・JR中央線鉄橋下流
- 2021/11/29 1羽 大栗川・由木事務所近
- 2021/12/19・20 5羽 宇津貫緑地調整池 ♂3、♀2



64 カンムリカイツブリ

- 2021/11/7 1羽 多摩川・JR中央線鉄橋下流の淀み
- 2021/12/5 2羽 多摩川・JR中央線鉄橋下流
- 2021/12/9 4羽 多摩川・JR中央線鉄橋下流 4羽に増えた



133 ヨシゴイ

- 2021/9/8 1羽 浅川右岸・一番橋下流桜並木の道

141 ササゴイ

- 2021/8/21 1羽 浅川右岸・一番橋

219 ジシギ sp

- 2021/9/1 1羽 高月水田 チュウジシギの可能性もある

235 アオアシシギ

- 2021/9/10 1羽 浅川・一番橋から下流300m
- 2021/9/12 1羽 浅川・日野市民プール付近



251 トウネン

2021/9/5 3羽 滝ヶ原運動場 西端にある野球グラウンドの芝地で採餌

357 サシバの秋の渡り

秋の渡りのサシバは1356羽を記録した。9月27日が最大通過日であり、この日を含め3日連続で100羽を越えた。サシバは城山湖で特に多く、2018年以来3年ぶりに1000羽を越えた。詳細は別途本文を参照

378 アカショウビン

2021/7/14 声 下恩方町の特養ホームを囲む山林

388 アリスイ

2021/10/10 1羽 浅川（水管橋と新浅川橋中間）

2021/11/20 1羽 浅川・右岸鶴巻橋下流側 2回ともに公開探鳥会で観察

412 サンショウクイ

亜種リュウキュウサンショウクイと思われる個体が八王子西部で数回観察された。

418 サンコウチョウ

2021/7、8 高尾山その他で繁殖

2021/9/15 1羽 日野市多摩川河川 通過個体

455 ショウドウトツバメ

2021/9/5 3羽 高月町水田

2021/10/11 2羽 高月水田 とともに渡りの途中と思われる。

457 ツバメの集団ねぐら

2021年も多摩川・谷地川合流部に集団ねぐらが形成された。

503 キバシリ

2021/12/4 1羽 高尾山大平林道大垂水峠分岐先 樹間を移動

506 ムクドリ、スズメ

ムクドリ、スズメの集団ねぐら調査結果の詳細は別途本文を参照

558 キビタキ

2021/11/4 1羽 高尾山3号路に♂が未だいて、喉から胸にかけてのオレンジ色が鮮やかだった。

549 イソヒヨドリ

10/10（日）19:30～NHK 総合「ダーウィンが来た！ ～街に大進出 青い鳥の謎～」が放映され、この番組の制作に協力したカワセミ会の活動も紹介された。

586 アトリ

2021/12/4 30羽± 高尾山大平林道学習の道分岐先

574 ハクセキレイの集団ねぐら

JR八王子駅北口の東急スクエアビル（オクトーレに名称変更）の窓枠のメインねぐらの他に3か所で小規模のねぐらを観察。詳細は別途本文を参照

575 セグロセキレイの集団ねぐら健在

式方小学校の西側桑畑のセグロセキレイの集団ねぐらは2021年も形成された。詳細は別途本文を参照

野鳥の集団ねぐら調査結果（2021年1月～12月）

まとめ： 粕谷 和夫

カワセミ会では毎年ツバメ、ヒメアマツバメ、ムクドリ、スズメ、セキレイの仲間等の集団ねぐらを調査している。具体的なデータは鳥信等に掲載されているので、ここではその概要を報告する。

1. ツバメ（福本健、渡辺仁他調査）

2021年も多摩川・谷地川合流部に集団ねぐらが形成された。本年も当初はひょうたん池周辺にねぐら入りしていたが、その後は前年と同じように釣り堀池の北側などに移動した。8月21日のピーク時には2万羽くらいに増加したが、その後急に減少した。

2. ムクドリ（JR八王子駅北口駅前 対中義雄調査）

2020年もJR八王子駅北口駅前に集団ねぐらが形成された。主要なねぐら入り場所は北口駅前通りで甲州街道迄の並木（紅花とちの木）で、1,5月は一時消滅したが10月は復活した。結果は以下の通りでいずれも概数である。

調査日	ねぐら入り概数	状況
1月30日	0羽	駅前通り紅花トチノキや駅ロータリー周辺の街路樹が徹底的に剪定されてムクドリが見られず。周辺のビル屋上やアンテナにも一羽も飛来無し。粕谷会長より引き継いで3年になるが初めてのこと。
5月28日	0羽	ムクドリねぐら入り時約30分チョウゲンボウ飛来。今回もムクドリのねぐら入りは確認出来ず。1月のムクドリねぐら入り無しは街路樹の剪定のため思われたが、今回は不明。
10月15日	約2,000羽	17時10分付近ビル屋上アンテナに100羽、17時15分周辺より小単位で集結する800羽。17時18分チョウゲンボウ飛来、17時20分1,500羽になる。小単位で上空を旋回し徐々に駅前通り紅花トチノキ及び周辺の街路樹等でねぐら入り。

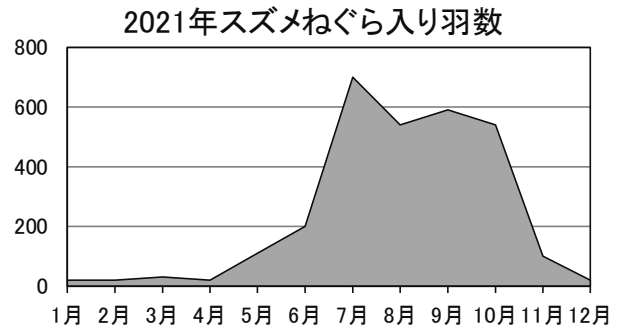
3. ムクドリ（浅川ふれあい橋付近の河原の竹藪 小川圭太調査）

浅川ふれあい橋付近の河原の竹藪に集団ねぐらが形成された。

調査日	ねぐら入り概数	状況
4月2日	約3,000羽	1時間ほど前から周辺の電線に徐々に集結し、警戒をしながら、日没直後に幾つかの大きな群れのうねりとなって、竹藪へ入るのが、日々のパターンです。
6月9日	約3,000羽	日没時間が遅くなるにつれ、ムクドリの集合時間が短時間で集中ではなく、早い到着組と遅い到着組の時間差があるために分散化されていることに気づいた。早く到着した群れは早々に竹藪の中へ入っていくが、到着時間差があるために遅い到着組は、多くのムクドリが既に竹藪へ入った後に電線に止まり始める。冬であれば電線に隙間がない程の多数のムクドリが短時間で集結し、渦をまくように竹藪へと移動するが、今の時期は電線にはごくわずかずつしか止まらない。パッと見で総数を少なく見えるが、長い観察時間で、総数は変わらず、時間差があるだけとの気づいた。
10月23日	約3,000羽	前回報告3,000羽以上としたが、5,000もしくはそれ以上いるかもしれない。数えきれない羽数です。
11月7日	約3,000羽	朝のねぐら立ちです。日の出少し前（朝6時）にいっせいに飛び立つ瞬間は迫力がある。

4. スズメ（渡辺敬明調査）

2021 年も京王高幡ショッピングセンタービル鉄柵内をねぐらとするスズメのねぐら入り羽数を毎月カウントした。結果は図の通りで本年は7月がピークとなった。



5. ハクセキレイ（JR 八王子駅北口駅前 対中義雄調査）

JR 八王子駅北口・熊沢書店前、サンドラック前のクスノキの集団ねぐらが 2016 年から直ぐ近くの東急スクエアビル(2020 年にオクトーレに名称変更)に移り、同ビルの窓枠のような所に 1 列にとまって、丸見えの状態でねぐらを形成するようになった。2021 年は以下のとおりである。

調査日	ねぐら入り概数	状況(メインのビルの東急スクエアがオクトーレに名称変更有り)
1月30日	625羽	17:30 17:30オクトーレビル窓枠に止まり始める。17:45罅入り完了。
5月28日	0羽	ムクドリと同様にハクセキレイも飛来なし。毎年夏場は少なくなるが、未だ5月末で現象が少々早い気がする。
10月15日	444羽	17:10オクトーレ屋上に飛来確認。17:20周辺より徐々に飛来、17:30オクトーレの窓枠に止まるハクセキレイ444羽をカウントした。

6. ハクセキレイ（西八王子駅北口駅前 宇都宮信子調査）

2021 年も秋に駅前のメタセコイアにねぐら入りした。規模は 50 羽程度。

調査日	ねぐら入り概数	状況(メインのビルの東急スクエアがオクトーレに名称変更有り)
9月17日	10羽	18時頃、メタセコイアの木から小鳥の声が聞こえたので見てみたらハクセキレイらしい鳥が10羽位いた。昨年の秋に見たのと同じだと思った。
11月30日	50羽	メタセコイアにねぐら入り。11/6に20羽位、11/7に20羽位、11/16に約50羽位が駅舎の屋根や近くのビルの屋上に集まってからねぐら入り、11/21に50羽位、11/25に50羽位、11/30の16:40頃50羽位が駅舎の屋根やビルの屋上からねぐら入り。

7. セグロセキレイ（関根伸一、関根光世調査）

式分方小学校の西側桑畑のセグロセキレイの集団ねぐらは 2021 年も形成された。11/3 の調査で 112 羽のねぐら入りを観察。

8. ヒメアマツバメ

長沼駅改札口付近、南大沢駅付近に 2021 年もコロニーが形成された。

2021 年多摩大橋下流・ツバメ集団ねぐら観察結果

報告： 福本 健、 渡辺 仁

2014 年に当地でツバメの集団ねぐらが発見されて以降毎年継続して確認されており、2021 年は 8 シーズン目である。

主要ねぐらである通称ひょうたん池は 2019 年 10 月の台風 19 号による地形の変化により水位が 1m 以上上昇していたが、今年は工事が実施され水位が元のレベルに戻り、笹が枯れ、ガマがなくなるなど植生も変化した。

今年は 5 月末から調査を始めた。5 月から 6 月中旬にかけては釣り堀池北の地図⑤あたりに数百羽がねぐら入りしていたが、6 月後半にはひょうたん池③方向に移動した。7 月に入るとねぐら入りの数も増え、1 万羽を超えるようになり、③のヨシ原の上を低空で飛び回りヨシ原にねぐら入りするのが観察されるようになった。コロナの影響で 8 月 1 日の観察会は中止となったが、7 月 31 日に Youtube でライブ配信を行い、ダイナミックなねぐら入り風景が見られた。

8 月に入るとひょうたん池周辺にねぐら入りするツバメは急激に減った。ねぐらは釣り堀池の①⑤方向に移動したが、8 月中旬にはさらに下流側の⑤⑦に移動した。8 月 21 日には 2 万羽近くの群れを確認したが、8 月末にはねぐら入りを確認できなくなった。ねぐらはどこに移動したか確認できず見失った。多くは南の国へ旅立ったと思われる。9 月 10 日をもって今年のねぐら入り調査は終了した。

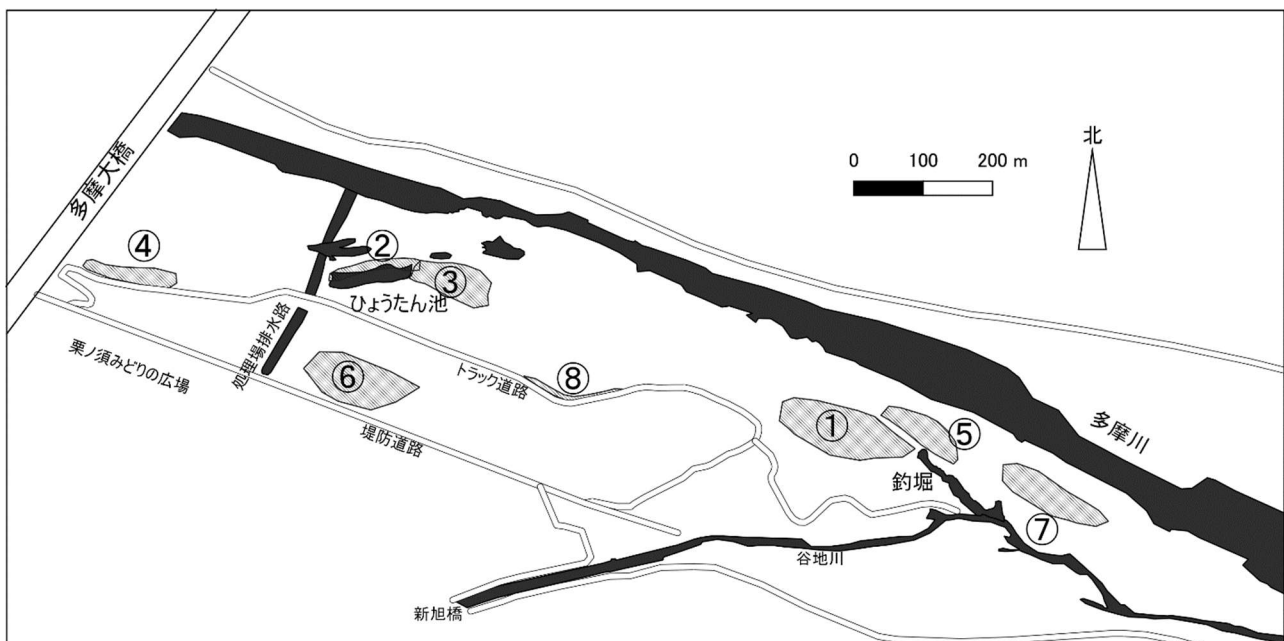
今年もねぐらの位置が地図⑤→③→⑤⑦へと移動したことになる。

ねぐらがあった河原は土砂の移動等大きな工事が行われており、2022 年のツバメのねぐらはどうなるか心配だ。

2021 年ツバメ集団ねぐら調査結果一覧表

調査日	羽数 (推定)	ねぐら入り した場所	状況
5 月 25 日	200～ 300 羽	釣り堀池 北⑤か？	18:35 30 羽程が西の空を飛び回る。 19:10 200～300 羽が釣り堀池池の北側に飛来。ねぐら入りはこの周辺か？
6 月 9 日	数百羽	釣り堀池 ①⑤？	19:00 観察広場に集まりだす。 19:09 広場から釣り堀池にかけて数百羽集まる。 19:15 ねぐら入り
6 月 26 日	1000 羽 程度	ひょうたん 池周辺 か？	18:57 広場には集まらず。ひょうたん池方向に 100 羽程が集まっていた。 19:10 ひょうたん池付近の上空に 1000 羽近くの群れが飛び回っているのが確認できるが遠くて詳細不明。やがて見えなくなる。
7 月 3 日	3000 羽 以上	ひょうたん 池下流③	19:00 ひょうたん池や上空に集まってくる。 19:05 ひょうたん池東のヨシ原の上を飛び回る。ヨシに止まるツバメもいる。 19:15 次々にねぐら入り。
7 月 19 日	10000 羽 以上	ひょうたん 池下流③	18:55 ひょうたん池や上空に集まってくる。 19:05 ひょうたん池東のヨシ原の上を飛び回る。上空にも群れ。 19:20 次々にねぐら入り。
7 月 31 日	約 8000 羽？	ひょうたん 池下流③	観察会が緊急事態宣言下で中止になった。Youtube でライブ配信した。ツバメの数は減少した。ヨシの上を飛ぶツバメも少なかった。

8月3日	3000羽程度か	ひょうたん池下流③	ツバメはそれなりに飛来したが、かつてのような迫力あるツバメの飛翔は見られなかった。ねぐらが分散したか。
8月6日	10000羽以上	釣り堀池方面か)	日没後上空に少しずつ集まってきた。19時過ぎたころから上空から下流側にかけてウンカのごとくぎっしりと飛び回っていた。ねぐらは下流側に移動した。ねぐらの位置は釣り堀池北側の⑤付近か？
8月8日	10000羽以上	釣り堀池北側①及び⑤	①日没ごろに釣り堀池周辺及び上空に集まり始め、その数がどんどん増え、19時頃には上空に大きな塊ができた。その後池の北側上空を乱舞し、19時7分ごろから10分にかけて⑤から①周辺にねぐら入りした模様。
8月18日 8月19日	10000羽	⑤及び⑦ 釣り堀池北側	8月18日に観察広場で観察したが、上空には飛来せず、はるか下流の上空を飛び回るツバメが見えた。そこで19日に釣り堀池手前の河原で観察した。日没後の18時35分ごろから池の下流側上空を飛ぶツバメが見られた。50分ごろその数がピークに達し、55分ごろには池の奥あたりにねぐら入りした。
8月21日	20000羽？	⑤及び⑦ 釣り堀池北側	18:20ごろから河原の上空に集まりだし、どんどん数が増える。雲が濃くて、ツバメの群れは見にくいが見渡され、粕谷さんは2万羽くらいいるとの評価でした。18時40分ごろ急に見えなくなり、ねぐら入りした模様。
8月28日	—	確認できず	ねぐらの近くで観察するも、日没時にツバメが飛来せず。はるか上流の方に少し飛んでいるのが見えるも増えず。見えるのはコウモリがほとんどだ。50羽ぐらいのツバメが上流から頭上すれすれを飛び下流に飛んだがそれ以上飛来せず。ねぐらがまたもや移動したか多くが南にわたった模様。
9月10日	少数が飛来	確認できず	17時57分の日没前は3羽が飛んだのみ。日没後は10羽未満の小集団が数回上流側から下流に向かって飛来したが、確認できたのは100羽以下であった。多くが旅立ったと思われる。移動したが場所は不明。今日で今年のねぐら入り観察は終了します。



ツバメの集団ねぐら位置図

(2021年は⑤→③→⑤⑦を利用した。最後はどこに移動したかは確認できなかった。)

2021年八王子駅周辺 3km 四方ツバメの巣調査結果

報告： 粕谷 和夫

都市鳥研究会は、東京駅を中心とした 3km 四方の範囲のツバメの巣を 5 年おきに実施している。この調査を参考に JR 八王子駅を基点とし、東西及び南北に 1.5km (延長 3km) の線を引いて結ばれた 3km 四方 (9 平方 km) の正方形の区域を調査範囲としてツバメの巣の調査を行った。この調査は 2001、2006、2011、2016 年に続き 5 回目である。ツバメの巣の位置は生物データベース iNaturalist に記録した。

1. 調査の実施時期、調査方法、調査頻度、調査対象の巣の定義

調査は 2021 年 4 月 3 日から 8 月 17 日までの間に行った。本会の会員が巣の探索から始まり、巣のある現場に出向き、視認調査、大家さんからの聞き取り調査を行った。踏査は徒歩又は自転車で行った。ツバメの営巣行動は巣作り、巣の修復、巣への出入り、抱卵、給餌、巣立ち、あるいは途中放棄等刻々と変わるので、できる限り何回も踏査するようにつとめた。調査回数は延べ約 300 回であった。頻度は調査する会員の事情により異なり、同一の巣を最高 8 回観察したものもあったが、平均すると 1 巣当たり 4.6 回 (300÷65) であった。

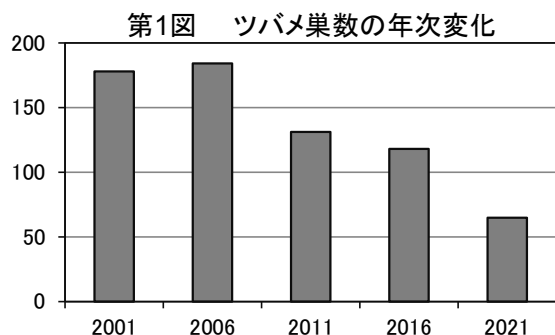
利用していない古巣や巣への親の出入りがあっても途中で放棄してしまうものがあるので、この調査では抱卵以降の行動が確認されたものを「本年利用した巣」として調査カウントの対象とした。したがって利用していない古巣や造巣を始めても抱卵に至るまでに破壊、又は放棄された巣は調査カウントの対象にしなかった。これは 2001 年以降の各回とも同じ基準である。

2. 調査参加者

本調査に参加を意思表示した会員が自主的に取り組んだ。調査参加者は、小澤礼子、粕谷和夫、門口一雄、対中義雄、浜野建男、浜野知恵子、山崎悠一、渡辺正樹の 8 名であり、それぞれの担当地域を決めて実施した。この他にツバメの巣の位置が記録された iNaturalist からの位置図の作成を渡辺仁が担当した。

3. 見つかった巣の数

2021 年にツバメが利用した巣の数は 65 であった。町別内訳は 第 1 表 のとおりで、中野上町が 16 で最も多く、次いで大和田町であった。2001 年からの推移を見ると 第 1 図のとおりで、減少傾向が続いていて 5 年前と比べて 55%、15 年前と比べると 35%に減少した。



(第1表) ツバメの巣の町別内訳

町別	2001	2006	2011	2016	2021
暁町	6	10	5	13	4
上野町	2	2	1		1
打越町	13	22	12	6	11
大横町	3	7	1		
大和田町	16	26	7	28	14
小門町	5	2			
片倉町	21	8	2	2	
北野町	14	7	11	2	1
小比企町	9	7	3	5	1
子安町	5	11	2	4	3
新町		3	1	1	
台町	7		6	2	
田町	3	3	4	2	
寺町	1		2	1	3
天神町			1		
中野上町	22	25	30	26	16
八幡町		3			
平岡町	3	5	3	5	2
富士見町	1	1			
本郷町	1	1			
本町	7	2	3	3	
緑町	2	2			
南町	1		2	2	1
南新町	1	1	1	1	
明神町	7	11	9	4	4
元本郷町	16	5	5	2	2
元横山町		15	18	6	
八日町		1			
横山町	1	2	1	2	
万町	11	2	1	1	2
計	178	184	131	118	65

4. ツバメが営巣した建物の数

営巣した巣数は 65 であるが、一つの建物に 2 巣以上の巣があった建物、同じ建物の巣で 2 番子が営巣したものもあるので、ツバメが営巣した建物の数は 65 を下回る。ツバメが実際に営巣した建物のネットの数は第 2 表のとおり 60 で、1 巣だけの建物が 49 と 82%を占めた。

(第2表)同一建物内巣数

1建物中の巣数		割合
1巣	49	81.7
2巣	6	10
3巣	4	6.7
4巣	1	1.7
5巣	0	0
6巣	0	0
不明	0	0
計	60	100

5. ツバメの巣があった建物の種別、建物の階数

巣があったところは個人住宅が最も多く 35%、次いで店舗が 19%であった。巣のある階数は 1 階が最も多く 91%を占めた。

(第3表)建物の種別

建物種別	巣数	割合
個人住宅	23	35.4
集合住宅	8	12.3
店舗	12	18.5
集会所等	8	12.3
事務所等	7	10.8
学校等	2	3.1
車庫	0	0
駅舎	4	6.1
ビル	0	0
その他	1	1.5
計	65	100

(第4表)巣のある階数

階	巣数	割合
1階	59	90.8
2階	4	6.2
3階	0	0
地階	1	1.5
ガード下	1	1.5
不明	0	0
計	65	100

6. ツバメの巣の位置（巣の外見）

近年、ツバメは天敵のカラスなどから巣を守るために外から見えない所に巣を作るようになったといわれている。2016 年と比べると「外から見える巣」が大幅に減少した。ただし、打越町 1 と打越町 4 と打越町 9 の 3 箇所は、人間には「外から見える」ものの、カラスは構内まで入ってこないカラスからは「見えない」位置なのではないかと推定される。

(第5表)巣が外から見えるか

巣の外見	2006年		2011年		2016年		2021年	
	巣数	割合	巣数	割合	巣数	割合	巣数	割合
巣が外から見える	75	41%	43	33%	70	59%	22	33.8%
巣が外から見えない	109	59%	72	55%	47	40%	43	66.2%
不明			16	12%	1	1%	0	
計	184	100%	131	100%	118	100%	65	100%

7. ツバメの巣立ち雛数

1 巣のうち、巣立ちが確認できた巣は 27 巣であった。1 巣当りの巣立ち雛数は 4 羽が最も多く、44%、であった。1 巣当りの平均巣立ち雛数は 3.9 羽で、2016 年と殆ど変わらなかった。

抱卵後に途中破壊された（放棄した）巣は 8 巣あった。その原因はカラスによるものが多いと推定される。

(第6表) 巣立ち雛数

巣立ち雛数	2006年		2011年		2016年		2021年	
	巣数	割合	巣数	割合	巣数	割合	巣数	割合
1	1	1%	2	3%	1	2%	1	4%
2	5	7%	2	3%	1	2%	2	7%
3	13	17%	18	31%	18	38%	4	15%
4	29	38%	20	35%	15	31%	12	44%
5	26	34%	13	23%	12	25%	7	26%
6	1	1%	3	5%	1	2%	1	4%
7	1	1%			0		0	
小計	76	100%	58	100%	48	100%	27	100%
1巣当たり平均巣立ち雛数	4.1		3.8		3.8		3.9	
巣立ったが巣立ち雛数不明	30		35		12		3	
途中で放棄した	22		9		10		8	
巣立ったかどうか不明	56		29		48		27	
計	184		131		118		65	

8. 2番子の巣立ち

1つの巣で1回だけ巣立った巣の雛は巣立ち時期に関係なく全て1番子とした、1番子が巣立った同じ巣で2回目の雛が巣立った巣の雛は2番子とした。その数は第7表のとおり7巣(11%)であった。2番子の親が1番子の親と同じかどうかは個体識別していないので、不明である。本年は3番子が巣だった巣が1巣あった。

(第7表) 巣立ちの1番子、2番子別

	巣数	割合
1番子	57	87.7%
2番子	7	10.8%
3番子	1	1.5%
計	65	100%

9. ツバメの巣立つ時期

巣立ち時期が確認された巣は30巣であった。時期別内訳は第8表のとおりである。6月に巣立つものが多く、7月、8月になっても巣立ちが続いている。

(第8表) 巣立った時期

	巣立ち時期	2006年		2011年		2016年		2021年	
		巣の数	割合	巣の数	割合	巣の数	割合	巣の数	割合
巣立った	4月下旬	1	1%						
	5月上旬							2	6.7%
	5月中旬	3	4%					5	16.7%
	5月下旬	8	12%	2	3%	6	10%	2	6.7%
	6月上旬	14	21%	7	11%	14	24%	5	16.7%
	6月中旬	10	15%	8	13%	9	16%	5	16.7%
	6月下旬	8	12%	8	13%	8	14%	6	20.0%
	7月上旬	3	4%	7	11%	5	9%		
	7月中旬	6	9%	9	15%	6	10%	3	10.0%
	7月下旬	13	19%	9	15%	3	5%	1	3.3%
	8月上旬	1	1%	11	18%	3	5%	1	3.3%
	8月中旬	1	1%			4	7%		
	8月下旬			1	1%				
	小計		68	100%	62	100%	58	100%	30
巣立ち日不明		38		31		2		0	
途中で放棄した		22		9		10		8	
巣立ったかどうか不明		56		29		48		27	
計		184		131		118		65	

10. ツバメの巣一覧

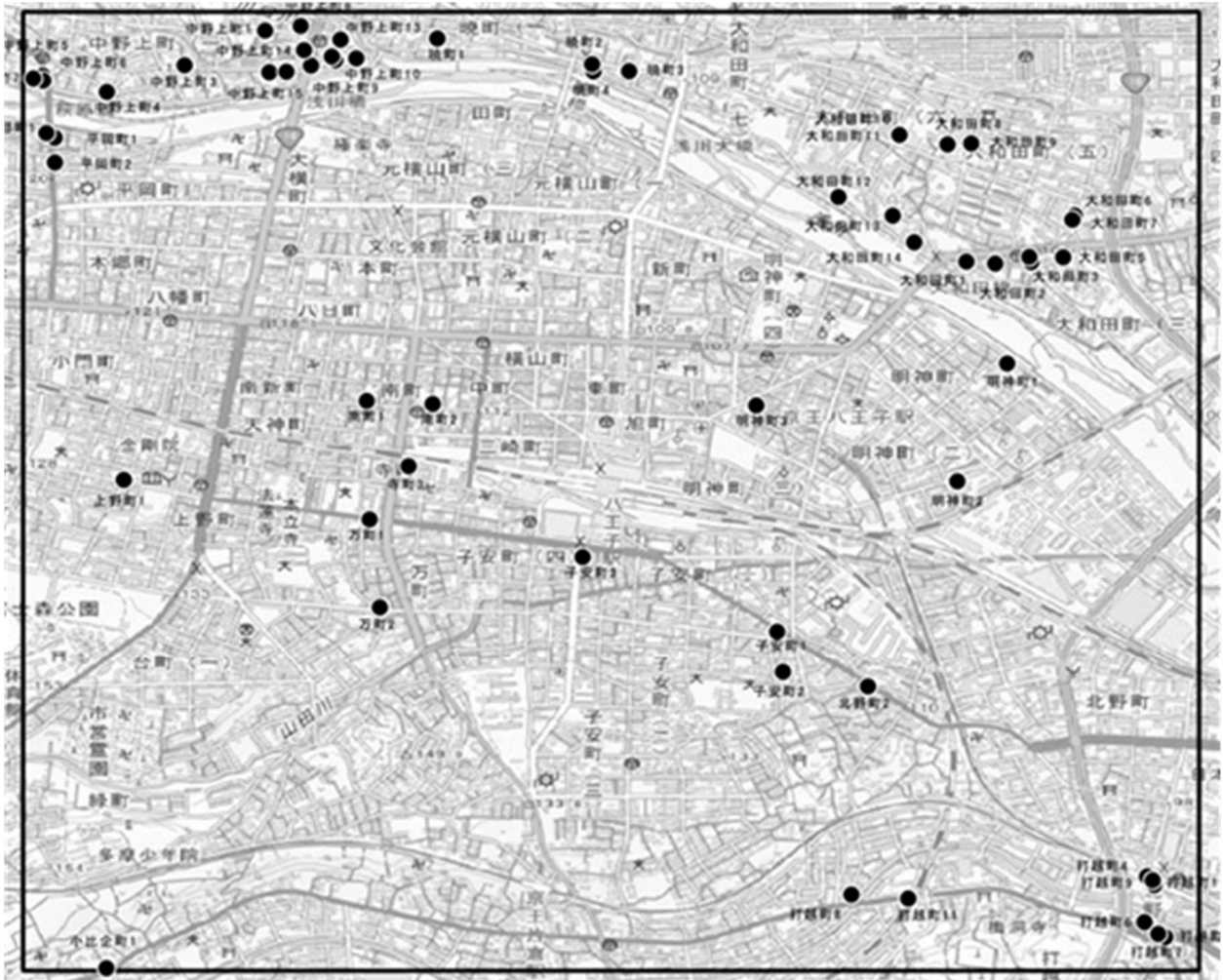
(第9表)2021年 ツバメの巣調査結果(JR八王子駅3km四方)

番号	観察期間	観察回数	巣のある町名、番地等	建物の種別	巣のある場所	巣のある階	同一建物内巣数	外から巣が見えるか	一番子営巣	二番子営巣	三番子営巣	巣立時期	巣立ち雛数	特記事項
暁町-1	4/18~5/30	4	暁町1-9-12	個人住宅	玄関	1	1	×	●			5月中旬	不明	
暁町-2	5/8~6/18	5	暁町1-1-19	個人住宅	車庫	1	1	×	●			6月上旬	4	
暁町-3	5/8~6/18	5	暁町2-19)	個人住宅	玄関	1	1	○	●			6月上旬	3	古巣を利用
暁町-4	5/30~6/30	3	暁町1-2-12(店)	店舗	庇	2	1	×	●			6月下旬	不明	
上野町1	5/29~7/14	2	上野町69-5	集合住宅	駐車場	1	1	○	●			不明	不明	
打越町1-1	4/26~6/5	5	打越町335-1(北野駅構内)	店舗	店の側面(ガラス張り)の上部木枠内	1	3	○	●			6月上旬	4	4/26、5/10抱卵中、5/14雛1羽確認、5/24雛4羽確認
打越町1-2	6/5~6/28	2	同上	同上	同上	同上	同上	同上		●		不明	不明	6/5抱卵中
打越町1-3	6/23~7/14	3	同上	同上	同上	同上	同上	同上			●	不明	不明	6/23抱卵中、6/30雛1羽確認、7/14既に巣立った
打越町4-1	5/14~6/30	4	打越町335-1(北野駅1Fエントランス)	駅舎	案内看板の上	1	3	○	●			6月下旬	5	5/14巣作り中、5/24抱卵中、6/5抱卵もしくは給餌、6/23大きなヒナ5羽を確認、6/30前日までに巣立った模様
打越町4-2	7/28~8/3	2	同上	同上	同上	同上	同上	同上		●		不明	不明	7/28抱卵中、8/3親が巣の端に止まっている
打越町9	5/24~7/14	5	打越町335-1(北野駅構内)	店舗	店の側面(ガラス張り)の上部木枠内	1	3	○	●			7月中旬	3	6/23抱卵中、6/30雛3羽確認、7/14既に巣立った
打越町3	5/10~6/30	6	打越町1183-1	医院	入り口付近頭上壁面	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	5/10、5/14抱卵中、5/24餌やり、6/30放棄確認
打越町6	5/14~6/23	4	打越町1193-1(野猿街道打越交差点そば)	店舗	入り口屋根の下	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	5/14抱卵中、5/24、6/5、6/23巣に親無し
打越町7	5/14~6/30	5	打越町1183-7	集合住宅	入り口付近壁	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	6/5、6/23抱卵中、6/30巣に親無し
打越町8	5/14~7/14	4	打越町2116	個人住宅	玄関ポーチ上部	1	1	×	●			6月中旬頃	6	5/14抱卵中、6/29既に6羽巣立ったとのこと(10日前)
打越町11	2021/6/30	1	打越町(横浜線と北野街道が交差するガード)	その他	ガード下	ガード下	1	○	●			不明	不明	6/30巣があり、フンもたくさん落ちていた。既に巣立った模様。
大和田町1	5/3~8/17	8	大和田3-21-2	集合住宅	玄関	1	1	○	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16以降は巣が空(放棄した模様)
大和田町2	5/3~8/17	8	大和田3-21-7	事業所	車庫	1	1	×	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16以降は巣が空
大和田町3	5/3~8/17	8	大和田3-21-1	事業所	玄関	1	1	○	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16餌運び、7/11以降は巣が空
大和田町4	5/3~8/17	8	大和田3-20-15(八王子大和田郵便局)	事業所	排気口の上	1	1	○	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16餌運び、7/11以降は巣が空
大和田町5	5/3~8/17	8	大和田3-20-4	個人住宅	壁面	1	1	×	●			不明	不明	6/16抱卵中、7/11以降は巣が空
大和田町6	5/3~8/17	8	大和田5-9-1(大和田市民センター)	事業所	車庫	1	2	×	●			不明	不明	くみ美容室
大和田町7	5/3~8/17	8	大和田5-9-1(大和田市民センター)	事業所	車庫	1	2	×	●			不明	不明	6/16抱卵中、7/11以降は巣が空
大和田町8	5/3~8/17	8	大和田6-12-9	店舗	軒先	1	3	○	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16餌運び、7/11以降は巣が空(周囲でツバメ飛翔)
大和田町9	5/3~8/17	8	大和田5-14-7	個人住宅	軒先	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	6/4抱卵中、6/16放棄(原因不明)、7/11以降は巣が空
大和田町10	5/3~8/17	8	大和田6-13-9	個人住宅	軒先	1	1	○	●			6月下旬	4	6/4抱卵中、6/16餌運び、7/11大家さんから6/24に4羽巣立ちを聞く
大和田町11	5/3~8/17	8	大和田6-13-9	個人住宅	軒先	1	1	○	●			7月中下旬	1	7/15雛が2羽落ちた、8/3大家さんから7/17に1羽巣立ちを聞く
大和田町12	5/3~8/17	8	大和田6-2-5	個人住宅	軒先	1	1	○	●			不明	不明	5/22抱卵中、6/4餌運び、6/16巣の下に糞、7/11以降は巣が空
大和田町13	5/3~8/17	8	大和田6-1(カレッジタウン)	集合住宅	車庫	地下	2	○	●			不明	不明	6/4抱卵中、6/16餌運び、7/11以降は巣が空
大和田町14	5/3~8/17	8	大和田6-1-1(ホテルニューグランド)	事業所	車庫	1	1	×	●			不明	不明	私有地なのでトラックの駐車場だが入れなかった
北野町2	2021/6/16	1	北野町197(野猿街道)	医院	玄関	1	1	○	●			不明	不明	6/16抱卵中

番号	観察期間	観察回数	巣のある町名、番地等	建物の種別	巣のある場所	巣のある階	同一建物内巣数	外から巣が見えるか	一番子営巣	二番子営巣	三番子営巣	巣立時期	巣立ち雛数	特記事項
子安町1	6/5~6/16	2	子安町1(野猿街道子安5差路附近)	個人住宅	車庫	1	1	○	●			6月中旬	3	6/5雛3羽有り、6/16巣立ち直前の雛3羽有り
子安町2	2021/6/16	1	子安町2-10(野猿街道子安5差路附近)	個人住宅	車庫	1	1	×	●			不明	不明	人工巣の利用、6/16巢中に雛3羽有り
子安町3	6/5~6/16	2	子安町4-9(JR八王子駅南口大通り)	店舗	車庫	1	1	×	●			不明	不明	6/5、6/16雛3羽有り
小比企町1	2021/7/9	1	小比企町(北野街道に面した老人ホーム)	老人ホーム	ベランダ	1	1	○	●			不明	不明	7/9雛にエサを運んでいた。
寺町3-1	2021/8/19	1	寺町39	葬儀場	車庫	1	1	○	●			5月上旬	不明	8/19聞き取り、5月上4旬巣立ち
寺町3-2	2021/8/19	1	寺町39	葬儀場	車庫	1	1	○		●		8月上旬	4	8/19聞き取り、8月上旬巣立ち
中野上町-1	4/18~5/30	4	中野上町1-5-17	個人住宅	玄関	1	1	○	●			5月中旬	4	
中野上町-2	4/18~5/30	4	中野上町1-8-15	集合住宅	廊下	2	1	×	●			不明	不明	
中野上町-3	4/18~5/30	4	中野上町1-13	個人住宅	玄関	1	1	○	●			5月中旬	5	
中野上町-4	4/18~6/18	5	中野上町1-	保育・幼稚園	テラス	1	4	×	●			不明	不明	巣の数は推定
中野上町-5	4/18~6/30	5	中野上4-1-1	個人住宅	玄関	1	1	○	●			5月上旬	5	
中野上町-5	4/18~6/30	5	中野上4-1-1	個人住宅	玄関	1	1	○		●		6月下旬	4	
中野上町-6	4/18~6/18	5	中野上4-1-5	店舗	玄関	1	1	○	●			6月中旬	5	大家さん歓迎
中野上町-7	5/8~6/18	4	中野上4-1-10	個人住宅	玄関	1	1	×	●			不明	不明	
中野上町-8	5/8~5/30	2	中野上2-1-3	事業所	玄関	1	1	×	●			不明	不明	
中野上町-9	5/8~5/23	3	中野上町1-1	店舗	車庫	1	1	×	●			5月下旬	5	
中野上町-10	4/3~5/29	数回	中野上町1-2	老人ホーム	ベランダ	2	2	○	●			5月中旬	4	
中野上町-11	5月下旬~6月下旬	数回	中野上町1-2	老人ホーム	ベランダ	2	2	○		●		6月下旬	5	
中野上町-12	4月上旬~5月下旬	数回	中野上町1-3	個人住宅	庇下	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	ヒナ5羽いたが全て死亡
中野上町-13	4/3~5月下旬	数回	中野上町1-3	個人住宅	庇下	1	2	○	●			途中放棄	途中放棄	2巣とも抱卵後放棄
中野上町-14	4/24~5/16	2	中野上町1-7	個人住宅	庇下	1	1	○	●			途中放棄	途中放棄	抱卵後放棄
中野上町-15	4/3~5月下旬	数回	中野上町1-8	集合住宅	車庫	1	1	×	●			途中放棄	途中放棄	
平岡町-1	4/18~5/30	4	平岡町36-3	教会	玄関	1	1	○	●			5月下旬	4	
平岡町-2	4/18~6/30	2	平岡町39	個人住宅	車庫	1	1	○	●			6月下旬	4	
明神町1	4/30~6/16	8	明神町1-9-20	保育・幼稚園	駐車場	1	1	○	●			6月中旬	5	6/3、6/6、6/9、6/12、雛5羽有り、6/16前日に巣だった(聞きとり)
明神町2	6/28~7/15	3	明神町2-2-8	集合住宅	店舗	1	1	×	●			7月中旬	2+	7/5雛2羽以上有り、7/15巣立ち後だった。
明神町3-1	6/1~6/3	2	明神町3-27(京王八王子駅)	駅舎	駅中央出口	1	1	○	●			6月上旬	4	6/雛4羽有、6/3前日に巣だった。
明神町3-2	6/9~7/26	7	同上	同上	同上	同上	同上	同上		●		7月下旬	2	6/22、6/23、6/28抱卵中、7/15、7/20雛2羽有り、7/26巣立ち後
元本郷町-1	4/18~6/18	5	元本郷町1-27-8	個人住宅	玄関	1	1	○	●			5月中旬	4	
元本郷町-2	4/18~6/18	5	同上	同上	同上	同上	同上	○		●		6月中旬	4	
南町1	5/14~6/5	3	南町8	集合住宅	車庫	1	1	○	●			6月上旬	3	5/28抱卵中、6/5巣立ち直前の雛3羽有り
南町2	7/11~7/23	2	南町1-3(三崎通り)	店舗(商業ビル)	入口	1	1	×	●			不明	不明	7/11、7/23雛4羽有り
万町1	2021/5/23	1	万町(第3小学校前)	店舗	車庫	1	1	×	●			不明	不明	5/23抱卵中
万町2	2021/5/23	1	万町97	個人住宅	車庫	1	1	×	●			不明	不明	5/23抱卵中
計		65							58	7	1			

1 1. ツバメの巣の位置図

第 9 表を iNaturalist を使って地図上にマッピングしたものが下図である。八王子駅の北側を東進する浅川沿いに巣が多いことが明瞭である。また、駅の南側に東西に線状に点在している巣は野猿街道沿い、右下の小さな塊の部分は湯殿川沿いの京王北野駅とその近くである。



1 2. 調査に参加した会員のコメント

調査参加者のうち、6 名から以下のようなコメントが寄せられた。

山崎悠一：これまで、2006 年、2011 年、2016 年とツバメの巣調査に参加した。これまでの 5 年ごとの調査では、自分の活動状況を主体に、八王子市内でも自宅近くのツバメの巣を調査したのに対して、2021 年は私の自宅からは遠い大和田町（1 丁目から 7 丁目）と富士見町を担当した。

したがって私の活動も、2021 年は担当地域のツバメの様子に合わせて出掛けることとしたのが、今までの 5 年ごととは異なる。

4 月には路地りまで踏み込みツバメの様子を観察しながら歩いたが、「抱卵」又は「巣内の雛への給餌」又は「巣立が確認された巣」を見つけることはなく、記録的には空振りが多くなった。しかし昨年までの巣の場所確認と共にツバメの好みの巣の場所確認ができた時期でもある。5 月以降 8 月までの時期には、巣の様子を見ることと大家さんとのコミュニケーションを増やすことで、ツバメに関する仲間意識を醸成した時期でもありかつ、ツバメの巣立日付の記録にも役立った。

門口一雄：4つの町を担当したが、調査を始めた時期が遅かった為か、探し当てた巣の数は少なかった。
横山町等の町場では、電線に止まる巣立雛がおるのに巣の場所が確認出来ないもどかしさが残る調査だった。

渡辺正樹：初めてのエリアなので苦労しました。驚いたのは京王八王子駅のメインの出入口のすぐ上に巣があったことです。下を一日何万人もの乗客が通行している場所です。人間を頼りにしているのがよく分かりました。

浜野建男、浜野知恵子：玄関ポーチに営巣していた個人宅では毎年来て何度か抱卵しているとのことで、大切にされていた。クリスマスのキラキラした飾りを吊り下げあり、そうすると「スズメもカラスも来ない」とのことで 新たな発見であった。



<クリスマスのような飾り>

粕谷和夫：イソヒヨドリが増えたため、その調査と重なり、ツバメの巣調査に向けられる時間があまり多く取れなかった。ツバメの巣を探すのは結構難しく、飛んでいるツバメを追跡しても巣にたどり着けないケースがある一方で、こんな所に巣があったのかと巣に出合って驚いたケースもあった。ツバメが前年の巣に帰って来たが抱卵までに至らなかった巣が2巣あった。人工巣を利用した巣が一つあり、巣中に雛がいた。



<人口巣>

2022年1月に多摩川・多摩大橋下流にコハクチョウ3度飛来

報告： 福本 健

2022年1月9日に多摩川の下流にコハクチョウが飛来したとの情報で確認に行くと、下流約400mの河川工事現場近くの淀みに8羽のコハクチョウが泳いでいました。休日で工事が行われておらず、近くで見られました。8羽とも親鳥でした。工事が再開されると飛び去るのではないかと思っていました。しばらく逗留していました。

1月12日の多摩川・谷地川合流点定期カウントの日にスタート地点のJR中央線鉄橋付近で8時ごろ上流の方を見ていたら、突然コハクチョウ8羽が飛び立ち、奥多摩の方向に飛んで行くのを皆で観察しました。

偶然にも1年前の1月8日の同じ定期カウント中にも河原を移動中、上流からコハクチョウ8羽が飛来し、地上に下りたと思ったらすぐ飛び立ち、奥多摩の方に飛び去りました。

今年2022年の冬またコハクチョウに出合えるとは予想していませんでしたが、コハクチョウが同じ場所に来ているとの情報で1月17日に見に行くと、河川工事現場の下流の中洲に5羽の親のコハクチョウがいて、浅瀬で水中に首を突っ込み採餌し始めました。その後もしばらく周辺にいたようでした。

1月24日にコハクチョウがまた8羽来ているとの情報があり、河川工事現場下流の中洲の奥の水路に8羽が隠れるように休んでいるのが確認できました。1月30日には近くで見られ、中洲に上がり草を食べていました。8羽の中に頭の黒っぽい若鳥が1羽混じっていました。1月9日に見た8羽はすべて親鳥でしたから、明らかに違うグループと思われます。ひょっとしたら最初の8羽と、次の5羽と最後の8羽はすべて違うグループの可能性もあります。

8年前の2014年2月にも多摩川の日野橋下流に8羽（うち6羽が若鳥）が飛来し、翌朝飛び去りました。

これからも多摩川にコハクチョウが来てくれることを期待します。



2022年1月9日



2022年1月12日



2021年1月8日



2021年1月8日



2022年1月17日



2022年1月17日



2022年1月30日



2022年1月30日草を食べる



2014年2月3日



2014年2月3日

2021年「我が家の庭に来た野鳥」調査結果

まとめ： 加藤 岸男

(1) 概況

1992年（平成4年）から開始したこの調査は、今回で30回目となります。参加庭数は昨年と同じ24庭でした。この調査への参加率は10%程度。参加庭数（調査報告者）の確保に難儀することが続いています。

今年は、「会員の庭及びその付近に来た野鳥の種類数」（第1・3表）の総数は46種でわずかに増えましたが顕著な増加ではありませんでした。郊外・戸建の種類数は、42種→37種→42種、そして今年は44種。増加傾向、とは言えない状況です。

「1庭当りの平均飛来種類数」（第2表）は、集合住宅のサンプル数が少なく傾向を把握しにくいのですが、市街地及び郊外の戸建を見ると、特に変化はありませんでした。

また、「我が家の庭で繁殖した野鳥」（第3表下欄）の事例報告は、24例と昨年より2例増えました。新たにモズが加わりましたが、繁殖種数は6種に減少しました。

(第1表) 2021年 会員の庭及びその付近に来た野鳥の種類数(20・19年との対比)

区分	市街地									郊外									総合計		
	戸建			集合住宅			累計種類			戸建			集合住宅			累計種類					
年	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19
調査数	4	5	5	3	2	2	6	7	7	15	15	18	2	2	1	17	17	19	24	24	26
●	19	19	21	13	8	9	22	20	21	29	24	29	21	22	19	30	28	30	32	28	30
○	4	10	10	10	11	9	6	11	11	15	17	8	6	4	1	14	13	9	14	14	12
合計	23	29	31	23	19	18	28	31	32	44	41	37	27	26	20	44	41	39	46	42	42

※自宅庭(●)とその付近(○)ともに来た場合は、自宅庭(●)を優先してカウントした。

(第2表) 2021年 1庭当りの平均飛来種類数(20・19年との対比)

区分	市街地									郊外									総合計		
	戸建			集合住宅			累計種類			戸建			集合住宅			累計種類					
年	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19	21	20	19
調査数	4	5	5	3	2	2	6	7	7	15	15	18	2	2	1	17	17	19	24	24	26
●	11	12	12	8	7	7	10	10	11	12	11	11	15	16	19	12	11	11	12	11	11
○	5	6	7	7	7	7	6	6	8	8	9	8	5	5	1	7	9	8	7	8	8
合計	16	17	19	15	13	14	15	16	17	20	20	19	20	20	20	19	20	19	19	19	19

※種類数欄(● ○)の数値は平均(四捨五入)を表す。

(2) 第3表から分かる種類別出現状況

○これまで30回の調査で確認された種数は90種(含、外来種5種)でしたが、91種目となるカオグロガビチョウが加わりました。日野市です。

○全24庭で見られたのは、シジュウカラ、ヒヨドリ、スズメの3種でした。キジバトとジョウビタキは自宅付近での観察を加えると全庭で観察されています。

○特筆すべきは、ツミが3庭で、コシアカツバメが1庭、サンショウクイ(リュウキュウと思われる)が3庭、カワセミが1庭、セッカが1庭、キビタキも1庭で復活等です。イソヒヨドリの3庭は全て集合住宅でした。

○給餌台の設置数は減少し33パーセント。また、設置の有無での有意差は見られません。

(第3表) 2021年・我が家の庭に来た野鳥調査結果と我が家で繁殖した野鳥

住居位置区分	市 街 地										郊 外										庭数 合計								
	戸 建					集 合					戸 建					集 合													
	岡本	荻島	粕谷	小池	庭数小計	浅野恵美子	小川圭太	高梨規子	庭数小計	新井洋子	加藤岸男	門口一雄	門倉美登利	管野桂子	関谷孝	玉手しのぶ	千葉横子	中村后子	浜野建男	浜田早苗		福本健	三森美枝子	宮本真理	山崎悠一	庭数小計	岡田浩郎	佐藤哲郎	庭数小計
八:八王子 拜:拜島 武:武蔵府中	武0H	拜4A	八6J	一男	4	武3C	武3K	八6J	3	八5H	八3G	八7G	八4K	武4K	八3G	八6F	八3H	八8F	八1A	立1B	立1B	八2G	八3G	八9G	15	八0G	武2E	2	
メッシュ位置	無	有	有	無	2	無	無	有	1	無	有	無	無	有	無	無	有	無	無	有	有	無	無	無	5	無	無	設置8	
我が家の庭に来た野鳥	032 カルガモ	○			1																			1				2	
	074 キンバト	●	●	○	●	4	●	●	●	3	●	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	●	●	2	24	
	144 アオサギ																		○					1				1	
	185 ホトキス										○		○		●	○	○							○	6	○	1	7	
	342 トビ						○			1					○	○	○	○	○						5			6	
	354 ツミ							○		1					●										1	●		3	
	368 ゴシアカツバメ																			○					1			1	
	390 ユケラ				●	1	○			1	●		●		●	●	○	○	●	○		●		●	10	●	●	2	14
	374 アオバスク											○													1			1	
	383 カリセミ																			○					1			1	
	397 アオケラ														○			○		○		○	●		5			5	
	412 サンショウクイ														○					○					3			3	
	420 モズ	○	●		●	3					○	●	○		●	●	○	●		○	○	○	○	○	12		●	1	16
	429 オナガ	○	●		●	3					●							○	○	○	○		●		6	●		1	10
	435 ハンボウガラス	●	●	●	●	4	●	●	○	3	●	●	○	○	●	●	○	●	●	○	○		●	○	14	●	●	2	23
	436 ハシロガラス		○	○	●	3	●		●	2	○	●	○		○		○	●		○	○			●	10	●	●	1	16
	442 ヤマカウ											○	●		●	○	○					●	○	○	8	●		1	9
	445 シジュウカラ	●	●	●	●	4	●	●	●	3	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	●	●	2	24
	457 ツバメ	○			○	2	○	●	○	3	○	○	○		●	○	○	○		○	●		○	○	12	○		1	18
	461 イワツバメ																								1	○		1	2
	463 ヒヨドリ	●	●	●	●	4	●	●	●	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	●	●	2	24
	464 ウグイス		○		●	2	○			1	●	○	○		●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	13	●	○	2	18
	466 エナガ				●	1	○			1	●	●	●		●	●	○	●	●	○	○	○	○	○	12	●		1	15
	485 メジロ	●	●	●	●	4	○		●	2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14	●	●	2	22
	499 セッカ														○										1			1	
	506 ムクドリ	○	●	○	●	4	○	●	●	3	●	○	○	○	●	●	○	●		●	●		●	○	12	●	●	2	21
	521 シロハラ						○			1	○									○			●		2	●		1	4
	525 ツグミ		●	○	●	3	○		●	2	●	●	●		○	○	●			○	○		○	○	9	○		1	15
	536 ルビビ																●								1			1	
	540 ショウビ	●	●	●	●	4	○	●	●	3	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	15	●	●	2	24
	549 イソヒヨドリ							●	○	2																	●	1	3
	558 キビ																								1			1	
	569 スズメ	●	●	●	●	4	●	●	●	3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	15	●	●	2	24
	573 キセキレイ				●	1																	○		2			3	
	574 ハウセキレイ	○	●	○	○	4	○			1	○	●	○	○	●		○	○	●		○	●		○	11	●	●	2	18
575 セグロセキレイ		○		○	2		●	○	2								●				○			2			6		
587 カラセリ				●	1					●	○	○		○	○	○	●		○		○		●	12			13		
600 シメ																			○		○			2	●		1	3	
602 イカル												○								○		○		4			4		
610 ホオジロ										○		○									○			4			4		
617 カンダカ											○													1			1		
624 アオジ										●					○		○					○	●	6			6		
901 コジュケイ						○			1	○	○						○		○					4	○		5		
903 カラハバ(ドバト)	○	●		●	3	○			1			○							○	○				3	●	○	2	9	
908 カオグロガビチョウ																					○			1			1		
909 ガビチョウ	○				1	○			1	●	●	○	○	○	●	●	●		○	○	○	○	○	14	○	○	2	18	
種類計 ●	7	13	6	18	11	6	10	9	8	16	14	14	5	11	17	10	12	15	11	7	10	11	12	14	12	18	13	15	12
種類計 ○	7	4	5	3	5	15	1	4	7	6	11	9	3	5	10	9	12	3	20	8	10	5	5	8	3	6	5	7	
●○合計	14	17	11	21	16	21	11	13	15	22	20	25	14	14	22	20	21	27	14	27	18	21	17	19	20	20	19	19	
※412サンショウクイは、亜種リュウキュウサンショウクイと思われる。																													
自宅庭で繁殖した鳥	表の見方 上表●のうち、①営巣巣立ち ②営巣途中放棄 ③親子連れ来庭 ④その他																												
074 キンバト	②	②		②	3					①																1		4	
420 モズ														①												1		1	
445 シジュウカラ										③		①		①		②	①	①	③	①				③	9			9	
463 ヒヨドリ			③		1			④	1			①												③	2			4	
466 エナガ																				③					1			1	
569 スズメ						①			1	①													③	3				4	
合計①②③④	1	1	1	1	4		1	1	2	3		2	1	1		1	1	1	3	1			3	17			24		

※住居位置区分 市街地と郊外との区分の定義が不明確なため、報告者の判断による。

※給餌台設置の有無 「有」は“台”として固定的に設置したもの 時々ミカン等を与える場合や水場のみ場合は「無」

※種類計欄の数値は、●は各区分1件でも●があれば、●にカウントした合計、○は○のみの合計。(各庭平均飛来数は第2表を参照)

※「●」は1年間の内最低1回でも飛来した種 「○」は上記の庭の付近に飛来した種(例えば隣近所に来た種、声を聞いた種など)。

※自宅及び自宅付近ともに飛来した種は、自宅(●)を優先して表示している。

※自宅庭で繁殖した鳥は、営巣巣立ち→途中放棄→親子連れ来庭→その他の順に優先して表示

(3) トピックス(個人別調査報告書「特記事項」欄等)

- 岡本 キジバトが巣をかけたがすぐに放棄した。
- 荻島 キジバト、カラスが巣に侵入後に放棄した。
- 粕谷 ヒヨドリ、6/24に親子。庭で雛に餌やり。
- 小池 エナガ、6/10に9羽来庭。キジバト、ヒヨドリにジャマされ放棄。
- 小川 スズメ、階段の電灯で複数が営巣(5/1、鳥信で報告)。
- 高梨 ヒヨドリ、巣作りと思われる行動を始めてすぐに止めた。
- 新井 ガビチョウの番が、幼鳥が、来庭。コロナ禍での在宅生活を楽しませてくれた。シジュウカラの巣立ちを見たくて巣箱を掛けた。内覧に一度来たが…。
- 門倉 シジュウカラとヒヨドリが営巣して、巣立ち。羽数は不明。
- 管野 4/19、モズの営巣を確認。4/25に3羽巣立ち。来年も！と期待している。
- 関谷 12/22、ツミが柿の木に止まっていた。シジュウカラは5/11に巣立ち。
- 玉手 ワンワンと鳴くハシボソガラスは年間を通して観察された。
- 浜野 シジュウカラ、3/7に巣箱に入り、5/20に巣立ちを確認。
- 浜田 3/28にイカル、4/29にサンショウクイを確認。カワセミを5~6月に3回確認した。カワセミが来る環境ではないので、巣立ち雛が親を追って飛行訓練?
- 福本 カオグロガビチョウが裏庭で激しく鳴き、2羽が家の前の電線に飛んで来た。
- 岡田 シロハラは自宅ベランダから視認できたが、周辺には4羽もいた。4羽は初めて。

【特別報告】最南西端会員 沖縄県名護市在住宮島仁さんの庭に来る野鳥達

- ①シロガシラ ②メジロ ③シジュウカラ ④ヒヨドリ ⑤アオバズク ⑥アカショウビン
- ⑦サンコウチョウ ⑧サシバ ⑨ノゴマ ⑩アカガシラサギ ⑪ジョウビタキ(12月、庭で初認。沖縄では珍しい。)

(注 メジロやシジュウカラ等、亜種なのでリュウキュウやオキナワが付きます。)

居ながらにして1級探鳥スポットであることがわかります。

公開野鳥講座「中西悟堂と高尾山の鳥」の概要

講師： 中西悟堂研究家 西村眞一 様

報告： 門口 一雄

カワセミ会 35周年記念事業の一つである公開野鳥講座「中西悟堂と高尾山の鳥」が中西悟堂研究家の西村眞一先生を講師にお迎えし12月4日(土)子安市民センターで開催されました。

粕谷会長の挨拶： 今般カワセミ会が八王子市市民企画事業補助金を頂き「見る！聞く！歩く！高尾・浅川野鳥図鑑」を発行しました。これの評判がよく現在市内の書店で売れ行き第2位です。高尾山に野鳥が多いと言う事を世の中に知らしめたのは中西悟堂で、その研究の第一人者が本日の講師西村眞一さんです。また、これに先立ち30周年記念事業で発行した「八王子市・日野市 鳥類目録」では、口絵に使用した写真は会員が撮影したのですが、1枚(種)だけ会員以外の方にお問い合わせしました。それは、現在高尾山では見られなくなったアカショウビンの写真で、本日の講師西村眞一さんにお問い合わせいただきました。

以下は講座の内容です。

中西悟堂はどんな人物か（戦前の活動を中心として）

中西悟堂は明治 28 年 11 月 26 日（1895 年）石川県金沢市長町の生まれで、今年が生誕 126 年です。父親は中西悟堂が生まれてまもなく日清戦争の際の怪我がもとで亡くなり、母親とは生き別れとなった。金沢での生活は幼少期のみで、その後、調布の伯父中西悟玄のもとに引き取られ、伯父の祇園寺で育った。深大寺小学校に通いながら深大寺で修行しお坊さんの資格を得て、中西富嗣と名乗っていた名前を中西悟堂に代えた。文学的素養がありお坊さんの修行と並行して創作活動を行い、20 歳の時に歌集「唱名」をペンネーム赤吉で発行した。このようなことから、深大寺は中西悟堂ゆかりの地となる。

中西悟堂の本はネットで検索すると 600 冊ほどある。平凡社発行のアニマに 1976 年 4 月号（トキが表紙の雑誌）から悟堂が「愛鳥自伝」を連載する。中西のことを調べていくと 3 つの謎がある。①烏山では木食生活しているが住所が謎であったが、烏山時代に発行した同人誌「潤葉樹」（昭和 3 年発行）に書かれていた住所、「烏山 2008」で住所が分かった。②善福寺池を知った理由が謎。烏山から善福寺の「天徳温泉」に 4 里の道を歩いて通い、この辺りの風景と温泉の効能が気に入り昭和 4 年に引っ越した。善福寺池の近くに東京女子大学があるが、何故か東京女子大と深い関係があり、「東京女子大選」と印刷された原稿用紙を使用し文筆している。この辺りで 3 回引っ越し、2 回結婚しているが 2 回とも東京女子大卒業生である。③昭和 9 年 3 月 11 日に日本野鳥の会創設の座談会を丸の内の「陶々亭」で開いているが、その場所が謎であったが、古地図から日比谷公園の近くの中華料理店と分かった。

戦前の野鳥を取り巻く状況

当時の野鳥を取り巻く状況は飼い鳥全盛で「飼う」「捕る」「食べる」が中心で、各地に愛鳥会があり鳥を愛でる「日本鳥の会」という飼い鳥の会があった。当時、中西悟堂は虫にも興味があり「東京蟲の会」に入り、昭和 7 年に「蟲・鳥と生活する」を出版している。昭和 9 年に「日本野鳥の会」を作り、5 月に「野鳥」を創刊（表紙はコゲラ）した。同年 6 月 2～3 日には富士山須走で日本最初の探鳥会を開催し、各界の有名人が参加した。また昭和 9 年に発行した「野鳥と共に」はベストセラーになり「野鳥」という言葉がポピュラーになった。戦争が激しくなり悟堂は福生に疎開し田村酒造の一角を借りて住む。ここに野鳥研究所を作りたかったが、戦争が激しくなり断念し山形に疎開した。戦争中でも「野鳥誌」は発行し続けたが昭和 19 年 9 月号（115 号）で終刊号とした。なお、2015 年 5 月福生市加美上水公園に生誕 120 年を記念し野鳥村構想の地のプレートが設置されている。

戦前の高尾山の鳥（野鳥の写真を投影しながら話されました。）

中西悟堂は昭和 14 年 5 月、15 年 5 月 18～19 日に高尾山に上るなど、何度も高尾山に上っているが、当時は夜に浅川駅（現在の高尾駅）から歩いてケーブル下まで行き、ケーブルに乗り上の駅舎で仮眠したり薬王院に泊まったりした。（ケーブルカーは昭和の初めに開通していた。）。昭和 17 年発行の「野鳥を訪ねて」中西悟堂著によると、その時に記録した鳥は、3:56 カラス、4:09 アオバズクの声、4:11 ヒガラ、4:12 キビタキ、4:13 アオゲラ、4:15 メジロ、4:17 ヤマガラ、シジュウカラ、4:20 ヒヨドリ、4:35 カケス、4:36 コサメビタキ、5:00 コゲラ、5:02 ウグイス、5:39 キジバト、時刻の記載はないがスズメ、アカショウビン、カワラヒワ、キセキレイ等 25 種を記録している。野鳥は夜明け前 30 分頃から良く鳴き早朝のコーラスが聞かれたと思う。昭和 15 年 5 月 19 日 6:45 にはミゾゴイの声もした。オオルリ、エナガは出なかったと記している。

私（西村）は、1976年23歳のときに始めて参加した高尾山探鳥会で見たエソビタキのフライングキヤッチが印象に残り、また、その時の担当者がとても親切で「探鳥会は毎月やっているのだから2年間高尾山に通いなさい。そうすれば高尾の鳥がよくわかる。」と言われたことが鳥を続けるきっかけになった。その後1979年1月から10年間、日本野鳥の会東京支部の高尾山探鳥会を担当した。そのころの東京支部には「夜タカ」という探鳥会がありケーブルの上の駅まで歩いて上った。参加者が50～60人と多く、中には子供連れの方もいてクレームが出て探鳥会は中止とした。当時は赤いアカショウビン、青いブッポウソウもいた。

中西悟堂は善福寺で野鳥の会を立ち上げたが、バードウォッチングという言葉は好きではなかった。昭和50年代に入りアウトドアブームが起こり、横文字がはやり多くの若い人が入会し、会が大衆化することによって、野鳥の会も個人商店から財団法人になった。中西悟堂が自分で作り手塩にかけて育ててきた会に、自分の意見が通らなくなった等で日本野鳥の会から身を引くこととなった。

私が、中西悟堂に興味を持つようになったのは、同じ善福寺池の近くに住み、ここをホームグラウンドとして野鳥を見ていたこと。野鳥の会発行の野鳥図鑑を描いた谷口さんが善福寺は日本野鳥の会の発祥の地であると記していたこと。などから当時の善福寺を古書や古地図などで調べ、中西悟堂の功績や野鳥保護の歴史を調べ知ることによって一層興味が深まってきた。まず、最初にアクションを起こすことが大切で、中西悟堂が日本野鳥の会を作ったことによって現在の日本野鳥の会がある。

質疑応答：

- * 野鳥を飼うこと、捕ることはなぜいけないのか（昔はメジロの鳴き比べ等もあった。）。
 - ・ 野鳥は数が少ないためです。戦前は、野鳥は捕るか食べるか飼うかであった。個体数が少なくなると絶滅するおそれがあり、トキのように個体数が3桁台になったら注意が必要とされている。少なくなったから保護しようとしているのは人間の勝手で、数が多かろうと、少なかろうと平等に扱う必要があると思う。
- * 中西悟堂は酒を飲んだのか。
 - ・ 酒、たばこはやらなかったようだ。鳥に夢中になって家族を省みなかったようで、生活は教員をしていた奥さんが見ていた。子供が3人いて娘さん1人は健在です。
- * 中西悟堂の高尾山頂の句碑はあまり知られていないが、もっと宣伝することが必要ではないか。
 - ・ 山頂の歌碑は昭和46年に建てたもので、夜明けのコーラスは今でも素晴らしい。
- * 中西悟堂は鳥のどこに一番魅力を感じたのか。
 - ・ 分からないが、野鳥の会を作ったきっかけは「鳥かごの鳥はやめよう。」という趣旨で、それまで日本では鳥を見て楽しむ文化はなかった。鳥を見て楽しむことを一般に広めた。
- * 奥多摩支部と中西悟堂の関係はあるのか。
 - ・ 昭和20年12月31日疎開先の山形からあきる野に移り活動した。奥多摩支部も戦後出来たがその創刊号「たまの鳥」に投稿している。また、市内の小学校の校歌も作詞している。

西村様ありがとうございました。中西悟堂に関する沢山の資料を収集され活用されていることに敬意を表します。日本野鳥の会を創設したころのお話や戦前の深夜から早朝の高尾山探鳥会のこと良く分かりました。

夜明け前の高尾山探鳥に挑戦したくなった講座でした。有難う御座います。

* 参加者： 57名内会員 28名

多摩森林科学園における鳥類標識調査（2021年）

吉丸 博志

八王子市廿里町にある多摩森林科学園の園内で2021年に行った鳥類標識調査の結果を報告します。毎月1回の調査（基本的に土曜日または日曜日、調査時間は8:30から16:30ごろまで）を予定していましたが、コロナ感染が増加した月には実施を避けたため、5ヶ月が中止となりました。

2021年の標識個体数など（多摩森林科学園内）											
調査日	1,2月	3月26日	4,5月	6月20日	7月17日	8月	9月25日	10月23日	11月27日	12月18日	計
	中止	晴	中止	曇	晴、猛暑	中止	雨のち曇	晴	晴	晴	
鳥種別の捕獲個体数											
アオゲラ				1							1
モズ									1		1
カケス								1			1
ヤマガラ				2(1)				1			3(1)
シジュウカラ		3(2)		5	1				6(1)	5(2)	20(5)
ヒヨドリ									3	1	4
ウグイス				1				1	2		4
エナガ		2									2
メジロ		1		3			1				5
ミソサザイ									1	1	2
シロハラ									2	2	4
ルリビタキ		1(1)							3	1	5(1)
キビタキ				2	4		1				7
マヒワ		3									3
ミヤマホオジロ		1									1
アオジ		2(1)								1	3(1)
ガビチョウ								1			1
ソウシチョウ									2		2
計		13(4)		14(1)	5		2	4	20(1)	11(2)	69(8)
() 内はうち数で再捕獲（足環付）の個体数											
参加人数		13(8)		6(1)	9(2)		10(3)	12(6)	9(3)	11(5)	70(28)
() 内はうち数でカワセミ会員の人数。カワセミ会以外は吉丸及びバンダーあるいは研修の人など。											

今年の調査は7回で、18種、69羽（うち再捕獲8羽）でした。再捕獲はいずれも園内で足環を付けた個体であり、古いものは約3年前に付けたシジュウカラでした。昨年（2020）は8回の調査で、18種、78羽（うち再捕獲7羽）でした。その前の5年間（2015-2019）を平均すると、年間10.8回の調査で、22.4種、142.9羽でした。最近2年間の捕獲個体数が少ないのは、コロナの感染増加で調査中止とした影響が出てしまったのだらうと感じます。標識調査の結果は毎年末に山階鳥類研究所に報告しています。国内全体から報告が集まってくる標識個体数は年間12万羽くらいとのこと。



捕獲・標識された鳥の例（ミヤマホオジロ3月、アオゲラ6月、ミソサザイ11月）

2021年「カワセミハウス環境パネル展」出展報告

報告： 佐藤 哲郎

1. 会期： 2021年9月1日（水）～5日（日）
2. 場所： 日野市立カワセミハウス
3. 出展者： 自然・環境関連団体 24 団体（カワセミ会含む）
4. カワセミ会展示物：
 - ・展示パネル： A1 サイズ 1 枚、「東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）の野鳥」作成：古山隆
 - ・バードカービング： 7 点（ジョウビタキ・モズ・メジロ：福本健、アオゲラ・コゲラ：山沢良雄、カワセミ：小川圭太、シジュウカラ：浜野知恵子）
 - ・企画展広報チラシ： 50 部 ・カワセミ会入会案内： 50 部
5. 概要：

今年も日野市立カワセミハウスの「環境パネル展」に、カワセミ会として展示を行った。

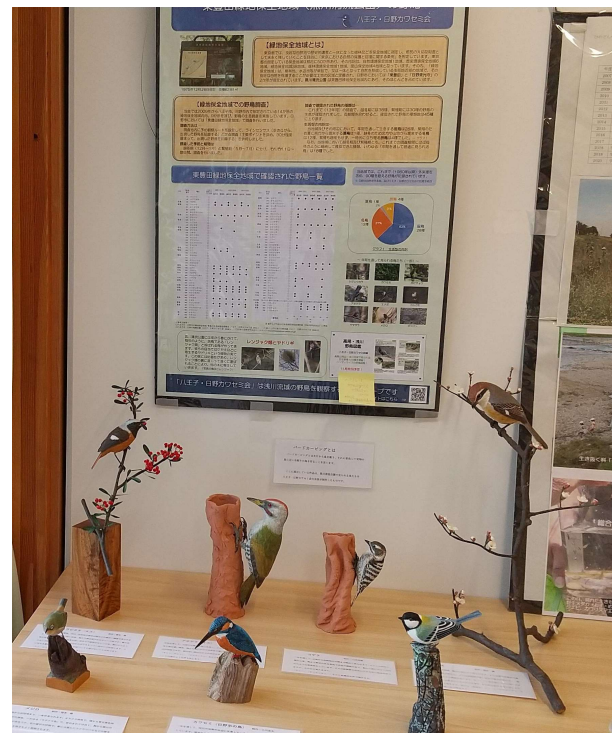
今回のカワセミ会のパネル展示は、カワセミハウスに隣接する「東豊田緑地保全地域（黒川清流公園）の野鳥」をテーマとしている。「緑地保全地域」の概要や野鳥調査のあらまし、公園内で観察された野鳥の一覧及び季節区分のグラフを示し、黒川清流公園の野鳥の状況がわかり易く紹介されている。同公園でよく観察されるレンジャク類とヤドリギの関係、11月発行の「高尾・浅川野鳥図鑑」もコラム的に触れてある。

バードカービングの展示も行い、4名の会員が7作品を展示した。また、11月開催の企画展の広報チラシ、カワセミ会の入会案内も同時に展示した。

期間中の入場者は69名（入場者は会場入口でシールを貼る）であった。

展示したA1パネルは、日野市郷土資料館へ寄託するようカワセミハウスに依頼した。入会案内の残部は、昨年同様そのままカワセミハウス内のラックに置いてもらえることになった。

なお、来年もカワセミ会は展示を予定しており、パネルのテーマは「日野市域におけるカワセミ」と決定している。



＜カワセミ会の展示コーナー＞

【出展団体：24 団体】

浅川潤徳水辺の楽校、浅川流域市民フォーラム、環境基本計画推進会議 CO₂グループ、環境基本計画推進会議みどりグループ、NPO 法人環境教育ネットワーク、NPO 法人子どもへのまなざし、NPO 法人樹木・環境ネットワーク、真堂が谷戸螢の会、農の学校、八王子・日野カワセミ会、東豊田緑湧会、ひの市民リサイクルショップ回轉市場、ひの炭やきクラブ、日野団塊世代広場、ひのどんぐりクラブ、日野の自然を守る会、日野の水車活用プロジェクト、ひの・まちの生ごみを考える会、まちの生ごみ活かし隊、日野水の会、みずとくらす・ひの、水の郷日野ビジョン 450、南丘雑木林を愛する会、谷仲山緑地を守る会

カワセミ会 35 周年記念事業

まとめ： 浜野 建男

2020 年度に実施予定であったカワセミ会 35 周年を記念した事業は新型コロナの影響で 1 年遅れとなったが以下のとおり開催された。ここに概要を報告する。

内容	実施時期	進捗状況
高尾・浅川野鳥図鑑発行	2021 年 11 月	完了、別途報告参照
企画展の開催	2021 年 11 月	完了、別途報告参照
野鳥写真展の Web 開催	2021 年 8 月～9 月	完了、別途報告参照
公開探鳥会	2021 年 11 月	完了、別途報告参照
公開野鳥講座	2021 年 12 月	完了、別途報告参照
公開野鳥写真講座	2022 年 2 月	延期
カワセミ会 35 年の活動記録編さん	2021 年～2022 年	作成途中
八王子・日野の野鳥の記録への追加	2021 年～2022 年	作成途中

高尾・浅川野鳥図鑑の発刊

報告： 粕谷 和夫

1. 発刊までの経緯

カワセミ会発足 35 年記念事業として書店で販売可能な高尾山・浅川の野鳥図鑑を作成することとした。そのため内容は 35 年間の活動の成果を踏まえることとし、解説文、写真、鳴き声などの全てに会員の総力を結集した。実際には 10 名の会員で構成する編集委員会を 2018 年 2 月に発足させ、途中新型コロナ禍で中断もあったが 2021 年 10 月まで約 3 年かけて 40 回におよぶ編集委員会、さらに数 10 回の小委員会で練り上げた。

編集方針として野鳥観察初心者の方には入門書として、またベテランの方も初心者向けのテキストとして活用していただけるような図鑑を目指した。書店で売れる図鑑とするため、出版社のプロにも編集委員会に参加して頂くこととし、地元出版本で実績のある摇篮社から多大の指導助言を受けた。

2. 野鳥図鑑の特徴

この図鑑には以下のような特徴を持たせることとした。①小さい（新書判サイズ）、②軽い（わずか 100 g で持ち歩きが苦にならない）、③安い（税込み 990 円）、④見やすい（いつ頃どんな環境で見られるのか、写真が鮮明、キャッチフレーズ付やさしい解説文、似たもの同士の鳥が見開き頁にあり、違いが解説されている）、⑤100 種厳選（当地で見られる野鳥から 100 種を厳選）、⑥声が聞ける（図鑑の QR コードからスマホで声が聞ける）、⑦探鳥スポットを表示（代表的な「探鳥スポット」が解説され、図鑑の QR コードでさらに詳しい地図も見られる）、⑧バードウォッチングの際に気をつけることがわかりやすく書かれている、⑨今後も成長する（QR コードでの「鳥の鳴き声」や「探鳥スポット」は適宜更新され充実する）。

3. 出版部数と無償配布ならびに販売状況

2021年11月1日に2000冊出版し、無償配布を含めたカワセミ会扱い900冊、揺籃社を通じた販売を1100冊とした。八王子市全公立小学校69校と日野市全公立小学校17校に寄贈した。その他近隣の公立図書館等(48冊)、関連自然保護団体等(16冊)に寄贈した。国立国会図書館にも寄贈した。(右に受領書)

11月7日に開催した会員向け販売会で75冊販売、11月18日～23日に開催した野鳥展で225冊販売、会員の喫茶店等に依頼した販売、会員が適宜販売等により2022年1月末時点で約600冊が無償配布又は販売配布された。残り約300冊を今後カワセミ会として販売する必要がある。

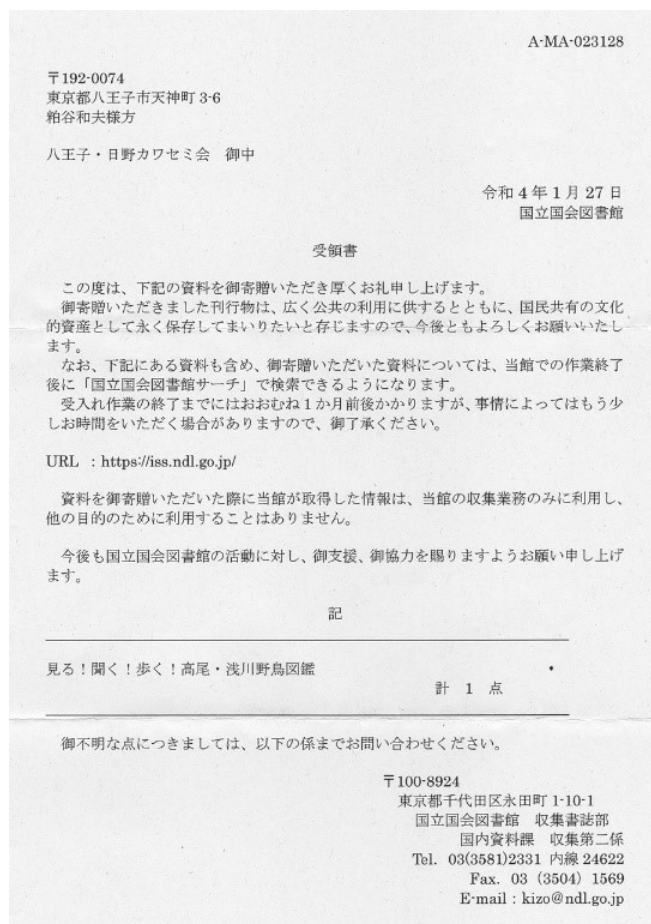
4. 評価

2021年11月上旬に八王子市内の書店及びアマゾン(通販)で販売が始まり、有隣堂八王子店では店内売れゆき第2位にランクされるなど好評で12月末には増刷された。本書を手にした方々から多数の反響があった。そのうちの代表的なコメント等は以下のとおり。

- ★野鳥を愛するベテランから初心者まで、皆さんに分かりやすく纏められており、野鳥たちの羽の色はどれも色鮮やかに撮られた写真で、素晴らしい冊子になっておりただただ感心するばかりです。
- ★コンパクトで地域の鳥の図鑑なので、使いやすそうです。我が家に来る鳥も時の流れで変わります。メジロやシジュウカラは前はよく来ていたのですが、この頃は見かけません。たまに見たことも無い鳥が来たりしていたのでまた来てくれるとこの図鑑が役立ちます。
- ★とても綺麗に撮れていますね。素人で野鳥の事は分からないのですが、説明を読んでいるだけでも、楽しくなります。

マスコミ等のメディアからは以下のようなところで取り上げられた。

- ★八王子経済新聞 2021.11.17 は広域八王子圏のビジネス&カルチャーニュースのサイトで、野鳥図鑑の出版が紹介された。
- ★毎日新聞 2021.12.5 の全国版に揺籃社の広告として掲載された。
- ★はちとび第50号(2022年新風号)の「私の本はこうして生まれた」に取り上げられた。「はちとび」は、八王子のちょっと気になるトピックスを紹介するミニ地域情報誌です。
- ★東京新聞 2022.1.10 多摩武蔵野版「観察の楽しさ知って」のタイトルで野鳥図鑑の出版が紹介された。
- ★日本野鳥の会東京の研究部ブログ 2022.1.31 のブログに『元気が詰まった地元の図鑑『見る！ 聞く！ 歩く！ 高尾・浅川野鳥図鑑』のタイトルでカワセミ会の活動と図鑑が紹介された。
- ★アサココ(多摩地域のタウン紙) 2022.2.3号「知れば知るほど観察が面白い」のメインタイトルで第2頁のほぼ全頁を割いて図鑑の内容を数枚のカラー写真とともに紹介された。
- ★バーダー2022年3月号 BOOK REVIEWにISBN番号と推奨文が掲載された。



★ユリカモメ 2022 年 3 月号日本野鳥の会東京会報 796 号「ベテランからのおすすめ図鑑」として紹介された。

5. 今後も成長する図鑑

掲載されている QR コードからはスマートフォンなどのバーコードリーダー機能を使って、カワセミ会のホームページにアクセスし、野鳥の鳴き声を再生したり、詳細な探鳥スポットの案内や詳しい地図を閲覧したりすることができる。このホームページは今後随時に新しい情報を追加更新し、内容を充実していくので、今後も成長し続ける図鑑です。

企画展「八王子・日野の野鳥展」開催報告

まとめ： 浜野 建男

1. 概要

キャッチフレーズを「高尾・浅川の野鳥を身近に感じよう!」とし、以下の通り開催した。

展示場所 八王子・学園都市センター11 階ギャラリーホール

展示期間 2021 年 11 月 18 日(木)～11 月 23 日(火)

2. 展示内容

- ・カワセミ会紹介 パネル 1 枚
- ・カワセミ会 35 年の野鳥カウント調査について パネル 13 枚
- ・野鳥図鑑紹介 パネル 13 枚 図鑑の販売
- ・会員の写真 84 点 絵画 6 点
- ・ジュニアクラブ活動紹介 子供達の作品展示 (ジュニアクラブ報告参照)
- ・イソヒヨドリ of 動向
- ・バードカービング 16 点
- ・野鳥動画
- ・会の出版物の展示



3. 来場者 総数 830 名

八王子市 石森市長、木内副市長にもご来場いただきました。

4. 実施状況

30 周年記念企画展と同じ会場にて開催され、準備/撤収などの作業もスムーズに行うことができた。

会場には会員の当番により、常に常駐者を 2 名以上置き、来場者の受付、展示内容の説明、野鳥図鑑の販売を行った。また来場者にはアンケートの記入をお願いした。(次ページ参照)



5. 公開探鳥会

本企画展の開催期間の 11/20 に浅川での公開探鳥会を実施し、希望者を企画展に案内した。

(別途報告参照)

6. 活動支援

本企画展は八王子市の活動支援金をいただいて実施した。

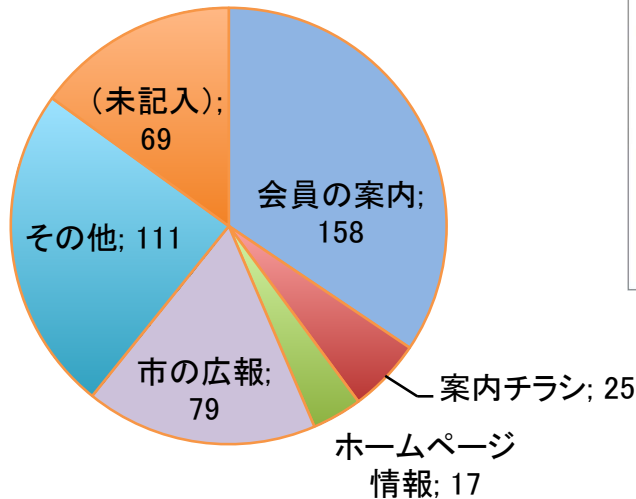
35周年記念事業企画展「八王子・日野の野鳥展」アンケート結果

まとめ： 浜野 知恵子

アンケートは会場にいらした方（家族の場合は代表者等）にお渡しし任意の提出としたが、来場者の半数以上になる436枚を回収した。内容は右図の通り、簡単な無記名のものである。

■企画展を何で知ったか（一部複数選択した方あり）

下グラフの通り、「会員の案内」が一番多く158件、次に「市の広報」が79件であった。「その他」の中ではSNSや新聞、通りがかりで寄った方もいらした。（同フロアにワクチン会場があった）



アンケートにご協力を！

■この企画展を何でお知りになりましたか？

会員の案内 案内チラシ ホームページ情報 市の広報 その他

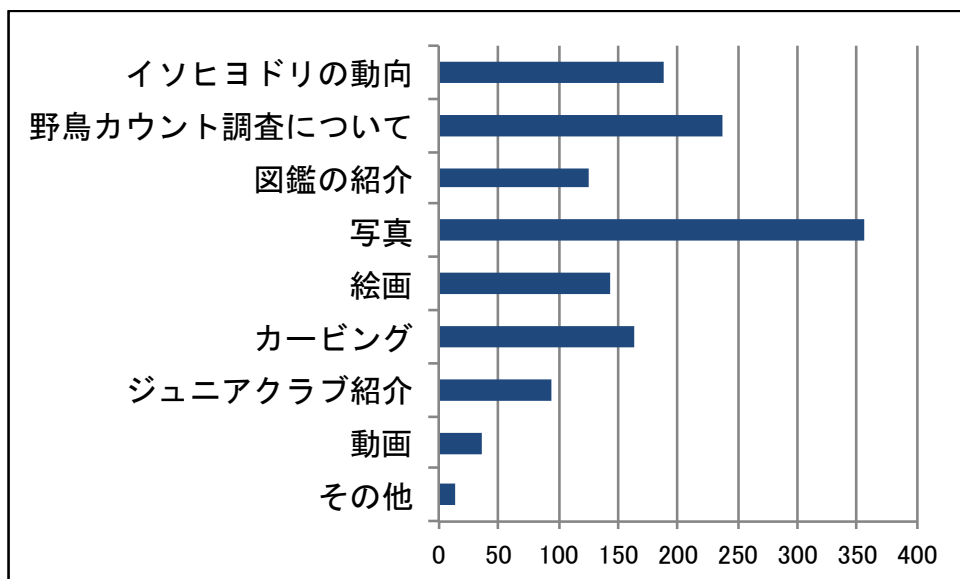
■興味を持たれたものにチェックをお願いします(いくつでも)

展示内容	特に興味を持たれた点
<input checked="" type="checkbox"/> イソヒヨドリの動向 「駅周辺に集まるイソヒヨドリの鳥」	
<input checked="" type="checkbox"/> 野鳥カウント調査について	
<input checked="" type="checkbox"/> 図鑑の紹介	
<input checked="" type="checkbox"/> 写真	
<input checked="" type="checkbox"/> 絵画	
<input checked="" type="checkbox"/> カービング	
<input checked="" type="checkbox"/> ジュニアクラブ紹介	
<input checked="" type="checkbox"/> 動画	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■ご意見、ご感想をご自由にお書きください。

■興味を持ったもの（複数選択）

下図の通り、写真の人気の高い。イソヒヨドリの動向や野鳥カウント調査もアンケート回答の中で半数近くがチェックされており、関心の高さが伺える。



興味を持ったものについて個別のコメントを以下にまとめる。

• イソヒヨドリの動向：

TV（「ダーウィンが来た」）で知ったとのコメントが多く、「マップが見れてよかった」「実際の巣があり興味深い」といった意見や、近所での目撃情報を寄せられる方もいらした。

• 野鳥カウント調査について：

「鳥の増減が良くわかった」「身近な鳥が絶滅しそうだとわかった」「地道な調査に敬服」などのコメントがあり、特に「スズメ」の減少について言及されている方が多くみられた。

• 図鑑の紹介：

「身近な図鑑は便利」「日常的に携帯したい」「よくまとまっていて欲しくなった」などの意見があり、購入に繋がったと思われる。

• 写真：

「きれい」「素晴らしい」「感動」といったコメントが多く寄せられており、特集にしたコスタリカの野鳥の他、個別の鳥や瞬間の映像が気に入った方もいらしたようである。

• 絵画：

絵画そのものの点数は少なかったが、ジュニアクラブの子供たちの描いた絵も含めてコメントが多かった。「緻密な描写に驚いた」「本物そっくり」などの感想があった。

• カービング：

「リアルな作りが素晴らしい」「大きさなどがよくわかった」「将来やってみたい」といったコメントのほか、個別の作品が気に入られた方もいらした。

• ジュニアクラブ：

子供の活動を広げることへの賛同の声や、「野鳥を通じて心が育っている」「子供らしい自由でユニークな表現や日頃の鋭い観察から生まれた表現が素晴らしい」などのコメントがあった。じっくり見ていらした親子連れも印象的だった。

• 動画：

特に、「ツバメのねぐら」について良かったとのコメントが寄せられている。「鳴き声があるととっても良い」との意見もあった。

■全体の意見、感想

「興味深く拝見した」「心いやされた」「次回が楽しみ」などの声のほか、会員による説明で「良くわかった」「参考になった」との意見があった。「身近なところから観察していきたい」や近所の鳥の情報を寄せて頂くなど、野鳥への興味が増したようで、本企画展のテーマとした「八王子・日野の野鳥展 ～高尾・浅川の野鳥を身近に感じよう～」がマッチしていたと思われる。

全体の1/4ほどの方が、野鳥の増減や調査活動の成果について賛同や関心の意見を述べられており、環境や自然保護の問題として捉える方もおられるなど、カワセミ会の活動目的や野鳥に関心を持つことに繋がっており、喜ばしい限りである。

「八王子・日野の野鳥写真展（Web 開催）」について

報告： 佐藤 哲郎

昨年、初めての試みとしてカワセミ会ホームページ上で開催した「八王子・日野の野鳥写真展（Web 開催）」について報告します。

1. 開催の経緯

本写真展はカワセミ会 35 周年事業の一つとして、2021 年度総会議案書の事業計画の中で提案されました。総会で議決をいただいた後、幹事会で具体的な募集・開催の詳細を検討し、以下のとおり決定しました。

（1）写真の募集概要（要点のみ）

- ①応募対象 : カワセミ会会員であること
- ②募集期間 : 2021 年 4 月 1 日～6 月 15 日
- ③募集案内 : 2021 年 3 月～5 月発行の探鳥会あんないで会員に周知
- ④写真の条件: カワセミ会会員が八王子市・日野市で撮影した野鳥（自然分布種）及び外来種・飼育鳥の野生化したもの。写真はデジタル画像とし、原則として縦横比率 2:3、サイズは長辺 2000 ピクセル以上。応募写真は題名、撮影年月日、コメント等のメモをつけて Web 上に指定された Box に投稿。応募は一人 3 点まで。

（2）開催概要（要点のみ）

- ①会 期 : 2021 年 8 月 1 日～9 月 30 日の 2 カ月間
- ②開催場所: カワセミ会ホームページ上の特設サイト（一般公開）。サイトは HP 運営委員会で制作・管理。

（3）写真展の広報

- ①カワセミ会 HP に広報記事を掲載
- ②カワセミ会メーリングリストで広報し、口コミでの広報を依頼
- ③探鳥会あんないで記事を掲載し、口コミでの広報を依頼
- ④八王子市市民活動市民センターの Web サイト「はちコミねっと」にイベント登録して一般に広報



【Web 野鳥写真展のトップページ】

2. 開催結果

応募期限内に 18 名の会員から計 51 点の写真応募がありました。サイトのトップページは、これらのサムネイルを鳥番号の順に並べるシンプルなレイアウトとなりました。写真については無断使用禁止の旨の表示と、右クリックでのダウンロード防止処置を施しました。

この Web 写真展については、上記のとおり一般の方への広報も行いましたが、開催期間中のアクセスは合計 364 回でした。既にご案内のとおり、カワセミ会では昨年 11 月からツイッターの公式アカウントを開設しましたので、今後の一般の方への情報発信力強化につながるものと期待されます。

Web 写真展は 9 月 30 日に終了しましたが、その後の写真の保存・活用のために撮影者の了解の得られたものについては、カワセミ会 HP 上につくられた「八王子・日野の野鳥生態写真アルバム」に移行しました。

3. Web 写真展開催についてのご意見・ご感想など

開催後に、多くの方から貴重なご意見等をいただきました。以下にその一部をご紹介します。

(1) 出展準備・運営等について

- BOX からの投稿はハードルが高い。
- 投稿者の意図と異なる掲載順になっていた。
- 作品ごとに「いいね！」や感想を投稿できるようにしたらどうか。
- 写真を焼いたり額縁を用意したりする手間がなく、またコロナ下では良い企画だった。
- 「生態写真アルバム」への移行を考えれば、もっと生態写真的なものも積極的に出展するよう募集時に告知を。

(2) 出展者の感想

- WEB 上なので解像度の良い写真を載せるべきか、中々出会えないレアな鳥の写真を優先させるべきか迷いました。
- 他の方の写真を拝見すると、皆さんそれぞれ一期一会というべき瞬間を捉えていました。
- 写真作品としての写真が求められるのか、生態を切り取った写真がよいのか迷いました。

(3) 知人・友人・家族の感想

- 点数も多く、地域の鳥類相や環境が示唆される素晴らしい企画です。
- それぞれ思い入れが感じられ素晴らしい写真ばかりです！
- 皆さんお上手ですね。成果を発表できる場所があるのは良いことですね。
- 八王子・日野でこんなに多くの種類の野鳥が見られるのには感動した。
- 野鳥の写真とても素敵なものばかり。情景もタイトルも鳥達の雰囲気にもぴったりですね！

(4) その他

- 最初のページに趣旨と目次があり、展示の分類項目（題名、撮影者、鳥名）があってそれをクリックするとその画像をみることができると便利です。
- 普通の写真展の資料もデジタル写真として残してもらえれば後々でも見れるのでよいかと思います。
- WEB 上の写真ですが自分のが何処に出展されているのか番号や行数など何か解りやすい目安などがあつた方が見てくれる方達にも伝えやすかったと思いました。
- Web 展示の質を上げるには主催サイドでできる限り著作権を保護する姿勢は最低限必要な気がしました。

4. 所感

今回はカワセミ会として初めての試みで、手探りで進めていった部分も多かったと思います。新型コロナウイルスの感染が続く中、場所を選ばずに閲覧していただけるという、ある意味ではタイムリーな企画でしたが、いただいたご意見の中にもあるように、課題も多く見受けられました。今後同様な企画を行う際には事前に充分検討し、閲覧される方にも出展される方にも満足いただけるよう、絶えず改善していく必要があると感じました。

カワセミ会ジュニアクラブ活動報告

報告： 門倉 美登利

写真： 岡本 昭男

1. ジュニアクラブの歩みと取り組み

ジュニアクラブは2008年(平成20年)に発足し今年で14年の歩みになります。最初はクラブの会長を中学生が担当し、観察会後の鳥合わせでは子供たち自ら調べたこと等も発表し活発に自主的に活動してきました。進級や中学生になると部活や受験など忙しくなり卒業を機にやめる子どもたちが続出しました。残るメンバーも学校の土曜参観などの行事が増加し参加回数が減ってきました。3年・4年前には会員数が激減し、2家族4人となり存続さえ危ぶまれた時期がありました。しかし、地道な勧誘活動によって今年は10家族15人とメンバー数が復活しました。

更にうれしいことに中学生、高校生も継続してくれる人が出てきました。

ジュニアクラブとして今回の野鳥展の参加は2回目ですがメンバーの大半は初めての体験です。コロナ禍の中で、観察会が中止になり連絡・説明もままならない上に短期間での取り組みでした。

困難な状況の中で子供たちは【好きな鳥】の絵や写真、模型の創作に一生懸命に取り組みました。4才から高校生迄の作品はそれぞれの豊かな感性や創意工夫が作品に溢れていました。出品参加メンバーとその保護者の方から感動とともに「一言感想」が届きましたので掲載しました。

なお、紙面の都合から沢山の作品を一括したモノクロ写真でしか掲載できませんが会場でご覧いただいた方々には当日の印象・記憶を思い起こしていただければ幸いです。

2. 野鳥展での子供と保護者たちの一言感想

- *身近な鳥を描こうと思い、スズメを選びましたが難しかったです。また機会があれば描きたいです。
- *常にカワセミが大空を飛んでいく姿を思い描きました。改めてカワセミの美しさに気づくことができました。ヤマセミは以前からカッコイイと思い描いてみたかったので今回描けて良かったです。
- *「キクイタダキ」の絵の額はボール紙に段ボールを張り付け工夫して作りました。「ツバメ」も描きました。たくさんの人にほめられてとてもうれしかったです。
- *「ぼくの好きな鳥」の、オナガやカワセミを描き黒のクレヨンで下の白が見えないようぬりつぶした。鳥の好きな食べ物を図鑑で調べてかいた。「カワセミ」も描いた。みんなにほめられ、うれしかった。
* 作品を立派に飾って頂き、多くの方々に声をかけて頂き、とても良い機会を頂いたと思いました。(母)
- * 八王子城跡でみた「サンコウチョウ」がきれいだったのと、家のそばに来た「イソヒヨドリ」を描き皆にほめられ嬉しかった。
* カワセミをイメージして作った船の工作を皆に見てもらえ良かった(父)
- * 野鳥を上手に撮るのはむずかしいけど、近くにいる鳥を上手になるよう練習したいです。
- * 「カワセミ」「ノゴマ」などたくさんの絵を描けたのと「鳥たちのカッコいい姿」の写真が出せ、楽しかったです。他の人たちの絵や写真も上手で「オオタカ」などいろいろな鳥がいてかわいかったです。
- * 「スズメ」がかわいかったので、大きさを変え2羽、色紙で作りました。作る時楽しかったです。
- * 「カワセミ」とたくさんの魚の絵をかいた。ほかの絵をかく時「アオサギ」「ダイサギ」の首の長さがちょっとむずかしかったです。
- * ポーポーとなく、きじばとのえをかいたのが、とてもたのしかったです。(4才)
- * 「ハクセキレイ」は大好きな鳥なので描きました。
* せっかく慣れて楽しいジュニアクラブでしたが3月に北陸に転勤します。2月までのジュニアで残念ですが、浅川の鳥が観察できよかったです(母)

*カワセミ会の野鳥展を見て早速、ジュニアクラブに入った中学生がいました。「カワセミ会の野鳥展にはたくさんの鳥の写真があり素敵でした。特に「オシドリ」の写真が心に残っています。私はカモ類が大好きでカモのことを教わりました。カワセミ会の人と鳥の話をたくさんしていろいろ教えてもらったことが嬉しかったです。ジュニアクラブに入ったので、沢山の鳥をみたいです。」とうれしい感想も届きました。

3. 展示作品（絵画 23 点、写真 31 点、船の模型 1 点、総数 55 点）



野鳥展の作品の 出品説明
説明する方も 聞く方も真剣！

ジュニアクラブ観察会（6月）



4. むすび

ジュニアクラブの役割の一つ【未来のカワセミ会の会員を育てる】はそれこそ息の長い地道な活動です。会長の目指す何十年にもわたる調査の積み重ねには欠かせない活動のひとつです。

今年のジュニアクラブは支援者の高齢化や子供たちの多忙化などクラブ運営等の問題をたくさん抱えています。会員はいろいろな小・中学校から来ますので支援はとても大変です。一方で子供たちに接する楽しみはかけがえのないものです。笑いと若さ、パワーをもらえます。

カワセミ会会員の皆様！是非、ジュニアクラブ観察支援に積極的な参加・ご協力をお願いします。

2021年8月、東京でコロナ新規感染者が1日、5000人以上と増加した頃、私はある1冊の本と出会った。中村登流著、「エナガの群れ社会」という本で、31年前に発行されたものだった。

本書には書かれていないが、著者の略歴などから推測して、20才の大学生の頃、よく行く道で、通るたびに会う「エナガ」の群れが、ふと気になりだしたのが、始まりだったらしい。

これはいつも同じ群れと出会っているのだろうかという疑問……そしてその年の12月のある日、林の藪の中で、横1列にきっちり並んで寒い冬の夜を過ごす姿を見て、人とは全くかわりのない彼らだけの別の世界を生きる姿に強く惹かれた。もし毎夜同じ所に帰ってきて眠るのであれば、彼らの生活には秩序があることになる。それはどのような生活のリズムなのか。

私も「エナガ」が横1列に並んでいる姿を、昼間1度見たことがある。とても印象深く記憶に残っていて、すぐイメージすることができた。しかしどのように並んでゆくのかは見たことも考えたこともなかった。著者の観察によると、夕方群れがねぐら近くまで戻ると、突然声を出さなくなり、周りの様子をうかがう。藪から藪へとすばやく移動して黙りこみ、じっと息をひそめてうずくまっている。しばらくして1羽がねぐらとなる横枝に移る。続いてもう1羽がやってきて2羽が並ぶと相互に横すべりしながら「押しくら」をする。それからじっと並んで座り込む。お互いぴったり体をくっつけて、頸を縮めて、目をつむる。すると別の1羽が体を左右にゆすりはじめ、並んだ2羽の上へやってくる。2羽の間を狙って跳びおる。これと時間を合わせるように並んでいた2羽は少し間をあける。跳びおられた1羽はそのすき間に入り込み、まず足を伸ばして枝をつかむ。体を伸ばしては縮め、少しゆすぶって割り込みに成功する。1羽が割り込むと、次のものが頭上にやってくる。これもまた割り込みをする。こうして次々に群れのメンバーが割り込みをする。たんだん列が詰まってかたくなり、次第に割り込みも窮屈になってくる。他の者の体の間に足を伸ばして小枝をつかむと、体全体を屈伸させて割り込みも強引になってくる。列をつくったものすべてが少しずつ横にずれねばならないので、それぞれが体を動かし、中にはバランスを失って落ちてしまうものも出てくる。そのため列が崩れてしまうと、再び2羽の寄り合いからはじまる。こうして群れの全メンバーが1列に並ぶまで何回も押しくらを繰り返す。列ができあがると最初に並んだ2羽は常に列の両側の1番外側に押し出されてしまう。こうして「エナガ」は眠りにつく。

著者は「エナガ」の生活を知るには、1日中1諸に行動するしかないと考え始める。おそらく、何度も追跡の練習をして、自分にやれるか試した

に違いない。当然「エナガ」は空を飛んで移動する。自分はブッシュを掻き分け、斜面でもがきながら追跡せねばならない。でも「エナガ」は林の中にこだわって生きている鳥であるから、やれるのではないかと考える。そして遂にその想いを抑えることができなくなり追跡の日を決める。

前日の夕方、8羽がねぐら入りした藪を確かめておいて、翌早朝、その藪の近くにうずくまって「エナガ」が出てくるのをじっと待つ。寒い1月11日の朝6時50分、ツユッという小声が聞こえて、すぐ近くの藪の中に出てきた。それぞれが黙ったまま静止している。6時58分、活動開始のツリユリユという叫び声があがる。いよいよ藪の中から出てくる。全メンバーが出てきたのは7時6分だった。群れはその後約2時間、同じ林の中を行ったり来たりしながら、もっぱら採食にふけていた。ところが徐々に移動のスピードが増し、林から林を飛び抜け、小さい谷間をいっきに飛び渡った。著者は追いつけなくなってしまった。苦勞して斜面をすべり降り、よじ登り38分後にやっと群れに追いついた。ねぐらのある藪から直線距離にして、1.3キロ離れたコナラの林の中で、8羽の群れはゆっくり過ごし、午後1時43分帰り始めた。あっという間に飛び去り、あまり寄り道しないで、朝方、ゆっくり過ごした林へ午後2時31分に戻った。そこはコナラを主とした雑木林で、その中を行ったり来たり、同じ所を何回もまわったりして採食にふけていた。午後4時39分、ねぐらの近くの藪の中へかたまってじっとうずくまり、声もなく静止した。午後5時52分、小声で呼びかわしながら密集し藪から藪を伝ってねぐらに入った。

こうして著者の目と耳と足と驚くべき集中力によって徹底的に観察された「エナガ」の生きている世界が記録されてゆく。何故群れるのか…そのメンバーは…、番いの形成、なわばり、巣づくり、採食、声の意味……各章ごとにまるで秘密の扉が開かれるように全く知らなかった景色がスリリングに展開されてゆく。

著者は20才から40才まで観察調査して論文にまとめ、博士号をとり、60才頃、この本を出版、76才で逝去された。

「エナガ」を描いてみたいと思った。



*参考にした本。

「エナガの群れ社会」中村登流著 信濃毎日新聞社刊



宮島 仁

これだけ情報が進んだ現代社会においても、まだ「沖縄って自転車で1日も走れば一周できると思っていた」という観光客に会うことがある。確かに沖縄は、テレビの天気予報の地図では、画面の左端の四角で囲まれた小さな地域なので勘違いする人もいるだろう。ところが、沖縄本島は南北約130kmもあり、幅は10km程だがぐるりと一周すると周囲は約480kmにも及ぶので観光客が自転車を必死に漕いでも1日で回れるような距離ではないのだ。内地からみれば離れ小島の沖縄でも、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島が東西に連なり、今、私がいる沖縄本島北部の名護から沖縄県南西端の与那国島まで約550kmも離れている。これはなんと東京から北は青森、西は岡山の距離に相当するのだ。ちなみに与那国島から111km西には台湾があり、晴れた日には台湾が見える国境の島である。さらに南の端の波照間島は名護から約500kmもあり、東京から徳島の距離に相当し、この島では南十字星が輝いているのである。

しかし、このくらいで驚くのは、まだまだ早いのだ。沖縄県全体でいえば、県の最東端の北大東島と最西端の与那国島まで約1,000km、最北端の硫黄島（無人島）と最南端の波照間島まで約400km。そうなのだ、沖縄県は東西1,000km、南北400kmに及ぶ広大な海域の中に大小160の島々が点在している日本一広大な県なのである。ちなみに、みなさんが“でっかいどう～ほっかいどう～”と思っている北海道は、東の松前港から西の知床岬まで約500km、北の宗谷岬から南の襟裳岬まで約400kmなので、沖縄県の海域の中に北海道がすっぽりと2個並んで入ってしまうのである。

島嶼160島のうち、有人島が47島、無人島が113島と、7割以上が無人島なので詳細に調査されていない島が多いが、沖縄県ではこれまでに約500種の野鳥が記録されている。その中で一年中、沖縄に棲んで繁殖をしている留鳥が約40種であり、残りは夏鳥、旅鳥、冬鳥や迷鳥なのだ。つまり、沖縄県で記録されている野鳥の9割以上は渡り鳥で占められていることが沖縄の鳥類相の大きな特徴なのである。

バーダーとしてこの世に生まれたからには、誰もが新種は無理としても日本初記録の野鳥に出会いたいと思うのは当然のことである。チャンスは、過去に何種類も日本初が記録されている沖縄の渡りの時期にあり、毎年、春や秋の渡りの時期になると全国から珍鳥バーダーたちがこぞって来沖する。中には離島に車を持ち込み数ヶ月間も車中泊で珍鳥を探す者や渡り鳥のように沖縄一鹿児島島の島々を次々と渡っていく猛者もいる。私も少し前までは、渡りの時期になると居ても立っても居られずにせっせと離島通いをする珍鳥バーダーであった。しかし、最近は、珍鳥よりも毎年やってくる普通の渡り鳥たちを見ながら、「元気でアラスカまで渡って行くんだよ～」と旅の無事を祈ったり、「お帰り～、大変な旅だったね～」と苦勞をねぎらったりして、目を細めてサンピン茶などをすすっているのである。

そんな渡り鳥の中にスズメ位の大きさの“トウネン”という小さなシギがいる。和名もその年に生まれた子のように体が小さいので“当年”と名付けられたのだ。この小さなシギは、アラスカやシベリアのツンドラ地帯で繁殖し、オーストラリアやニュージーランドへ渡って越冬するのだが、毎年、春と秋の渡りの途中で、我が家の近所の干潟に立ち寄って数日間、餌を啄む姿が見られる。ちなみにアラスカーオーストラリアの距離は往復で約2万4000km。トウネンの寿命が約16年というから生涯の移動距離は約38万km。小さな鳥たちは、夜間に月や星を見ながら渡る方向を定めて飛ぶといわれている。トウネンたちが毎年、渡りの時に見ている月までの距離がちょうど約38万kmというのは、何か不思議な縁を感じざるを得ないのである。



2020年の10月からカワセミ会に入会させていただきました宮本です。探鳥会などでお会いした皆様は、私が持っている大きなレンズで印象に残っておられるかもしれません。この度リレーコラムのお話をいただきましたので、今日は私と野鳥撮影について少し自己紹介を兼ねてお話しできればと思います。

今はもっぱら時間があれば、野鳥撮影に出かけていますが、元々は食べ物の撮影をすることに興味があり、一眼レフを使って写真撮影をしていました。最初に大きな一眼レフを買ったのは2010年でした。そのころは食べ物の写真を撮影し、背景を綺麗にぼかしたり、レイアウトを工夫するなどしながら、写真撮影を楽しんでいました。最初の1年はオートの設定で何も変えずにずっと写真を撮りながら、2年目あたりから、カメラの設定を変え、工夫して撮影するようになりました。食べ物の写真は家の中で撮ることが多く、光の当て方や、レイアウト、それに合わせたカメラ設定である程度思った写真が撮れるようになり、屋外の風景写真を撮り始めました。仕事で海外出張が多くあったこともあり、日本国内の季節の写真に加え、海外の風景などを撮影し、それなりに楽しんで撮影していました。しかしながら、風景の撮影も、ある程度すると、構図や撮り方、天候による設定の変え方でそれなりに自分の好きな写真が撮れるようになり、少し物足りなさを感じていました。

そんな際、オーストラリア出張でいろいろな鳥を目にする機会がありました。こんなに綺麗な色の鳥が身近にいるのか、ということで、すぐに野鳥撮影に必要なレンズを買い、次のオーストラリア出張では沢山の鳥の写真を撮りました。これが2016年ごろでした。大きなレンズで拡大してみると、鳥達は実はいろいろな表情をしていることがわかり、こちらを見ている鳥や、鳥同士のやりとりなども垣間見え、これまで撮影していた食べ物や風景では得られない楽しさを感じることができました。

鳥の写真の最も難しいところは、「必ず鳥に会えるとは限らない」ことでした。東京タワーの写真を撮ろうと思えば、天気さえ気をつければ、東京タワーは必ずあります。鳥の場合、たとえ身近な鳥であっても、必ず会えるとは限りません。そして思ったようなポーズをしてくれることもありません。宝探しのようなワクワク感が毎回ありました。これが私が野鳥撮影の虜になった大きな理由の一つだと思います。

日本に戻ってから、日本でも鳥を撮影してみようかなと近所の浅川に早朝行った時に見たダイサギとカワウの綺麗さに惚れ惚れとしたことを今でも覚えています。カワウが羽を乾かしながら、ダイサギが何羽も来たり行ったりする側をセキレイが歩いていて、こんな場所が身近にあったのかとこれまた川に通うようになりました。最初はツグミが冬しか来ない鳥だということも知らず、大きなレンズを持って歩いていると、時々いろいろな人から、少しずつ鳥の話を聞いたりするようになりました。日本の鳥はオーストラリアでみたカラフルな鳥達とは違い、控えめな色ながら雰囲気があり、風景にもあう色合いで日本で撮る鳥にもすぐに夢中になりました。

そしてもっと鳥のことを知れば、鳥達に会える機会が増える、鳥の写真をたくさん撮れるようになるなと思い、鳥のことを調べたり、野鳥の会の探鳥会に参加するようになりました。鳥のことを調べていくと、環境保全にも意識が向くようになりました。野鳥を撮影するといっても鳥の負担になるようなことはしないように、環境に影響が出るような行動は控えるように、何をどう気をつけなければいけないのかも考えるようになりました。鳥に興味があれば、きっとこんなことは考えていなかったらと思うと思います。

新型コロナで思いがけず、行動範囲が規制されることとなり、身近な場所で野鳥撮影をしていましたが、カワセミ会に入会してみようと思った次第です。入会して改めて八王子の様々な場所で、いろいろな鳥を見ることができるのだと知ることができ、探鳥会に参加するたびに学ぶことが多いです。これからも皆様にお世話になることが多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

北アルプスというと、大まかな言い方ですが、主にライチョウを見に行く目的でこれまで北アルプスのたくさんの山へ登りました。ライチョウを見たいいくつかの山をご紹介します。

ライチョウと聞いてまず思い浮かぶのは立山連峰という方が多いと思いますが、たしかに見られる確率の高さで言えば、立山室堂ではないかと言えます。私は立山黒部アルペンルートが開通する4月下旬に室堂に入ったことが何度かあります。年によって雪の量は異なりますが、少し下界の樹林帯で冬を過ごしたライチョウも4月には立山に戻り始め、全身真っ白なライチョウを見ることができるのはこの季節ならでは。ライチョウが室堂に戻るタイミングで、前年につがいとなった相手と再会し、なわばりを形成するとこのエリアでは観察されています。実際、私が見に行った時にも、残雪の残る山で既につがいとなっていました。子育て期間に入るまで、オスはなわばりを守るため目立つ場所に比較的出てくるので、5月から6月は観察しやすい期間と言えると思います。ちなみにキジの仲間は、ひなが孵化してすぐに歩き始めるので両親が付きっきりで給餌をする必要はなく、オスはさっさとどこかへ行ってしまおうと言われています。



立山の次にライチョウの生息数が多いのはおそらく乗鞍岳ですが、生息範囲が広く、登山道

も立山のように縦横に走っている訳ではないので、出会う確率は決して高いとは言えない気がします。むしろ歩いていてライチョウと出会う確率が高いのは、爺ヶ岳から鹿島槍ヶ岳の間の後立山連峰です。特に爺ヶ岳周辺は、登山道で出会うことが個人的には多い気がします。他に観察しやすい場所として思い浮かぶのは、燕岳から大天井岳に至る表銀座の稜線、あるいは白馬岳から小蓮華を経て白馬大池へ至る稜線の道でしょうか。燕山荘周辺でもよくライチョウを見かけますし、白馬では大池の周辺で一度に複数の個体を見かけることが多いです。いずれも、天敵から身を守る術がどうかわかりませんが、小屋の周辺になわばりを作る可能性が比較的高いのかな、と思うことがあります。人の捨てるゴミ等で天敵となるカラスやキツネ、テンその他の動物を誘引する可能性もありますが、人間の比較的近くになわばりを作ることで天敵を遠ざけ安心感を得るといった本能は少なからず働いているような気がします。

ライチョウはハイマツの樹林と草地の境目を歩くことが多いので、常にハイマツの生え際に着目すると見つかる確率が高まるかもしれません。草地の真ん中を歩くことは少なく、いつでもハイマツの中に逃げ込めるようにするためです。また子育て時期であれば、耳を澄ませていると、母親がひなを呼ぶときに発する低い声を聞きとることができるかもしれません。昨今の温暖化や天敵の侵入で絶滅の危惧がより一層高まっているライチョウですが、あの愛らしい鳥が、自然の姿で、北アルプスの山々にいつまでも棲み続けることを願ってやみません。



地元発見探鳥会へ参加のおすすめ

関谷 孝

2020年から約2年間、コロナが世界中を巻き込んでパンデミックとなりました。現在も日本はオミクロン株の急激な感染拡大で行動が規制され、人との接触がこれまでのようにできません。そんな中、カワセミ会も感染対策をしながらできることを模索しています。遠出はできなくなってしまいましたが、その代わり新たに始まったのが「地元発見探鳥会」です。

地元八王子市には、身近なところでも行ったことがない場所がたくさんあります。「灯台下暗し」と言いますが、まさにその通り。今回私が参加した「地元発見探鳥会」を通して発見した地元ならではの魅力を皆さんにご案内します。

まず初めに地元の良いところは、なんといっても「近い」「すぐに行けるから、また行ってみたいくなる」「行ってみたら、友達にも教えたいくなる」のではないのでしょうか。それに、「地元なのに意外と知らないところがこんなにもある」ことに驚くと共に地域の魅力を再発見する喜びがあります。

今回私が行ったのは2022年1月25日：①富士森公園 ②緑町霊園 ③山田川沿い ④緑町公園 黄金橋解散のコースでした。参加者は7名。集合は、近いので9時。その時の様子をお知らせします。

①富士森公園 体育館前から林の中をぐるりと回りました。日が当たる梢にはたくさんのカラ類がいました。初めに発見したのはモズ。道路わきの電線に止まっていた。ハシボソガラスはあちこちに。コゲラが小さな体で木の皮をはがしています。時々「ギー」と特徴のある鳴き声が聞こえます。シジュウカラ、ヤマガラ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、キジバト。お馴染みの鳥ですが木々の間を飛びまわっていました。「平日で人がいないから」「ここの鳥は人に慣れているから身近に見られる」と会長の弁。いつもの探鳥会とは違ってゆっくり話を聞くことが出来ます。富士森公園は夏に花火大会で有名ですが、普段は知っていても来ることがありません。町中なのに木々がたくさんあり、野鳥の集まる貴重な場所になっていることが分かりました。この時期は木々が葉を落としているので野鳥観察にはもってこいです。初参加者の方からも「小鳥が餌を探してあちこち飛び回っているのが見ていて可愛いですね」とのつぶやきがありました。

②緑町墓地 高台で見晴らしの良いところにお墓があります。ここは、なんといっても富士山がとても美しく見られる絶好の場所。(写真参照) 墓地の植え込樹木の中にウグイス、メジロがいました。「ここから見える富士山は、雪が冠を覆い、左に大室山、右に高尾山が見え、配置もばっちりでした。しばし、みんなで景色を堪能しました。

③山田川沿い 川が自然のままのところには鳥がいました。藪が生い茂るところには、アオジがチッチと鳴いていました。メジロが冬の間花が咲くヤツデの花にくちばしを伸ばしていました。メジロが川で水浴びするのも見る事が出来、一同「かわいい！」と見入りました。キセキレイが凍った川面をよちよち歩いているのも面白い光景でした。



緑町墓地からの眺め

日向のところにはオスのジョウビタキ。そばを歩く人は気づかず。会長が「鳥を知らなければそのまま通り過ぎるよね。でも知っていたら、すごくうれしい気持ちになる。同じ人生生きていても心の豊かさが全然違うでしょう」その言葉にすごく共感しました。

途中、変わった祠がある。というので見に行きました。「姫竜神」立派な銅板に龍や干支が彫刻されています。屋根には、オナガが2羽。地元の方が世話をしているようで、造花が飾ってありました。

「川が氾濫するから、それを治めるために作ったのでしょうか」と会長の弁。これも地元ならではの秘密発見です。



緑町公園のシロハラ

④緑町公園 ここはまさに鳥のパラダイス。シメ、イカル、シロハラを一気に見ることが出来ました。イカルの黄色い大きな嘴。シメとシロハラ、ガビチョウ、ツグミが落ち葉を掻き分け食べ物を探していました。じっくり観察できました。シメのストライプ模様がきれいでした。ハシブトガラスやヒヨドリ、ムクドリもいました。去年の地元発見探鳥会では、珍しい鳥ニシオジロビタキをこの公園で見つけたとのことでした。

今回の地元発見探鳥会コースでは思いのほかたくさんの鳥を見付けることが出来ました。何よりこの時期だからこそ見える美しい雪化粧の富士山は穴場です。粕谷会長のその時々解説もとてもためになりました。ちなみにこのコースは会長のお散歩コースの一つだそうです。

観察した野鳥：20種（ベスト：ツグミ、シメ、イカル、シロハラ）

モズ、ハシボソガラス、キジバト、ハクセキレイ、コゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、ハシブトガラス、メジロ、アオジ、シメ、イカル、キセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、ガビチョウ、シロハラ

皆さんの地元にも「とっておきの観察場所」があるのではないのでしょうか。もし知っていましたら、「地元発見探鳥会」で紹介してください。そしてみんなで誘い合わせ、一緒に野鳥観察を楽しみませんか。

ホトトギスを友とする佐藤サヨ子さんの近況

カワセミ会会員の佐藤サヨ子さんから近況を 2021 年 12 月に頂きました。佐藤さんに了解を得られたので、その近況を以下に紹介します。

報告： 粕谷 和夫

粕谷会長様 大変永らくご無沙汰致しておりますが、お変わりなくお過ごしでしょうか？ 私も年を重ねる毎に身体のあちこちに不便を感じるようになり、病院通いがかかせない日々になっております。

今年は七生福祉園の新築及び改装工事、高幡台団地でのエレベーター工事、そして明星大学も前横から道路の整備、そしてその横にずらりと並んだ新築の家々。そのせいで今年の裏山に鳥は皆無の状態でした。しかし、その分団地の庭には色々な鳥たちがやって来てくれたようです。

8 月の午前 8 時半頃、病院に行くために家を出ると一羽の鳥が私の後をついて来るのがわかったので、曲がり角の所で立ち止まり後を振り向くと、何と私の後をついてきた一羽の鳥がやはり地面に下りて立ち止まり、私を確認すると羽を広げてその模様を見せてくれました。ホトトギスでした。そういえば私が鳥を見はじめた頃、裏山でホトトギスに出会うと鳴き声を出しておたがいにその声を自慢しあっていたことを思い出しました。やはり家の前のケヤキの木に止まって、いつも私を見ていました。

家の前には道路をへだててちいさな木立があるのですが、老人ホームが出来たため、この木立はだいぶ小さくなってしまいましたが、やはり鳥たちにとっては大事な場所なのでしょう。以前はアオゲラやホトトギスの他にもトラツグミやルリビタキなども来ていました。

団地の工事福祉園の工事も終わったようですから新しい年には再び鳥たちがやって来ることを期待しています。また、私の居間から向かいの木立を見ていると真っ赤なトサカのような姿の鳥がいるのに気づいてみると何とキジのオスが 2 羽、闊歩していました。

会長もあまり無理をなさらず鳥見を楽しんで下さい。そして来る年も思いがけない鳥たちの姿に楽しみが増えますように期待しています。来る年も会長にとっても良い年でありますようにお祈りいたしております。

2021 年 12 月 佐藤サヨ子

茨城県内のサシバの秋のタカ渡りの構造

日本野鳥の会茨城県技術顧問

池野 進

1. 日本野鳥の会茨城県の主に秋のサシバの渡り調査の歴史

茨城県内のサシバの渡りの初記録は、1983年9月13日に桜川市羽田で西に渡る6羽です。これが端緒となり、本会はNHKラジオ第一の調査から36年間サシバなどの秋のタカ類の渡り調査を続けています(表1)。調査は、内容から大きく4期に分けられます。第I期は1993年までの県内全域に人員を配置した調査で、3年目には茨城県の代表的な観察地の水戸市森林公園(以降、森林公園とする)や守谷市など観察にふさわしい場所が多数見つかりました。第II期は2000年までの代表地における連日調査が根付いた期間です。この期間で、各地の渡りの規模、期間、方向性、渡りの地域性がほぼ明らかになり、解決すべき謎が浮上しました。第III期は2014年までで、県東部の美浦村大山で8月末という驚異的に早いサシバの渡りピークの謎を解くため、茨城県東部の富士見塚古墳から千葉県東葛地方までサシバの渡りを追った結果、印旛沼まで顕著な方向転換があることが分かりました。続行中の第IV期は、残る課題に挑戦する総仕上げの期間です。一つは手付かずだった茨城県西部の渡りを探るため、筑西市茂田などや栃木県東部の益子の森で調査し、県西部の渡りは栃木県東部とつながりが深い別系統であることが濃厚です。2021年秋からは、数は多いが、どこかにつながるのか不明な森林公園の渡りを周辺地域からの観察で検証しています。

表1 日本野鳥の会茨城県の秋のタカ渡り調査年表

No.	期間	場所	調査主体	成果
1	1983/9/13	桜川市羽田	個人	県内初のサシバ6Wの渡り
2	1985/10/5	県内14ヶ所	NHKラジオ	この頃では遅すぎる
3	1988/8/16~10/10	県内25ヶ所	茨城支部	サシバとハチクマの出現時期と方向性の概要把握
4	1989/8/15~10/15	武具池等県内各地	茨城支部	9/24武具池46羽、第2波は水戸市森林公園と一致。大山で8月末にピーク
5	1991/8/15~10/10	県内各地	茨城支部	9/23群れの規模と時間から県民の森~武具池が繋がる。図1の資料を得る
6	1992/8/15~10/10	朝日峠等県内各地	茨城支部	朝日峠で9/13~23の7日間の調査で渡りはAMのみ、方向SWへ
7	1993/8/15~10/10	県内各地	茨城支部	とりで鳥の会主体で利根川流域45kmに調査網 取手~守谷が最多
8	1995/9月初~10月末	取手/守谷	とりで鳥の会	取手と守谷で連日調査始まる
9	1999/8/25~9/25	笠間市	茨城支部	県央初の連日調査で8月末~9月初旬のピーク確認
10	1999/9/5	旧荃崎町	茨城支部	オオタカ調査の副産物 渡りの26羽中、15SW・10S・1SE
11	1999/9/24日	利根川上流	茨城支部	利根川芽吹橋より上流では自然博物館付近が最多確定
12	2000/8/16~9/28	笠間市	茨城支部	3方向に渡り、9/20まではS、以降はSWかW
13	2002/8/15~9/27	富士見塚古墳	茨城支部	9月20日頃から渡り方向がSE⇒SWIに変わることをStrix Vol.22で発表
14	2002/8/10~9/26	水戸市森林公園	個人	連日調査開始 8月末~9月初と9月中の二山型ピーク
15	2004/8/16~10/1	稲敷市2ヶ所	茨城支部	甘田では9月上SSW⇒10/1SWIに変わる
16	2004~2006	稲敷市等14ヶ所	茨城支部	9月下に稲敷東部渡り終了だが、角崎~千葉泉矢口間では渡りが続く
17	2008/8/31~10/2	千葉県印旛沼~東葛	茨城支部	二山型ピーク、方向は9月上SE⇒9月下W、数は下旬に多い
18	2003~2013	水戸市森林公園	タカ渡りG	10年間のまとめ 毎年9月上旬が多く、秋分の日頃を境に急減
20	2012~2014	筑西市茂田など	茨城支部	茂田と下館の間をWSW~Wへ、Sなし
19	2013/9/12~9/24	水戸市谷津町	個人	森林公園の南側 方向は9月上S⇒9月下W 数は中旬が多い
21	2017~2020	栃木県益子の森	茨城支部	方向はSWが普通で、9月中旬までSEが少数混じる
22	2021/8~10/2	城里町磯野	個人	森林公園西側のサシバはSの渡りだけの意外な結果

2. 2020年まで成果のうちの最重要な事実

2020年までの35年間の調査対象は、サシバとハチクマを主に、現れたすべてのタカ類です。ここでは、全県に分布し、生息数の多いサシバに絞り、その渡りの理解を深めるため、表1の成果の中からキーとなる渡りの地域性と方向性について概略します。

サシバの生息環境に基づいた茨城県の地域区分は、山林が多く、耕作地の際の林で繁殖する県北部、発達した谷津で繁殖地が隣り合う県東部、広い畑と小さな林が入り混じる環境で繁殖する県中部、平地に耕作地が広がる県西部の4地区になります。県北部と県東部では、西関東で渡りが本格化する1ヶ月

以上前の8月中旬から短距離を移動するサシバが現れます。しかし、地付個体か、渡り個体かの判断は困難です。しかし、見晴らしの良い場所で観察すると、8月末から9月初旬に一直線に去って戻らない、最初の渡りのピークがあります。特に、生息密度の濃い県東部で顕著です。その後、秋雨前線の停滞で渡りは小康状態になりますが、移動性高気圧が張り出すようになる9月20日すぎには県東部を除く3地域で渡りがあり、県北部では2回目の渡りのピークになります(図1)。8月末から9月初旬の県北部や県東部の渡り方向は、南東~南の範囲です。南向きの渡りは、9月20日頃から他の地域と同様、南西~西の範囲になります。なお、西向きに変わる転換点は、9月中旬までの晴れの日の多寡によって、南北に年々変わります。しかし、茨城栃木県境から筑波山塊の連なりより西側では当初から西南西~西の方向性を示すため、茨城県内の他の地域とは別系統の渡りのようです(図2)。森林公園など県北部の渡りは、県央部の取手や守谷を目指すかにみえます。しかし、県北部で9月初旬頃に動いた以上の数が、9月下旬に県央部で記録されるので、南向きから西向きに変わった県東部の個体群が加わったことを示唆しています。

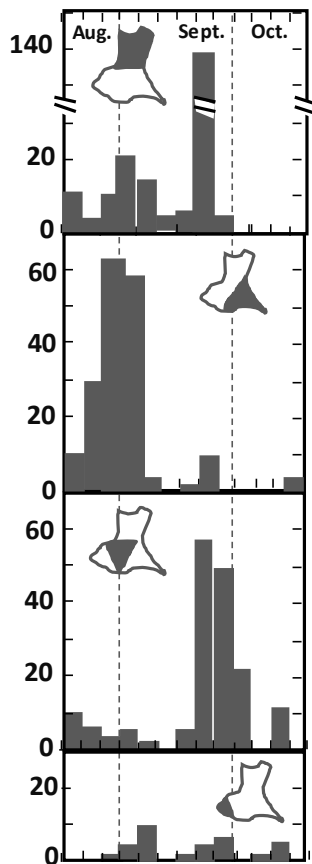


図1 茨城4地区の秋のサシバの動き

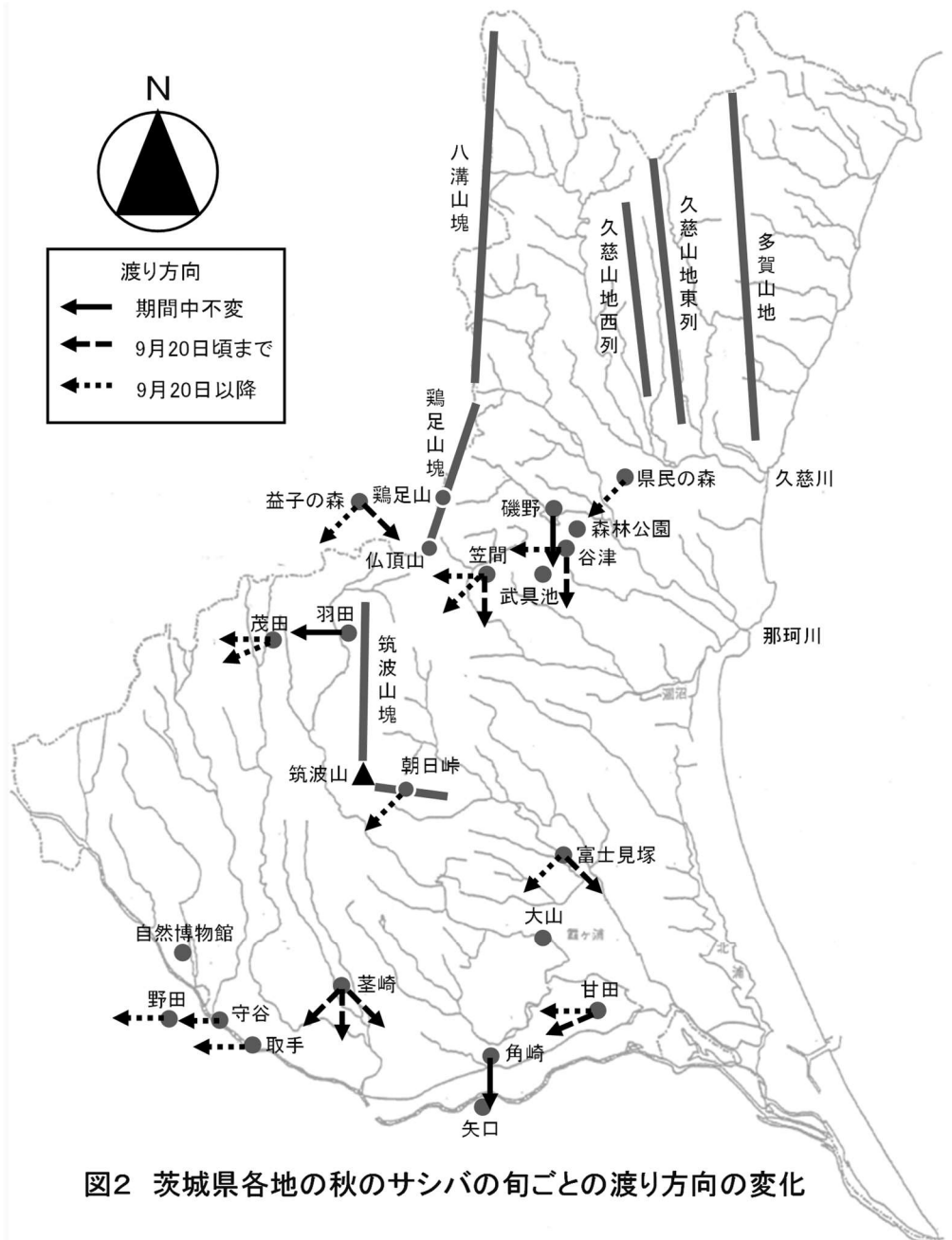


図2 茨城県各地の秋のサシバの旬ごとの渡り方向の変化

3. 2021年の森林公園周辺部の意外な結果が新たな謎に

HP上の森林公園の渡りの数は、参加者1人1人の申告数の合計（出現延べ数）で、渡りの有無や方向性は考慮外です。西に渡ると言う運営者に従い、西の鶏足山で待つと、仏頂山を数羽が南西に渡るだけでした。森林公園のすぐ南の水戸市谷津町で構えると、9月上旬までは南向きですが、9月下旬には西向きになり、通常の方法転換です。そこで、2021年の観察地を9月初旬までは、森林公園南の眺望抜群の高峠で、それ以降は森林公園のすぐ西の城里町磯野にしました。その結果、8月下旬から9月上旬までは、異例な涼しさと日照不足で、タカ類はほとんど動きません。磯野に移った9月中旬以降、夏の日差しが戻り、サシバの渡りが再開すると、サシバの渡り方向は、意外にも森林公園では死角となる南で一貫していました（図2）。また、県北部では通常2回の顕著なピークがあるのに、1回だけでした。異例すくめの2021年の渡りでしたが、少なくとも今後2年程度の観察を続け、何が正常かの謎解きに挑みます。その結果は、sasiba@googlegroups.comに逐次掲示します。

外部機関が主催する探鳥会の支援記録（2021年7月～12月）

○八王子市立上川口小学校 2021年度3・4年 第2回野鳥観察会支援

日時： 2021年11月19日（金） 8:40～10:05

天気： 晴れ

場所： 学校周辺東部・西部コース

観察した野鳥：18種(両コース合せて)

カルガモ キジバト サンショウクイ(リュウキュウ) モズ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ
イカル ホオジロ アオジ 外来種・ガビチョウ

参加者 上川口小学校3・4年児童11名 教職員3名

カワセミ会6名 市村緑 加藤岸男 門口一雄 佐藤哲郎 玉木雅治 玉木ちづ子

概要・感想等（担当の加藤が参加した東部コースの様子を報告する。）

4年生が進行を担当するのは今回が最後。仕上げだ。出発式をしている目の前の電線で、ホオジロが囀っていた。キジバトも2羽飛ぶ。ハクセキレイが鳴きながら過ぎ去る。幸先のいいスタートとなった。しかし、しばらくはヒヨドリのみ。見通しのいい畑に出ると葉を落としたケヤキに2羽止まった。ヒヨドリだろうと思いつつ見ると、クチバシの黄色いイカルだった。じっくり観察した。続いてサンショウクイの声。リュウキュウだ。30羽ほどの群れが飛んだが…、カワラヒワとした。スズメを見ながら川辺を進むとカルガモの番がいた。女の子が、かわいい、と大きな声で言った。アオジの声も…。

メジロの声を聞きながら校庭に到着。鳥合せをした。イカルが気に入ったようだった。担任の先生からは、カワセミ会の方のヒントで鳥の名前や特徴が次々と出て来て皆さんの成長を感じた、との話があったが、私達も同感だった。

終了後、4年教室前に行き、子ども達の調べ学習の成果を拝見。素晴らしかった！

（担当 加藤 岸男）

探鳥の記録(2021年7月～12月)

7月11日(火)	月例探鳥会	醍醐川(夕焼け小焼け～ににく沢出合)
10月10日(日)	公開探鳥会	浅川(長沼橋～大和田橋)
10月16日(土)	遠出探鳥会	都市公園シリーズ⑧ 多磨霊園
10月20日(水)	平日探鳥会	三頭山
10月27日(水)	平日探鳥会	高尾山周辺(小下沢林道～関場峠～夕焼け小焼け)
11月8日(月)	平日探鳥会	高尾山周辺(大月市秀麗富嶽シリーズ④ 高畑山)
11月12日(金)	遠出探鳥会	多摩湖・狭山湖
11月14日(日)	月例探鳥会	多摩川(中央線鉄橋～通称「ひょうたん池」)
11月17日(水)	平日探鳥会	秋川、広徳寺、小峰公園
11月20日(土)	公開探鳥会	浅川本流(鶴巻橋～大和田橋)
12月1日(水)	平日探鳥会	上柚木公園
12月6日(月)	平日探鳥会	高尾山周辺(南高尾山稜フォーサミッツ)
12月12日(日)	月例探鳥会	湯殿川、片倉城跡公園
12月16日(木)	平日探鳥会	北秋川、白岩林道
12月19日(日)	遠出探鳥会	三番瀬・谷津干潟
12月31日(金)	遠出探鳥会	三浦富士から武山大晦日探鳥会

* 新型コロナウイルス感染症対応のため、緊急事態宣言期間中のカワセミ会主催の探鳥会は中止となりました。

○月例探鳥会 醍醐川(夕焼け小焼け～ににく沢出合)

日時：2021年7月11日(日) 8:50～11:00

天気：曇り

場所：夕焼け小焼け～ににく沢出合

観察した鳥：21種(ベスト：クマタカ)

キジバト、ホトトギス、クマタカ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ミソサザイ、キビタキ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、ガビチョウ

参加者：13名

概要：

新型コロナの影響で、6月21日から八王子市・日野市限定でようやく再開した探鳥会だが、今度は雨のために2回の探鳥会が連続して中止となった。今日は午前中「曇り」の予報のため、ようやく実施にこぎつけることができた。しかし、明日からはまた「緊急事態宣言」となり、また探鳥会はしばらくお預けである。

そんな中で行われたこの探鳥会には13名の会員が集まった。初参加の会員もあり、自己紹介をしてから探鳥会をスタートした。

醍醐川沿いを歩いていくと、時折ツバメが舞い、ウグイスも所々でさえずりを聞かせてくれた。この時期はキセキレイが多いコースだが、今日も幼鳥と思しきキセキレイが多く見られた。醍醐川を横切る送電線の鉄塔近くになにか黒いものが見える。双眼鏡で見るとどうもクマタカのような。皆でじっくり見てクマタカと確認。その後は鳴かず飛ばずで、キビタキはようやく1カ所で声を聞いたのみ。オオルリは声すら聞くことができなかった。

最後に、ににく沢出合で鳥合わせを行う。終点でようやくミソサザイが遠くで鳴いてくれて、全部で21種。これは昨年と同じであった。じっくり見られた鳥が少なく、ベストは「クマタカ」のみとなった。

(担当 佐藤 哲郎)

○公開探鳥会 浅川（長沼橋～大和田橋）

日時：2021年10月10日（日） 8:30～11:00

天候：曇時々小雨

場所：京王線長沼駅～長沼橋～大和田橋

観察した鳥：28種（ベスト：アリスイ、カワセミ、イカルチドリ、コゲラ）

キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、ヒメアマツバメ、イカルチドリ、カワセミ、アリスイ、コゲラ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト（カワラバト）、ガビチョウ、（参考：ヨシゴイ）

参加者：【一般参加】7名：内小学生1名 【会員】28名 【合計】35名

概要：

9月末で新型コロナの緊急事態宣言が解除され、ようやく探鳥会が開催できるようになった。公開探鳥会も本当に久しぶりである。集合場所の京王線長沼駅には、探鳥会の再開を待ちかねたように会員28名が集まった。一般参加の方は7名（内小学生1名）であった。

一通り注意事項の説明や11月の企画展、野鳥図鑑のPRを行った後、探鳥会を開始した。長沼駅高架下にあるヒメアマツバメの巣の下に張られたネット上では、営巣しているキジバトの姿が見られた。まるでハンモックのようで風通しも良く、まさに優良物件といったところだ。

長沼橋を渡り、左岸を上流方向に歩く。モズが高鳴きを繰り返し、また河原からはホオジロのさえずりもよく聞こえた。小石の河原ではイカルチドリが何度か可愛らしい姿を見せてくれた。初めて見た方もいて歓声をあげていた。さいかち池では、例年この時期に見られるはずのコガモが全く見られなかったが、池の対岸の茂みの中にはゴイサギ（幼鳥）が確認できた。さいかち池北側の林では、チョウゲンボウが飛び去る姿を確認した。

中央線鉄橋をくぐり、再び土手に上がって鳥を探す。水管橋上流側の中洲に、なんとアリスイを確認。珍しい出会いに皆大喜びであった。今日のベストは間違いないだろう。新浅川橋で右岸に渡り、河原に新たに作られた歩道を歩く。この後はこれという鳥も出ないまま、終点の大和田橋に到着。

大和田橋の下で鳥合わせを行う。後ろの方ではイソヒヨドリも確認したとのこと。全部で28種。多くはないが、この時期ではまずまずだろう。期待したノビタキが見られなかったのは残念。ベストは予想通りのアリスイに加え、カワセミ（少し遠かったがじっくり見られた）、イカルチドリ（意外に見つけにくい鳥だが多くの人に見てもらえた）、コゲラ（近くでよく見えた）の4種となった。

天気予報では「曇りのち晴れ」とのことだったが、時折小雨も降ってくる天候だった。しかし、探鳥会を再開できたうれしさがそれを吹き飛ばしてくれた。

なお、中央線鉄橋をくぐり左岸土手に上がる地点で、ヨシゴイの可能性のある鳥が、川の方に飛び去るのを参加者1名が観察。参考記録として観察した鳥の末尾に記した。（種数には含めていない）（担当 佐藤 哲郎）

○遠出探鳥会 都市公園シリーズ⑧ 多磨霊園

日時：2021年10月16日（土）9:30～13:15

天気：くもり(時々霧雨)

行程：高尾(京王)駅発 8:00→多磨霊園駅着 8:42・9:02 発(武蔵小金井駅南口行)→多磨霊園表門着 9:06(武蔵小金井駅南口発 9:05→表門着 9:21)表門発 9:30⇒9区・10区・11区・12区・5区⇒浅間山公園着 11:30(昼食・休憩)・12:00 発⇒表門着 13:15(鳥合せ)

観察した鳥：14種（ベスト：エナガ オナガ キビタキ ホンセイインコ）

キジバト オオタカ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ キビタキ

外来種 カワラバト(ドバト) ホンセイインコ(ワカケホンセイインコ)

参加者：24名

概要・感想等：

早朝 6 時過ぎ、携帯電話が鳴る。「今日やりますか？」何通かあった。

緊急事態宣言解除後、再開 2 回目の探鳥会は、雨模様だった。早朝のみの雨という気象情報を信頼して実施。24 名の方の参加があった。

多磨霊園表門に集合する。本日全行程を案内していただく地元の大原ひろみさんご挨拶。大原さんは遠出した日以外はほぼ毎日早朝から夕方までこの多磨霊園で鳥を観て、撮影されているとのこと。霧雨の中を出発。まずはオナガ！そしてワカケホンセイインコ。2 種とも相当数が飛び回っていた。これまでに出現した種と場所とその時の詳細を巧みな話術で説明してくださる。鳥たちは少ないが、まるで今目前にいるような感じになった。

5 区で休憩、自由観察時間を設定したが、キビタキが見つかりみんなで観察した。オスメス両方いた。霧雨は降ったりやんだり。傘をさす人、ささない人それぞれ。浅間山の秘密(?!)の場所近くを通り、浅間山公園・中山で昼食。下山して霊園に戻るとエナガの群れに遭遇。じっくり観察する。大原さんが大好きな鳥だそう。ヨタカポイントで 10 分程みんなで探すが見つからない。エナガの群れを見ていると、相当数のカラスがけたたましく鳴き、飛び出したので探すと、オオタカを追いかけていた。

霊園表門に戻り鳥合せ。大原さんに、会報最新号をお礼としてプレゼントした。出現種数は少なかったが、多磨霊園の情報を一杯いただき、楽しい探鳥会となった。

(担当 加藤 岸男)

○平日探鳥会 三頭山

日時：2021 年 10 月 20 日 (水) 9:35~15:10

天気：晴れ

コース：都民の森(森林館)を出発し三頭大滝經由ブナの路の沢筋を登り、むしかり峠から三頭山頂、下山は「こまどりの路」から野鳥観察舎經由「香りの路」を通過して森林館へ下った。

観察した鳥：14 種 (ベスト：ゴジュウカラ、コガラ)

コゲラ、アカゲラ、カケス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、マヒワ、ウソ

参加者：5 名+会員外 1 名

概要、感想等：

三頭大滝への路(森林セラピーロード)でホソバツルリンドウが開花しているという情報があり、何とか見つけることができた。地味な目立たない花であった。この日は下山の「香りの路」でツルリンドウ、リンドウも開花していて、リンドウ三兄弟に出会うことができた。三頭山の山頂からは素晴らしい富士山を見ることができた。帰路、熊の真新しい木の幹への引っ掻き爪痕があった。下山路「こまどりの路」で直ぐ近くに現れたゴジュウカラ 2 羽が疲れを癒してくれた。ミソサザイ、マヒワ、ウソは声での確認である。

(担当 粕谷 和夫)

○平日(高尾山周辺)探鳥会 小下沢林道~関場峠~夕焼け小焼け

日時：2021 年 10 月 27 日 (水) 8:30~14:10

天気：曇り時々濃霧(薄日もあり)

行程：高尾駅発 8:12(小仏行バス)→大下着 8:25・8:30 発⇒キャンプ場跡⇒関場峠着 11:10⇒黒ドッケ着 12:40(昼食・休憩)・13:05 発⇒夕焼け小焼けバス停着 14:10・14:32 発⇒高尾駅着 15:03

4.観察した鳥：18 種 (ベスト：ヤマドリ キセキレイ エナガ)

ヤマドリ アオバト アオゲラ カケス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ トラツグミ ショウビタキ キセキレイ ハクセキレイ アオジ

5.参加者：4 名

6.概要・感想等：

高尾山周辺探鳥会は 6 ヶ月ぶり。前回は、ヤマドリに会いたい！とのタイトルで実施した「稲荷山・高尾林道」コースだったが、ヤマドリには会えず！それが、今回 2 回も

遭遇！ヤマドリ・オスに！4名の参加者の内3名は前回の参加者。やっと雪辱できた！曇天、時々小雨、そして濃霧。鳥の声も余り…。キセキレイとエナガが時々出現する程度。まだ台風被害の残る林道を進み、旧キャンプ場の少し手前に来た時、長い尾のヤマドリが左へ飛んだ。更に進み、浩宮生誕記念碑の手前で、長い尾のヤマドリが左に飛び直後右に飛んだ。鈍い光の中で飛翔する姿が輝いていた。一同、感激！送電線の下を過ぎた所で、トラツグミが堰堤の上から藪の中に飛んだが、じっくりは観察できなかった。

関場峠から黒ドッケまでは、小さなコブが5つも連続する。濃霧の中でアオバトの声を聞いた。ゆっくり歩いて黒ドッケに到着。視界がない中での昼食。そこからは下りのみ。ヤマガラやコガラの声を聞きながら夕やけ小やけふれあいの里に着いた。快い疲れだった。(担当 加藤 岸男)

○平日（高尾山周辺）探鳥会 大月市秀麗富嶽シリーズ④高畑山

日時：2021年11月8日（月）9:30～15:50

天気：曇りのち晴れ(午前は霧雨あり)

行程：豊田 8:10→八王子 8:14→高尾駅発 8:23→猿橋駅 9:05・9:18 発(路線バス)→朝日小沢上バス停着 9:36・9:40 発⇒鈴ヶ音峠 10:40⇒突坂峠⇒大桑山⇒高畑山着 12:45(休憩・昼食)13:20 発⇒地蔵 14:15⇒小篠貯水池⇒鳥沢駅着 15:50・16:21 発⇒高尾駅着 16:57(東京行)

※朝日小沢上バス停から突坂峠までは林道歩き

観察した鳥：27種（ベスト：アトリ マヒワ 柿を啄むムクドリ）

トビ コガラ アオガラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ
ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ショウ
ビタキ イソヒヨドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ マヒワ
イカル ホオジロ アオジ コジュケイ ガビチョウ ソウシチョウ

参加者：4名

概要・感想等：

秀麗富嶽シリーズなのに、今日は姿を見せなかった富士山。その代わりに…。

晴れという気象情報に反し、朝日小沢上バス停からの林道は、霧雨が時々降っていた。ショウビタキ、コジュケイ、イカル等の声と姿を楽しみながら鈴ヶ音峠を過ぎ、NTTの専用道路を進むと少し遠くの山腹をマヒワの群れが飛んだ。しかし、見失い暫く進むと高木の枝先に数羽のマヒワがいた。突坂峠から登山道に入り急登が続く。大桑山を過ぎると初心者コースとは思えない難所に出くわした。雨に濡れて滑るので、巻道を進む。どうにか通り過ぎ、しばらくして高畑山に着いた。日は射し始めたが富士山は雲に隠れていた。

鳥沢駅に向けて下山開始。落葉で根っこが隠されて滑りやすい。難儀しながらも耳は野鳥達の声の聞こえようとしている。するとアトリの群れを発見。左から右へ枝移りしていた。100羽はいただろうと思われる。地蔵を過ぎ小篠のため池へ。しかし工事中で水はない。期待したカモ類は見られなかった。桂川を渡り、国道20号線に向かうと、柿を啄むムクドリの群れに出会った。そして、イソヒヨドリのメスにも。鳥沢駅で鳥合せ。

期待したヤマドリと富士山は見られなかったが、今期初見のマヒワとアトリに大満足した参加者だった。多少の疲れはあったが…。(担当 加藤 岸男)

○遠出探鳥会 多摩湖・狭山湖

日時：2021年11月12日（金）8:30～13:40

天気：晴

場所（コース）：多摩湖・狭山湖

上北台駅・・・東大和市狭山緑地・・・多摩湖・・・狭山湖・・・西武球場前駅

確認した野鳥：37種（ベスト：タヒバリ、マガモ、ヤマガラ）

オシドリ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、イカルチドリ、トビ、オオタカ、コガラ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、モズ、ヤマガラ、シジュ

ウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ガビチョウ

参加者：8名

概要：

探鳥コースは、郊外の住宅街から雑木林（緑地）、湖畔、草地を巡るほぼ平坦な歩きやすいコースです。晴れて無風状態、平日のため人出も少なく、絶好の探鳥日和でした。多摩モノレール上北台駅から狭山緑地に向かう住宅街ではアンテナにとまるジョウビタキや街路樹等を飛び回るヒヨドリ、メジロを観察する。緑地に入るとヒヨドリの鳴き声ばかりが響き渡り、メジロやカラ類の鳴き声が聞きづらい。途中、展望のきく高台で遠く八王子や丹沢の山々の山座同定を楽しみ、湖畔のサイクリングロードを進み多摩湖の中堤防に到着。堤防は、大掛かりな工事中で上の貯水池の水は抜かれ、仮設の歩道が架けられて、転落防止用の金網が張られていた。網目越しに水のない湖底付近でイカルチドリ、タヒバリが採餌していた。多摩湖北側の慶性門先の広場では、ヤマガラがエゴノキの実を啄む様子と上空をオオタカが飛ぶのを観察した。先に進み狭山湖畔に着く。堤防中程で消防署の方が訓練中で、水鳥は遠くの対岸付近にいて同定できない。暫くして消防の方々は引き上げるが、水鳥は避難したまま。カンムリカイツブリを見て昼食とした。

午後は、堤防の上を水鳥の集まっている方向を目指して進む。イカルチドリやタヒバリが石積の間から時々顔を出す様子が見られた。堰堤の上空高くチョウゲンボウが旋回した。堰堤北端付近で水鳥の集団を観察する。マガモ、オオバンの大群にオカヨシガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ等のカモの仲間が見え隠れするのを観察した。湖面越しに白い富士山を見て帰路に着いた。（担当 門口 一雄）

○月例探鳥会 多摩川（中央線鉄橋～通称「ひょうたん池」）

日時：2021年11月14日(日) 8:00～11:30

天気：晴れ

コース：多摩川（中央線鉄橋～通称ひょうたん池）

観察した鳥：48種（ベスト：ノスリ、ハイタカ、ツグミ）

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ヨシガモ、イソシギ、トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ミサゴ、カワセミ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ベニマシコ、カワラヒワ、リュウキュウサンショウクイ、ホオジロ、アオジ、ドバト、ガビチョウ

参加者：19名

概要・感想等：

風のない秋晴れ日、冬鳥を求めての月例探鳥会であった。スタート地点のJR中央線鉄橋上流側の淀みにオオバンやヒドリガモ、ヨシガモなどを見、また鉄橋の下流側の淀みに飛来しているカンムリカイツブリを今年もスコープで観察した。対岸側の木にツグミが1羽止まっているのを皆で見た。ジョウビタキもオス・メスを何か所かで身近に見られた。桜並木のあたりではリュウキュウサンショウクイの鳴き声を聞き、数名が飛び姿を確認した。

スタート地点の対岸の木にノスリが止まっており、コースの途中でも2羽のノスリが上空を旋回するのがじっくり見られた。またミサゴやハイタカ、オオタカなどの猛禽類が青空の下をゆっくり飛ぶのを観察できた。

新旭橋でトイレ休憩の後、多摩川の右岸側の河原に降り通称トラック道路を歩いた。鳥は少なかったが、ひょうたん池手前でベニマシコの鳴き声を聞き、飛び姿も見られた。

ひょうたん池ではコガモやオカヨシガモが見られた。排水路ではブロックの上を歩くタヒバリが見られた。

冬鳥のツグミ、ベニマシコ、アオジのほか多くのカモ類が見られ、また青空を悠々と飛ぶ何種類もの猛禽類が見られるなど48種もの野鳥が楽しめた探鳥会でした。

（担当 福本 健）

○平日探鳥会 秋川、広徳寺、小峰公園

日時：2021年11月17日（水）9:25～14:20

天気：晴れ

コース：秋川の秋川橋から左岸堤防を小和田橋まで歩き、広徳寺に立ち寄り小峰公園まで歩いた。（当初予定では人里から浅間尾根登山探鳥会だったが、バスの時刻表が変更されていたため、人里バス停着が遅くなるので、武蔵府中五日市駅から近いコースに変更した）

観察した鳥：27種（ベスト：マガモ、カワセミ、キセキレイ）

マガモ、カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、アオジ、コジュケイ、ガビチョウ

参加者：4名

概要、感想等：

秋川ではマガモ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、キセキレイと続き、小和田橋付近では清流に舞い落ちる落葉が綺麗であった。広徳寺はイチョウの巨木の黄葉が見頃で、この黄葉が目当てなのか、多くの人が集まって来ていた。東京都の天然記念物に指定されているタラヨウが赤い実をぎっしりつけていた。境内の奥の下草のミヤマフユイチゴが群落状にあり、赤い実が目立った。小峰公園ではルリビタキを探したが出会うことができなかった。（担当 粕谷 和夫）

○公開探鳥会 浅川本流（鶴巻橋～大和田橋）

日時：2021年11月20日（土）8:00～11:00

天気：快晴

場所：浅川本流（鶴巻橋～大和田橋）

確認した鳥：28種（ベスト：アリスイ、カワセミ、モズ）

キジ（声）、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、カワセミ、アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス（声）、ムクドリ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ（声）、ホオジロ、カワラバト（ドバト）

参加者：20名

概要、感想等：

八王子・日野カワセミ会 35周年記念事業の一環としての公開探鳥会が八王子市内の浅川で11月20日（土）に開催され、一般の方6名を含む20名の方が参加された。開始時は10℃以下とやや寒さも感じられたが、雲一つない好天の下、次第に暖かな日差しの下での探鳥会となった。

開始間もなく、モズやジョウビタキを見ていると「なんかわからない鳥がいる」との声。スコープを向けてみると、なんと市役所脇の木にとまっているのはアリスイでは。私を含めた多くの方にとって久々に見る姿であった。その後、右岸から観察しながら下流に向かうと、おなじみのカワセミ、サギ類、カモ類、セキレイ類のほか、浅川橋では橋脚にとまるイソヒヨドリの姿を見ることができた。ちょうどNHKの「ダーウィンが来た」で八王子のイソヒヨドリと会の活動が取り上げられてから間もないころで、一般の方の関心も高くタイムリーであった。

浅川橋下流では、一昨年の夏の大雨の際に破壊された河床は補修工事ほぼ終わっていて、ダイサギ、アオサギなどに混じって、イソシギ、イカルチドリなども見られた。さらに、ベニマシコの声が時折「フィ、フィ」と聞こえる枯野にも注意しながら、ゴールの大和田橋を目指した。タカ類は今回、トビしか見られなかったが、水管橋付近でオオタカが目撃される頻度が高くなっている。ゴールの大和田橋下では夏季に繁殖に使われた多くのイワツバメの巣の跡も確認した。

この区間ではかつて、浅川橋付近でオナガガモが、水管橋付近でユリカモメがそれぞれ百羽前後見られた。同じく35周年記念行事の一環として開催された野鳥展でも、こ

の間にカモ類、カモメ類の激減したことが紹介されていたが、それを象徴するように種数、羽数ともに少なくなったことを実感した。それでも、参加者の方からは「八王子の市街近くを流れる浅川で、カワセミをはじめとする多くの野鳥が見られることに驚いた」との感想も寄せられた。生物多様性の重要性や気候変動、SDGsに関心が高まる中、浅川の水辺とその周辺の生物多様性を知り、その環境維持に努めることの重要性はますます大きくなっている。この度の企画が、そうしたきっかけになってくれればと願っている。
(担当 宮越 俊一)

○平日探鳥会 上柚木公園

日時：2021年12月1日(水) 8:30~11:00

天気：晴れ

コース：野球場前の駐車場⇒テニスコート⇒大栗川⇒愛宕神社⇒芝生の丘⇒野球場前の駐車場

観察した鳥：18種(ベスト：アオゲラ、ビンズイ)

キジバト、アオサギ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ

参加者：1名

概要・感想等：

- ・昨夜から朝方まで降り続いた雨が止んで、丘陵の谷間の所々に霧が湧いていた。
- ・カワラヒワが30羽、ヤマブキ橋そばの雑木林の梢から一斉に飛び立って、野球場東側の花壇で採餌していた。耕された土をついばんだり、わずかに残るコスモスの種に群がっていた。
- ・ビンズイが3羽、野球場北側の雑木林の林床から近くの枝に飛び移り、ハクセキレイのように尾羽を上下させていた。
- ・ジョウビタキの雄が、愛宕神社近くの雑木の枝で明るく暖かい日差しに向かって、ひととき強く鳴いていた。尾羽を広げて羽づくろいをしていた。
- ・モミジやクヌギ、コナラの雑木林が、晴れ上がった青空に美しく映えていた。

(担当 工藤 正子)

○平日(高尾山周辺)探鳥会 南高尾山稜フォーサミッツ

日時：2021年12月6日(月) 7:40~11:40

天気：曇りのち霧雨

行程：高尾駅発 7:32⇒高尾山口駅着 7:35・7:40 発⇒梅の木平⇒西山峠⇒中沢峠 10:40⇒コンピラ山⇒大洞山 11:10⇒大垂水峠バス停着 11:40・12:01 発(路線バス)⇒高尾山口駅⇒高尾駅前 12:21⇒八王子駅着 12:44

観察した鳥：21種(ベスト：カワガラス エナガ カケス)

アオサギ コゲラ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ ヒガラ
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ミソサザイ カワガラス
ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ セグロセキレイ ホオジロ アオジ コジ
ユケイ

※参考 開始前 イソヒヨドリ(高尾山口駅付近)

参加者：3名

概要・感想等：

路線バスは一日に3本のみ。昼のバスに合わせて、7時40分、20号線沿いを歩き始める。寒い。でもすぐに案内川でカワガラスを発見。じっくり観察でき、なんだか寒さを忘れそうになった。次はエナガの群れ。川中に佇むアオサギ。山下で西山峠への道に入ると、ジョウビタキ、ルリビタキの声。コジユケイも怪しい声で鳴いた。峠に近づくとミソサザイが鳴いた。

西山峠から南高尾山稜の稜線を歩く。登山者、トレイルランナー、意外と多い。東山からの展望はもう一つ。入沢山は巻いて、見晴台へ。中沢山には10時30分到着。中沢峠を過ぎると、カケスが6羽、鳴きながら飛んで行った。4つ目のピーク大洞山を過ぎると濃霧にまかれ、雨を感じるようになった。大垂水峠の橋の手前で鳥合せ。バス停で

は傘が必要なくらいの霧雨となった。バスは定刻に来了。(担当 加藤 岸男)

○月例探鳥会 湯殿川、片倉城跡公園

日時：2021年12月12日(日) 8:00~10:50

天気：晴れ

コース：片倉城跡公園から湯殿川に出て、上流方向に向かい殿田橋で折り返して、カタクリ橋からつどいの森公園経由片倉城跡公園に戻った。

観察した鳥：34種(ベスト：カワセミ、アオサギ、シメ、ウグイス)

カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、イソシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、アオジ、ドバト

参加者：28名

概要、感想等：

湯殿川に出るとジョウビタキ、カワセミが観察され、さらに進むとバン、オオバン、イソシギ、カルガモ、コガモが水面で採餌していた。コガモは30羽くらいの集団であった。稲荷橋側の稲荷神社のケヤキでエナガ、シジュウカラがせわしく飛び交っていて、その直ぐ近くのケヤキの高い所には休憩モードのアオサギ1羽がじっとしていた。その下の川の中のツルヨシの中からウグイスの地鳴きが聞こえ、姿も見せてくれた。

つどいの森公園に向かう途中ではハシボソガラスが電柱の上から道路に小さな物を落としていた。オニグルミの実かも知れない。つどいの森の入口付近でシジュウカラ、ジョウビタキを見ているとその先の葉を落とした木にホオジロ、シメが止まっていた。片倉城跡公園ではルリビタキのオスがいたが、直ぐに姿を消してしまった。探鳥会終了後は毎年恒例の巣箱の清掃を行った。(担当 粕谷 和夫)

○平日探鳥会 北秋川、白岩林道

日時：2021年12月16日(木) 10:55~14:50

天気：晴れ

コース：武蔵五日市駅から北秋川の藤倉までバスで行き、北秋川の上流の白岩沢沿いの道を西に向かって進み檜原きのこセンターへの分岐の先から入間白岩林道に入って檜原街道の浅間尾根入口まで歩いた。

観察した鳥：12種(ベスト：クマタカ、アトリ)

キジバト、クマタカ、ハシボソガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、カワガラス、ルリビタキ、カヤクグリ、アトリ

参加者：7名

概要、感想等：

藤倉から歩き出して直ぐ、北秋川でカワガラスが上流方向に飛んで行く姿が見られた。北西の空にはクマタカが現れて旋回飛翔をした。カヤクグリはチラッとで完全な確認ではない。

入間白岩林道ではアトリの群れに3回出合った。その内の最初のものは50羽くらいの数で一部はヤマハンノキの種を食べていた。ゴールの浅間尾根登山口バス停の手前にある民宿の浅間尾根木庵に立ち寄りコーヒーを頼むとお茶うけとして柚子の砂糖漬、竹の子と蒟蒻の煮物が付いてきた。(担当 粕谷 和夫)

○遠出探鳥会 三番瀬・谷津干潟

日時：2021年12月19日(日) 10:30~15:00

天候：快晴

場所：ふなばし三番瀬海浜公園及び谷津干潟

観察した野鳥：44種(含む外来種1種)(ベスト3：アカアシカツオドリ、ミヤコドリ、ズグロカモメ)

オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、

ホシハジロ、スズガモ、ホオジロガモ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、アカアシカツオドリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ダイゼン、シロチドリ、ミヤコドリ、ダイシャクシギ、ミユビシギ、ハマシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、オオタカ、モズ、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、オオジュリン、ドバト、カラス SP.

参加者：18名

概要・感想等：

行きは八王子駅～お茶の水駅～船橋駅と電車を乗り継ぎ、京成船橋駅前からバスで三番瀬に向かった。この日の潮回りは「大潮」、干潮の時刻は11時頃で、到着時は広く干潟が形成されていた。まずは、汀線近くで動き回るミヤコドリやハマシギの群れと1羽のダイシャクシギを観察した後、船橋側の突堤に向かった。突堤の端にはカメラマンが集まっており、レンズが向けられている方向を双眼鏡で覗くと、そこには本来は南方の外洋でしか見られないアカアシカツオドリの姿が…。まだ、若い個体のようにあったが、立ち上がった時にはその名前の由来である赤い足も見え、また、長い翼で飛翔する姿もしっかりと観察できた。他にカンムリカイツブリやハジロカイツブリ、ズグロカモメ等も見られたが、期待していたウミアイサやピロードキンクロ等の海ガモは残念ながら、観察できなかった。朝の内は冷え込み、今年初の「冬日」ではあったが、日中は風もなく、温かい日差しの下、展望台下の階段に座ってお昼をとってから、バスと電車を乗り継いで、次の探鳥地に移動した。

京葉線南船橋駅で電車を降り、歩いて谷津干潟へ。干潟は潮が満ちてきており、ここではオカヨシガモやホシハジロ、スズガモのカモ類を間近に観察できた。淡水池ではハシビロガモの姿も見られた。一部、残った干潟にはシギチの姿はなかったが、複数羽のズグロカモメがカニを捕まえて食べる姿を皆でじっくりと観察した後、谷津干潟自然観察センターに入館した。ここでは特別企画展「魅力的な鳥たちと自然～千島列島～」が開催されており、自然写真家の野口好博氏の解説付きで、氏が撮影した素晴らしい写真や動画を鑑賞した。

アカアシカツオドリといった思いがけない南方の鳥から、写真ではあったがウミスズメ類をはじめとした北方海域で繁殖する鳥まで、まさに海鳥三昧の一日であった。

(担当 古山 隆)

○遠出探鳥会 三浦富士から武山 大晦日探鳥会

日時：2021年12月31日(金) 10:15～13:55

天気：晴れ

コース：京浜急行津久井浜駅から三浦富士に登り、砲台跡に立ち寄って武山で昼食後、一騎塚バス停までのハイキングコースを歩いた。

観察した鳥：21種(ベスト：アカハラ、オオタカ、イソヒヨドリ)

キジバト、トビ、オオタカ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、アカハラ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ

参加者：16名

概要、感想等：

津久井浜駅から津久井川に出て、キャベツ畑の中のカワラヒワの小集団を見ていると直ぐ近くの民家庭にイソヒヨドリのメスが出てきた。そこにオオタカが低空で横切って行った。キャベツ畑をさらに進むとモズのメスが出てきて、蜜柑園の防風垣の下でアカハラが採餌していた。

帰路、武山からの下りでは路上で採餌する2羽のアオジをしっかりと観察することができた。天気は晴れであったが、海上に雨雲か雪雲らしいものが見られ、霞のようなものが少しちらつく大晦日であった。

(担当 粕谷 和夫)

地元発見探鳥会の記録（2021年10月～12月）

○多摩川右岸平堰からひょうたん池

日時：2021年10月25日（月）9:00～11:25

天気：晴れ

コース：多摩川平の堰（日野用水堰）から八高線鉄橋下、多摩大橋下を通り通称ひょうたん池まで堤防と河原を歩いた。

観察した鳥：32種（ベスト：アマツバメ、ミサゴ、ハヤブサ）

カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、アマツバメ、イソシギ、ミサゴ、トビ、オオタカ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト、ガビチョウ

参加者：11名

概要、感想等：

スタート地点の平の堰ではミサゴが中州の木の先端に止まり捕えた大きな魚を食べていた。食べ終わると水面に降り水を飲んで上流方向に飛び去った。アマツバメの小さな群れが多摩大橋付近で次々に南西の方向に飛んで行った。そのアマツバメを見ているとハヤブサが現れて、その後に急降下した。

ひょうたん池にはコガモに混ざりハシビロガモ2羽とカワセミを観察できた。河原のオギの穂が風に揺れて輝いているのが見事であった。途中、八石下広場でトイレ休憩しその草地でヒバ리를観察した。（担当 粕谷 和夫）

○程久保川、多摩動物園でカワセミ探し

日時：2021年11月24日（水）8:20～11:15

天気：晴れ

コース：程久保川（浅川合流付近から多摩動物公園前）、当初予定は多摩動物公園に入園することになっていたが、公園が閉園していたため程久保川だけの探鳥会とした。

観察した鳥：15種（ベスト：カワセミ、キセキレイ、アオサギ）

カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、カワセミ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、キセキレイ、カワラヒワ、ドバト

参加者：5名

概要、感想等：

2022年の日野市カワセミハウス環境パネル展に向けたカワセミ生息調査の一環として実施した。カワセミは5カ所で観察し、うち2カ所で捕まえた魚を飲み込むところを観察できた。カルガモの数羽の小集団が次から次へと出現し、コガモもわずかながら観察できた。朝の採餌が終わった後なのか眠そうなアオサギが不動で河原に佇んでいた。（担当 粕谷 和夫）

○谷地川宮下橋から道の駅

日時：2021年11月30日（火）9:40～11:15

天気：晴れ

コース：谷地川（宮下橋から滝山道の駅）

観察した鳥：26種（ベスト：カワセミ、モズ、カシラダカ）

キジ、カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、コジュケイ、ガビチョウ

参加者：6名

概要、感想等：

谷地川は湯殿川と同じように川幅は狭いが、川の中はツルヨシなどの草が生えている所が多かった。川の中ではカルガモ、カワセミ、アオサギ、ダイサギ、セグロセキレイ等が観察された。栗園ではカシラダカ、シメが姿を見せ、右岸の猪追橋から月見橋の間では旧河川跡地の東京都管理の看板がかかる空き地でモズを探していると桜の木の下にアオサギ1羽がいた。雑木林のような環境でとてもアオサギがいそうでない場所での観察であった。（担当 粕谷 和夫）

○日野用水でカワセミを探す

日時：2021年12月14日（火）8:00～10:20

天気：曇後霰

コース：日野用水を日野駅から上流に向かい、途中東光寺緑地の縁を通り、八石下公園まで歩いた。

観察した鳥：21種（ベスト：イソヒヨドリ、オナガ、スズメ）

マガモ、カルガモ、キジバト、アオサギ、コゲラ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ドバト、ガビチョウ

参加者：10名

概要・感想等：

スタート地点で中央線の前身である甲武鉄道が明治37年に開通した当時から使われているというレンガ橋を見た。歩き出して直ぐ、オナガの小さな群れが前方を横切り、スズメの小さな集団にも何回も出合った。寒い日で途中から霰が降ってきた。

日野用水でカワセミを探すことが主目的であったが、カワセミには出合わなかった。東光寺緑地ではモズに出合い、シジュウカラ、エナガ、コゲラの混群に出合った。途中立ち寄った神明社からの雑木林の紅葉が未だ残っていた。ゴールの八石下公園のフェンスにはイソヒヨドリのオスがいた。（担当 粕谷 和夫）

○3つの調整池と館町緑地

日時：2021年12月18日（土）8:30～11:05

天気：快晴

行程：集合 町田街道・医療センター入口交差点 出発8:30⇒館ヶ丘団地⇒殿入中央公園9:50⇒館町緑地⇒殿入中央公園着11:05（解散）

観察した鳥：30種（ベスト：オシドリ ヨシガモ ノスリ）

オシドリ ヨシガモ ヒドリガモ マガモ ハシビロガモ コガモ キジバト カワウ バン トビ ノスリ カワセミ コゲラ アオゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ルリビタキ ショウビタキ キセキレイ カワラヒワ ホオジロ カシラダカ アオジ ガビチョウ ソウシチョウ

参加者：13名

概要・感想等：

今年一番の寒さ、との予報にもかかわらず、13名の参加者が集まった。

第1の調整池にはヨシガモとヒドリガモ。第2の調整池にはヒドリガモ。館ヶ丘団地内の3つ目の調整池には目当てのオシドリが20羽ほどいた。バンも、カワセミも。殿入中央公園で休憩。池ノ沢入口から館町緑地へ入る。鳥影も声も少ない。ヤマシギは気配もなかった。でも車道に出ると、カシラダカ、ルリビタキのメス、アオジ。そしてノスリが枝に止まっていた。カシラダカの群れの中にベニマシコを探したがいなかった。後で参加者から、館ヶ丘の調整池の写真にハシビロガモが写っていた、との報告があり、観察種が目標の30種になった。

帰路は、湯殿川に出るコースに皆さん参加された。

（担当 加藤 岸男）

○暁町緑地から道の駅

日時：2021年12月21日（火）9:15～11:25

天気：晴れ

コース：暁町緑地から谷地川を經由して道の駅滝山

観察した鳥：23種（ベスト：イカル、ホオジロ）

カルガモ、キジバト、トビ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ショウビタキ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、ドバト、ガビチョウ

参加者：8名

概要・感想等：

暁町緑地ではイカルとカワラヒワの小集団が葉を落とした雑木林の枝に止まっていた。谷地川にはカルガモがいただけであったが、右岸の空き地のホオジロ、メジロ、キジバトなどが比較的近くで観察できた。（担当 粕谷 和夫）

鳥信 (主として2021年7月~12月)

今期は 351 件が鳥信データベースに登録された。

鳥番号前に「F」が付いているのは、本会 HP の「フォト鳥信」にアップされているものである。

配列は鳥番号 (日本鳥学会鳥類目録第 7 版) 順である。

F	番号	鳥名	年/月/日	羽数	観察した場所	状況その他特記事項	観察者	区分	メッシュ
	4	ヤマドリ	2021/10/27	1羽	小下沢林道旧キャンプ場手前	オス。10時頃。林道上を歩いていたら人の気配に気づき左の敷に飛んだ。参加者一同感激!	高尾山周辺探鳥会参加者4名	希少	与瀬 8H
	4	ヤマドリ	2021/10/27	1羽	小下沢林道浩宮生誕記念碑手前	オス。左に飛んだのを確認後すぐに右にとび、やぶに入った。小下沢林道旧キャンプ場手前と合わせて2羽目。はっきりしない天候の中、鈍い光の中で飛翔する姿は輝いていた。参加者一同感激!	高尾山周辺探鳥会参加者4名	希少	与瀬 7J
F	5	キジ	2021/9/20	4羽	八王子市	若鳥 4羽と会いました。1か月前に同じ場所で会っていますが成長の速さに驚きです。	村山和夫	繁殖 5	八王子 6G ⑤
F	24	オシドリ	2021/10/3	1羽	多摩川・ひょうたん池	コガモの確認に行ったら、オシドリのオスのエクリプスと思われる1羽が急に出てきて、飛び去った。ひょうたん池でオシドリを見るのは珍しい。	福本健	希少	立川 0C
	24	オシドリ	2021/10/21	3羽	長池公園(長池)	長池の奥の岸辺にオシドリ3羽(♂1♀2)がいた。	市村緑、門口一雄、粕谷和夫	希少	武蔵府中 1C
F	24	オシドリ	2021/11/1	20羽±	八王子市	ファミリーかどうかは分かりませんが、仲良くひっそりと集まっていた。この写真以外にも沢山いましたが、マガモもいて、正確な数を数えるのがちょっと難しかったので、数はおおよそです。	宮本真理	希少	八王子 3E
F	24	オシドリ	2021/11/28	5羽	八王子市	(雄2、雌3)11月3日に知合いが同じ場所で100羽に迫る群れを撮っています。再来を狙っていますが日中は、池面に張り出した樹々の下に隠れて、観察困難です。何羽いるのか不明です。何かに驚いて一斉に出ない限り観察不可です。	村山和夫	希少	八王子 3E
	26	オカヨシガモ	2021/11/28	10羽	高月浄水場 池		古山隆	希少	拝島 6E
F	27	ヨシガモ	2021/11/20	1羽	八王子市	そろそろ来ると狙って行き会えました。	村山和夫	希少	八王子 3F
	27	ヨシガモ	2021/11/28	1羽	高月浄水場 池	♂ 換羽中	古山隆	希少	拝島 6E
	28	ヒドリガモ	2021/10/3	3羽	多摩川・ひょうたん池	コガモ、オシドリ(フォト鳥信報告済み)など混じってヒドリガモが来ていました。早い渡来です。	福本健	初認	立川 0C
	28	ヒドリガモ	2021/10/11	5羽	高月浄水場の池	カルガモと一緒にいた。	粕谷和夫	初認	拝島 6F
	28	ヒドリガモ	2021/10/31	5羽	町田街道医療センター入口交差点・浅川トンネル出口の調整池	7時10分頃。ゆったり泳ぎながら採餌していた。毎年渡来。ヨシガモは未だ。	加藤岸男	初認	八王子 3F
F	28	ヒドリガモ	2021/11/11	2羽	八王子市	昨年と同じ場所で観察しています。マガモと一緒にでした。	村山和夫	行動	八王子 3F
	28	ヒドリガモ	2021/11/13	2羽	多摩川・中央線鉄橋から多摩大橋の間	通称ひょうたん池。1ペア。	神谷古牧	行動	立川 0C
	28	ヒドリガモ	2021/11/28	1羽	高月浄水場 池	♀	古山隆	行動	拝島 6E
	30	マガモ	2021/11/11	4羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流	カムリカイツブリやヒドリガモの写真を撮っていたら上流からマガモが飛来した。	福本健	初認	立川 2B
	30	マガモ	2021/11/13	4羽	多摩川・中央線鉄橋から多摩大橋の間	通称ひょうたん池にマガモの雄3羽、雌1羽、計4羽いました。	神谷古牧	初認	立川 0C
	30	マガモ	2021/11/15	8羽	宇津貫緑地調整池	オス4羽・メス4羽、池の隅、同所にカルガモ7羽、コガモ3羽、オオバン1羽もいた。	粕谷和夫他宇津貫カウントT	行動	八王子 6E
	30	マガモ	2021/11/16	1羽	浅川・浅川大橋下流側	♂ 放水路 カルガモ8羽の群れと一緒に	古山隆	行動	八王子 7K
F	30	マガモ	2021/12/30	2羽	浅川長沼橋上流左岸さいから池	(♂1、♀1)。マガモのペアが向かい合って首を上下に振った後、♂が♀の後ろに回り込んで交尾した。求愛行動から交尾まで15秒ほど。写真は動画から切り出し。	佐藤哲郎	行動	八王子 9H
F	31	カルガモ	2021/7/10	6羽	八王子市	9羽いた雛は6羽に減り親鳥も確認できず。1か月経過して親鳥より少し小さく幼さも残りますが自立しています。	村山和夫	繁殖 4	八王子 6G ②
F	31	カルガモ	2021/10/15	8羽	八王子市	2羽のカルガモが喧嘩をしていて、1羽がもう1羽に向かってギャギャと鳴いて追い払おうとしているようでした。周りにいた他のカルガモは意に介さずという感じでした。朝ごはんでも取られて怒っているのでしょうか。	宮本真理	行動	八王子 4J
	35	オナガガモ	2021/11/8	2羽	多摩川・JR中央線鉄橋上流	オス・メスがオオバン、カルガモに混じって泳いでいた。	福本健	初認	立川 1B
F	37	トモエガモ	2021/11/28	1羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流	ヨシガモの写真を撮ったらトモエガモが写っていた。気が付かなかった。	福本健	希少	立川 2B
	37	トモエガモ	2021/11/29	1羽	大栗川・由木事務所近	11/29 9時頃に 大栗川・由木事務所近くで トモエガモ・雄1 Y羽がコガモの群れにまじっていました。雌個体かいたかどうかはよくはわかりませんでした。11/20に報告しましたが、その後しばらくは見ませんでした。(会員外からの情報)		希少	武蔵府中 0E
	37	トモエガモ	2021/12/19	5羽	宇津貫緑地調整池	♂3、♀2、水面を泳いでいた。他にマガモ4とオオバン1。	小林 克、小林 理恵、小林 匠	希少	八王子 6E
F	37	トモエガモ	2021/12/20	4羽	宇津貫緑地の調整池	♂3、♀1、水面を泳いでいた。他にマガモ8とオオバン2。	粕谷和夫他宇	希少	八王子 6E

							津貫定期カウ ントG			
38	コガモ	2021/9/11	1羽	多摩川右岸・中央線多摩川鉄橋下流ひょうたん池	コガモのエクリブスを1羽見ました。今期初認です。	神谷古牧	初認	立川0C		
38	コガモ	2021/9/14	1羽	谷地川・新日向橋と日向橋の間	16:10 谷地川の新日向橋と日向橋の間で、11羽居るカルガモの群れの近くにコガモのエクリブス1羽。未だ人慣れしていないので、私の接近に気付くと直ぐに飛び立つ。谷地川での今期初認である。	神谷古牧	初認	拝島9B		
38	コガモ	2021/9/22	7羽	大栗川(八王子市大塚)	AM7:50~8:10。新川橋~常盤橋(5羽)、常盤橋~堰場橋(2羽)。岸辺近くで採餌したり、群れで泳いだりしていた。9月19日にはいなかったのに、それ以降に渡来したと思われる。	佐藤哲郎	初認	武蔵府中3F		
38	コガモ	2021/9/22	8羽	多摩川・ひょうたん池(多摩大橋下流)	AM:10:00。池の木陰の下で休んでいたが、やがて4羽が池を横切って反対側に移動した。	福本健	初認	立川0C		
38	コガモ	2021/11/29	4羽	浅川・一番橋下流約50mの池のようになった河原	雌雄各2羽。殆ど眠り続けていたが時々起きて泳いでいた。写真:有	岡本昭男	行動	武蔵府中1J		
F 42	ホシハジロ	2021/12/11	1羽	八王子市長池公園築池	み。7:50頃。築池では今期初認。1羽で泳ぐ。他にはマガモ2羽、カルガモ10数羽。	佐藤哲郎	希少	武蔵府中1C		
42	ホシハジロ	2021/11/4	1羽	多摩川・JR中央線鉄橋上流側すぐ	1羽がオオバン、キンクロハジロなどに混じって潜ったりしながら採餌していた。	福本健	希少	立川1B		
46	キンクロハジロ	2021/10/30	1羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流	1羽が淀みを泳いでいた	福本健	希少	立川2B		
46	キンクロハジロ	2021/11/28	3羽	高月浄水場 池	♂ 換羽中1 メス2	古山隆	希少	拝島6E		
F 58	ミコアイサ	2021/11/28	3羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流側	♀。昨日いなかったのに、今朝3羽がヨシガモなどに混じっていた。	福本健	希少	立川2B		
58	ミコアイサ	2021/11/28	1羽	高月浄水場 池	♀	古山隆	希少	拝島6E		
F 64	カンムリカイツブリ	2021/11/7	1羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流の淀み	ホシハジロを見ていたら上流より飛来した。鉄橋の上流側と行き来していた。昨年この時期に飛来した。	福本健	希少	立川2B		
F 64	カンムリカイツブリ	2021/12/5	2羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流	1か月ぐらい1羽だったのが、今日2羽になっていた。どこから飛んできて一緒に泳いでいた。	福本健	希少	立川2B		
F 64	カンムリカイツブリ	2021/12/9	4羽	多摩川・JR中央線鉄橋下流	12月5日に2羽に増えたと思ったら、今日行ったら4羽になっていた。どこからやってきたのでしょうか。	福本健	希少	立川2B		
78	アオバト	2021/7/10	声	奥高尾一丁平付近(もみじ台分岐)	もみじ台分岐で声を聞く。	柚木育子	希少	与瀬8E		
78	アオバト	2021/7/10	1羽	大平林道高尾林道分岐	遠くから鳴き声が聞こえた	加藤岸男	希少	与瀬9E		
78	アオバト	2021/8/2	1羽	大平林道旧作業小屋先	比較的近くから鳴き声が聞こえた	加藤岸男	希少	与瀬9E		
78	アオバト	2021/8/6	1羽	奥高尾一丁平付近(もみじ台分岐)	もみじ台分岐で声を聞く。	柚木育子	希少	与瀬8E		
F 78	アオバト	2021/12/31	1羽	南浅川・五月橋付近	インコの仲間と思い、スマホのカメラで撮影したら、勝手に検索して、"アオバト"と出た。この辺では初めて見ました。	山浦秀雄	希少	八王子4J		
F 91	シロハラ	2021/12/19	1羽	小山内裏公園 通称1本杉付近	10日ほど前から鳴き声を聞いていたが、12月19日今季初めてここで姿を見た。何かの実をくわえていた。	岡田浩郎	行動	武蔵府中0C		
127	カワウ	2021/12/21	70羽	浅川・荻原橋~浅川大橋間	いくつもの小群がパラパラと飛びまわる。市街地方面に向かう小群も。総計70羽程。川の方から人が手を叩く音が聞こえてきた。	古山隆	行動	八王子6K		
133	ヨシゴイ	2021/9/8	1羽	浅川右岸・一番橋下流桜並木の道	雄。早朝。一番橋から下流側の桜並木の中ほどの前の流れの向こうに並ぶ蓼の花に上流方向の近くから飛んできて降りた。茶色の羽の外側の黒が印象的。知人が撮影してあるが私は撮れませんでした。対岸へ回って見たが降りたあたりは草が茂っていて見えなかった。朝食後も行ったが現れなかった。	岡本昭子	希少	武蔵府中1J		
139	ゴイサギ	2021/7/11	4羽	長沼橋上流左岸サイカチの池	ゴイサギ親1羽、幼鳥3羽。以後毎日観察している。幼鳥の茶色が黒色に変化した	小張昌子、山崎久美子	行動	八王子9H		
139	ゴイサギ	2021/7/20	2羽	長沼橋上流左岸サイカチの池	ゴイサギ親1羽、幼鳥1羽。	小張昌子、山崎久美子	行動	八王子9H		
139	ゴイサギ	2021/9/16	1羽	浅川・浅川橋付近	23:20頃 自宅マンションで鳴き声が聞こえた(録音)	古山隆	行動	八王子6K		
139	ゴイサギ	2021/12/20	1羽	浅川・浅川橋付近	上流側から下流側へ橋の上空を飛ぶ	古山隆	行動	八王子6K		
F 139	ゴイサギ	2021/12/30	2羽	浅川長沼橋上流左岸のさいかち池北側	日が当たり始めた、さいかち池北側の茂みでホシゴイ2羽が日向ぼっこをしていた。親鳥の姿は見当たらなかった。	佐藤哲郎	行動	八王子9H		
141	ササゴイ	2021/8/19	1羽	北浅川・松竹橋上流側	川岸から飛び立ち、近くの木に止まる	古山隆	希少	八王子0K		
141	ササゴイ	2021/8/21	1羽	浅川右岸・一番橋	若。早朝。一番橋から下流側の左岸寄りの中洲の岸の草に隠れていたが、飛び、橋の上流約100mの左岸に降り歩いていった。やがて上流へ飛び、中洲の草隠れに立った。たびたび流れを覗いていたが魚を捕ることは無かった。帰宅後写真で確認、若鳥と知る。	岡本昭子、岡本昭男	希少	武蔵府中1J		
144	アオサギ	2021/8/6	11羽	陣馬街道切り通し	切り通しの木コロニーの周りや巣の中にダイサギ18、アオサギ11が入り交じていた。	中村后子(定期カウ) ント	繁殖①	5 拝島3B		
F 144	アオサギ	2021/10/2	1羽	八王子市下柚木2丁目創価学会八王子南文化会館の屋根	大栗川沿いに歩いていると、上記屋根の上にアオサギを発見。見ていると、鳴くでもなく口をずーっと開いている。まるで舌の根を乾かしているかのよう。10分くらいはそのままだった。	岡田浩郎	行動	武蔵府中0E		
146	ダイサギ	2021/8/6	18羽	陣馬街道切り通し	ダイサギ18羽 アオサギ11羽。切通しの杉の木のコロニーの周りや巣の中にダイサギ、アオサギが入り交じていた。羽数を数えるたびにわからなくなるので初めに数えた羽数にした。	中村后子	罫	拝島2B		

146	ダイサギ	2021/8/6	18羽	陣馬街道切り通し	切り通しの木コロニーの周りや巣の中にダイサギ18、アオサギ11が入り交じっていた。	中村后子(定期カウント)	繁殖 5	拝島 3B	①
F 146	ダイサギ	2021/10/31	1羽	八王子市	水面すれすれに飛んだり足で水面をかき回し魚を驚かせ動いたところを捕えていました。	村山和夫	行動	八王子 6G	
147	チュウサギ	2021/7/6	3羽	高月水田	田植えが終わった稲田にダイサギ、チュウサギ、コサギとシラサギ3種が揃った。ダイサギ15羽、チュウサギ3羽、コサギ2羽だった。チュウサギはいかにもそれらしかったが、写真判定で口角が眼の後端とほぼ同じ位置にあるので、間違いのないことにした。最近数の減ったコサギもいた。こちらは足指が黄色であったので、コサギとした。	粕谷和夫	希少	拝島 6F	
148	コサギ	2021/10/25	6羽	浅川・浅川橋 上流側	ダイサギ3羽、アオサギ1羽と一緒に採餌	古山隆	行動	八王子 6K	
F 163	クイナ	2021/12/17	1羽	八王子市	姿は中州の中に隠れていましたが自鳴きを聞きで見つけました。	村山和夫	希少	八王子 6G	
174	バン	2021/10/28	1羽	湯殿川・時田大橋付近	湯殿川の時田大橋付近で水草の影を出たり入ったりしていた。	市村緑	希少	八王子 7G	
F 174	バン	2021/11/7	1羽	八王子市	目の前に現れた大きな鯉に固まってしまいました。	村山和夫	行動	八王子 6G	
174	バン	2021/12/8	1羽	浅川・浅川橋 下流側	この場所では珍しい	古山隆	希少	八王子 6K	
175	オオバン	2021/10/20	4羽	多摩川・平の堰	4羽が飛来していた	福本健	行動	拝島 8C	
175	オオバン	2021/12/3	2羽	北浅川・沈下橋上流	カイツブリ、カルガモ、オナガガモに混んでいた。	中村后子(定期カウント)	行動	拝島 2B	
185	ホトトギス	2021/7/5	1羽	北浅川・松枝橋下流 500m	09:30頃。北浅川・松枝橋下流 500m、左岸側の檜原斎場臨時駐車場。鳴き声がする木に50m程度まで近づいた時に飛び立ち、鳴きながら北浅川右岸側に飛んで行った。	荻島伸介	行動	拝島 4B	
185	ホトトギス	2021/7/10	1羽	大平林道一丁平分岐	近くの木のでっぺんで盛んに鳴いていた。	加藤岸男	行動	与瀬 8E	
185	ホトトギス	2021/8/2	1羽	大平林道高尾林道分岐 付近	飛び回りながら盛んに鳴いていた。	加藤岸男	行動	与瀬 9E	
187	ツツドリ	2021/9/5	1羽	滝ヶ原運動場	南側の桜並木	多摩川滝山城 跡下定期 C(古山)	通過	拝島 6E	
F 192	アマツバメ	2021/9/23	20羽+	陣馬山頂	青空を背景に高速で飛ぶ姿はカッコいいです。	小川圭太	通過	与瀬 3J	
192	アマツバメ	2021/10/25	100羽	多摩川・多摩大橋付近	小さな群れが次々に南西の方向に飛んで行った。	粕谷和夫他地元発見探鳥会	通過	立川 0C	
193	ヒメアマツバメ	2021/9/17	30羽±	高幡不動駅 南口	17:20 上空 西から東方面へ群れで鳴きながら通過	古山隆	行動	武蔵府中 3J	
202	イカルチドリ	2021/8/6	2羽	北浅川・天使病院堰	堰上に2羽がいた。	中村后子(定期カウント)	行動	拝島 3B	
F 202	イカルチドリ	2021/11/5	16羽	多摩川・JR中央線鉄橋上流	定期カウントで川の浅瀬にイカルチドリがたくさん集まっているのをスコープで数えたら13羽であったが、後で写真で数えると16羽いた。この辺りでこれだけ1度に見たのは初めてです。	福本健	行動	立川 1B	
203	コチドリ	2021/7/1	1羽	浅川・浅川橋付近	上流側から飛んできて、橋の上を超え、下流側右岸のコンクリート護岸に降りる	古山隆	行動	八王子 6K	
F 219	ジシギ sp	2021/9/1	1羽	高月水田	定期カウント中、農道を歩いていると稔った稲の株元から出てきた。タシギと思ったが、当地ではタシギはこれまで10月に入ってからの記録であること、撮影された画像による形態の特徴や時期、環境等から、チュウジシギの可能性もあると思われる。	粕谷和夫	希少	拝島 6E	
235	アオアシシギ	2021/9/10	1羽	浅川・一番橋から下流 300m	浅川一番橋から下流300mの左岸寄りの浅瀬。水浴びし、採餌していた。写真あり。	岡本昭男、岡本昭子	希少	武蔵府中 1J	
235	アオアシシギ	2021/9/12	1羽	浅川・日野市民プール 付近	採餌中、下流方向からオオタカが低空でカラスと絡み合いながら近づく。鳴きながら上流方向飛び立つが、数分後戻り浅瀬に立ち止まる。その後下流方向に移動しながら採餌？する。	門口一雄、門口裕子	希少	武蔵府中 3K	
239	クサシギ	2021/9/5	1羽	滝ヶ原運動場	西端にある野球グラウンドの芝地で採餌	多摩川滝山城 跡下定期 C(古山)	希少	拝島 6E	
F 241	キアシシギ	2021/8/1	3羽	浅川・鶴巻橋上流	定期カウントで鶴巻橋の上で3羽のキアシシギを確認しました。	荻島伸介	通過	拝島 4B	
241	キアシシギ	2021/8/1	1羽	浅川右岸・一番橋から下流約500m位	午前6時。雌雄不明。浅瀬になっているところに立っていた。	岡本昭子	通過	武蔵府中 2K	
241	キアシシギ	2021/9/10	1羽	浅川・一番橋から下流 300m	一番橋から下流300mの左岸寄りの浅瀬。アオアシシギと一緒に採餌していた。写真でキアシシギの若と同定した。	岡本昭男	通過	武蔵府中 1J	
F 245	イソシギ	2021/11/28	1羽	八王子市	湯殿川沿いで、よく会うのがカワセミとイソシギです。今日も採食に熱心でした。	村山和夫	行動	八王子 6G	
F 245	イソシギ	2021/12/15	1羽	大栗川・八王子市役所 袖木事務所付近	コガモの群れの近くで大栗川護岸壁を歩いていた。30分後に折り返してきた時には姿が見えなかった。	岡田浩郎	行動	武蔵府中 0E	
251	トウネン	2021/9/5	3羽	滝ヶ原運動場	西端にある野球グラウンドの芝地で採餌	多摩川滝山城 跡下定期 C(古山)	希少	拝島 6E	
339	ミサゴ	2021/9/5	1羽	多摩川・滝山下	水管橋付近 左岸 木に止まり、羽繕い	多摩川滝山城 跡下定期 C(古山)	行動	拝島 6E	
339	ミサゴ	2021/9/8	1羽	浅川右岸・一番橋下流 桜並木の道	一番橋から下流側の桜並木の中ほどの前の流れを上流側から飛んできて流れに飛び込んだ。狩りは失敗だった。その後下流へ飛んで見えなくなった。写真あり。	岡本昭子、岡本昭男	行動	武蔵府中 1J	
339	ミサゴ	2021/9/12	1羽	浅川・日野市民プール	上流方向から飛来し、上空で旋回し下流方向に飛び去る。	門口一雄、門	行動	武蔵府中	

			付近		口裕子	3K
F 339	ミサゴ	2021/9/19	1羽	北浅川・松竹公園西	松竹公園西でのタカの渡り調査でミサゴを目撃した。	荻島伸介 行動 八王子 0K
F 339	ミサゴ	2021/10/11	1羽	高月水田	浄水場の池の上空に現れ、それが田んぼの上でも旋回した。	粕谷和夫 行動 拝島 6E
	339 ミサゴ	2021/10/20	1羽	多摩川・多摩大橋付近	1羽が下流側から方向に飛んでいった。	福本健 行動 立川 0C
F 339	ミサゴ	2021/10/25	1羽	多摩川・平の堰(日野用水堰)	地元発見探鳥会で中州の木の先端に止まっているミサゴを皆でじっくり観察した。大きな魚(鯉か)をゲットし、ゆっくり食べた後水辺に降りて水を飲んだあと飛び去った。	福本健 行動 拝島 8C
	339 ミサゴ	2021/11/1	1羽	多摩川・浅川合流の多摩川側 200m上流	右岸の木の先端にとまっていた	渡辺正樹、菅野桂子、木澤隆雄、武藤邦子 行動 武蔵府中 4K
	339 ミサゴ	2021/11/5	1羽	多摩川・JR 中央線鉄橋上流	ミサゴが大きな魚をつかんで飛んでいた。	福本健他 10名 行動 立川 1B
	339 ミサゴ	2021/11/27	1羽	浅川・長沼橋上流サイカチ池付	メス。長沼橋上流サイカチ池付近の上空。上空を旋回したりして次第に高く舞い上がり浅川の下流方向に飛び去った。写真有。	岡本昭男、カワセミ会ジュニアクラブ参加者 行動 八王子 9H
F 341	トビ	2021/10/3	1羽	八王子	羽やお腹の模様からトビの幼鳥と思われる鳥がカラスに追われていました。最初は1羽のカラスが追いかけているだけでしたが、さらにもう1羽現れてトビを追いやろう?としているのでしょうか。トビは一向に気にせずといった態度でしたが、子供のトビの試練なのか、単にカラスの縄張りアピールなのか、しばらくずっとカラスが付きまわっていました。	宮本真理 行動 八王子 5K
F 354	ツミ	2021/7/6	1羽	八王子市	水浴びをしています。前日の雨で石畳に僅かに残った水です。	村山和夫 行動 八王子 6H
	354 ツミ	2021/7/7	1家	日野の市民の森の陸上競技場	日野の市民の森の陸上競技場の管理棟横の広場の真ん中のケヤキにツミが営巣し、5羽のヒナが巣立ちました。ケヤキの下では毎朝ラジオ体操が行われ、昼間は園児などが走り回っています。巣は広場から丸見えで、通る人が日々のツミの成長を楽しみに見っていました。まさにツミも人の活動を利用して子育てをしているようでした。カメラマンも近くで写真を撮っていました。巣立ってから、周辺の木々にヒナたちがいて親鳥から餌をもらっています。今日もヒナを観察してきました。これほど身近でツミのヒナ達の成長を見ることができたのは初めてです。やはりオナガも飛び回っています。	福本健 繁殖 5 立川 2B ①
	354 ツミ	2021/7/7	1家	狭間公園	京王線高尾駅と狭間駅の線路沿いの公園、狭間公園で営巣のツミが巣立ちした模様です。7月7日 8:40 と 15:30 頃、ツミ3羽が木立の間を鳴きながら飛びまわっていました。1羽が枝にとまった時、翼の一部が白く見えました。	横山由美子 繁殖 5 八王子 3G ①
F 354	ツミ	2021/7/11	3羽	長房小東側歩道橋上	幼鳥、昨年より6日早い巣立ちでした。	木野孔司 繁殖 5 八王子 4J ⑤
F 354	ツミ	2021/7/12	1羽	八王子市	若鳥が地面に降りカナヘビを捕え樹上に運んだ。カナヘビも抵抗し口に噛みついて抵抗したが。	村山和夫 行動 八王子 6H
F 354	ツミ	2021/9/5	1羽	北浅川・松枝橋下流側 200m 左岸側	定期カウントでツミの幼鳥を確認しました。	荻島伸介 行動 拝島 4B
F 354	ツミ	2021/9/12	1羽	八王子市	執拗にオナガを追いかけていました。オナガはツミと共生していると思われるが時には捕食されています。	村山和夫 行動 八王子 6H
	354 ツミ	2021/9/16	1羽	高幡台緑地	8:20 上空 オオタカを鳴きながらモビング	古山隆 行動 武蔵府中 3H
	354 ツミ	2021/9/18	1羽	陣馬街道 小田野バス停付近	上空 トビにモビング	古山隆 行動 拝島 1A
	354 ツミ	2021/9/22	1羽	高幡台団地	8:10。上空 街路樹からエナガの声(警戒)が急にし出した直後に上空を通過	古山隆 行動 武蔵府中 3H
F 355	ハイタカ	2021/12/30	1羽	八王子市	四十雀、エナガ、メジロの混群を見ていたら突然飛んで来ました。獲物として混群を狙っていたのかも。以前、イカルの群れを見ていたら同様の事がありました。	村山和夫 行動 八王子 4H
	355 ハイタカ	2021/12/30	1羽	平山橋右岸下流約 200m 河原の草むら	木に止まっていたハシボソカラスが2羽で騒いでいた。すると草むらから飛び出してカラスに追われて下流方向に飛び去った。(写真から尾羽の模様、翼指6枚、カラスの2/3ほどの大きさ、胸の横斑等でハイタカと同定した。)	岡本昭男 行動 武蔵府中 0H
	356 オオタカ	2021/7/5	1羽	湯殿川・白旗橋付近	上空を旋回	粕谷和夫 行動 八王子 5F
	356 オオタカ	2021/9/7	1羽	浅川右岸・一番橋下流桜並木の道	早朝。一番橋から下流側の桜並木の中ほどの前の流れの流木に止まっていた。その後、河原の石の上で何か小さいものを食べていたが、食べ終わると川へ入って水を飲んでから、近くの木に止まっていた。写真あり。	岡本昭子 行動 武蔵府中 1J
	356 オオタカ	2021/9/12	1羽	浅川・日野市民プール 付近右岸	下流方向からカラスと絡みながら低空で飛来し上流方向に飛ぶ。	門口一雄、門口裕子 行動 武蔵府中 3K
	356 オオタカ	2021/10/8	1羽	多摩川・谷地川合流部	上空をカラスに絡まれながら飛んでいた。	福本健 行動 立川 0C
	356 オオタカ	2021/10/9	1羽	浅川・大和田橋～浅川大橋	水管橋上にしばらくとまっていた。	宮越俊一(定期C) 行動 八王子 7K
	356 オオタカ	2021/10/14	1羽	浅川・浅川大橋下流側	成鳥 水管橋に止まる	古山隆 行動 八王子 7K
F 356	オオタカ	2021/10/29	1羽	小山内裏公園	小山内裏公園サンクチュアリ上空から、旋回しながら多摩境駅方面へ飛んでいった。	岡田浩郎 行動 八王子 9C
	356 オオタカ	2021/11/2	10羽+	浅川・浅川大橋下流側	成鳥 水管橋に止まる	古山隆 行動 八王子 7K
	356 オオタカ	2021/11/3	1羽	浅川・浅川大橋附近	成鳥。川の上を低空で旋回飛翔した後の小宮公園の方へ飛ん	粕谷和夫 行動 八王子 7K

				で行った。			
356	オオタカ	2021/12/5	1羽	浅川の堤防・豊田公園の前	豊田公園の前の浅川の堤防。沈みかけた夕日の方向に飛んで行った。写真あり。	岡本昭子	行動 武蔵府中1J
F 357	サシバ	2021/9/19	10羽+	松竹公園西	松竹公園西でのタカの渡り調査でサシバの飛翔時の姿と、別個体ですが近くの木でも目撃しました。	荻島伸介	通過 八王子0K
F 357	サシバ	2021/9/23	1羽	松竹公園西	幼鳥。松竹公園西でのタカの渡り調査中にサシバの幼鳥を観察ポイントの一つである大きな櫓の前の枯れ木で発見、前日の降雨の影響か疲れ切った様子で枯れ枝に長い時間留まり、時々飛び立ちバツ？やカマキリを捉えて食べるのを目撃しました。	荻島伸介	行動 八王子0K
357	サシバ	2021/10/3	9羽	小仏川沿いの圏央道下広場	12時過ぎに小仏川沿いの圏央道西側上空で旋回する。その後、ばらけ高尾山方向に飛ぶ。	門口一雄、門口裕子	通過 八王子0G
358	ノスリ	2021/11/6	1羽	小田野中央公園	上空にはノスリが出た。	青木静子他定期C参加者	行動 拝島1A
364	クマタカ	2021/7/11	1羽	醍醐川上空	AM9:30 頃。醍醐川左岸の送電線鉄塔近くに出現。数分間近くを飛翔した後、左岸の山に隠れる。メッシュ:五日市6A、6B	月例探鳥会「醍醐川(夕焼小焼〜に川沢出合)」参加者	行動 五日市6A、6B
F 374	アオバズク	2021/7/15	2羽	八王子市	市内2か所目の巣立ちです。4羽巣立ちましたが1羽のみ確認。動作が幼く可愛いです。	村山和夫	繁殖 5八王子2H①
F 374	アオバズク	2021/7/21	3羽	八王子市	(親鳥2、幼鳥1)。市内2か所目の巣立ちです。4羽巣立ちましたが1羽しか見つかありませんでした。動作が幼く可愛いです。写真は全て同じ幼鳥です。3か所目のアオバズクは突然姿を消しました。巣立ちか放棄かは不明です。	村山和夫	繁殖 5八王子4K①
374	アオバズク	2021/9/24	1羽	中野上町1丁目付近	深夜1:30 自宅マンションで鳴き声を聞く	古山隆	通過 八王子6K
378	アカショウビン	2021/7/14	声	自宅(下恩方町)南側の特養ホームを囲む山林	声のみ(多分1羽)。自宅南側の特養ホームを囲む山林(自宅より直線150mくらい)。早朝06時50分くらいに数回鳴いているのが確認されました。10分間くらい鳴き続け、こんなに近くでの観察は初めてです。	清水盛通	希少 拝島0A
F 383	カワセミ	2021/7/18	1羽	北浅川・松枝橋下流	イワツバメ営巣調査の途中で、歌の練習をしているかのように羽を広げたカワセミに遭いました。	荻島伸介	行動 拝島4A
F 383	カワセミ	2021/9/10	2羽	日野市豊田	(親鳥1羽♀雛鳥1羽)。5月末に1番子が4羽巣立ち続いて6月に2番子を抱卵中の様子でしたが何度かへビが現れたりして失敗したようです。7月末に再び繁殖行動が見られ9月10日に遅い3番子1羽を観察出来ました。	浜田早苗	繁殖 5武蔵府中①0J
F 383	カワセミ	2021/9/11	2羽	大栗川沿い	自宅近くの川沿いですがこの場所でもカワセミを見つけたのは初めてでした。そばで観察していた方に何となくカルガモが居る場所に必ず一緒にいるとお聞きして可愛いなと思いました。	市村緑	行動 八王子9D
F 383	カワセミ	2021/10/15	1羽	八王子市	浅川ぞいを歩いていたら、ひょっこり近くの木の中に止まって、久しぶりに近くで見ることができました。やっぱり綺麗な鳥ですね。	宮本真理	行動 八王子4J
F 383	カワセミ	2021/10/30	3羽	八王子市	二羽が一定の距離を保ち緊張感あり。更にもう1羽が飛来して追いかけてこが始めました。餌の確保が厳しくなる冬を迎える前に餌場を確保するための闘いです。	村山和夫	行動 八王子6G
388	アリスイ	2021/10/10	1羽	浅川(水管橋と新浅川橋中間)	中州の木にしばらく止まった後飛び去る。模様がよく観察できた。	公開探鳥会参加者	希少 八王子8J
F 388	アリスイ	2021/11/20	1羽	浅川・右岸鶴巻橋下流側	市役所脇の木に止まっていた。参加者皆さんと観察できました。	井上京子他公開探鳥会	希少 八王子5K
F 390	コゲラ	2021/12/1	1羽	八王子市上柚木3丁目	最初に気が付いたのは11月28日。そこから4日で体がすっぽり入るくらいの穴を掘った。	岡田浩郎	行動 武蔵府中0D
F 397	アオゲラ	2021/11/2	1羽	八王子市	昆虫の少なくなる冬季は果実も食べます。柿や棕の実が好物のようです。	村山和夫	行動 八王子6H
F 397	アオゲラ	2021/11/14	1羽	八王子市	柿を食べ休憩し木肌をほじくり水を飲んでいました。	村山和夫	行動 八王子6H
F 397	アオゲラ	2021/12/10	1羽	八王子市	アオゲラに会うのが全然珍しくないのは八王子市に住んでいればこそ。	村山和夫	行動 八王子6H
401	チョウゲンボウ	2021/7/10	1羽	浅川・中央線鉄橋～水管橋上空	AM9 時頃。左岸側から現れ、上空を旋回後右岸側に飛び去る。	佐藤哲郎	行動 八王子9H、8H
401	チョウゲンボウ	2021/9/3	1羽	八王子市上柚木	八王子市上柚木 南大沢程久保交差点 柚木変電所の鉄塔。雨の中その近くを旋回し、鉄塔に止まった。	岡田浩郎	行動 武蔵府中0D
401	チョウゲンボウ	2021/10/3	1羽	八王子市南大沢駅前	17時過ぎに北側(都立大側)から飛来し、駅前上空を旋回した。その後商業施設fab(TOHO シネマのある建物)の南側屋上の照明器具に10分ほど止まった後、fab北西端にある非常階段の最上階の部分に飛び込んだ。	岡田浩郎	行動 武蔵府中0D
401	チョウゲンボウ	2021/10/15	1羽	JR 八王子駅北口駅前	17時30分頃。ねぐら入り前のムクドリが集団で屋上のアンテナに集合中で、ねぐら入りする街路樹(ベニバナトチノキ)を見下ろすビルの7階附近の壁面の出っ張りやようなところに止まり、街路樹にねぐら入りするするムクドリを待ち伏せしているような様子であった。	粕谷和夫、対中義雄	行動 八王子7J
401	チョウゲンボウ	2021/11/5	1羽	多摩川・JR 中央線鉄橋上流	チョウゲンボウが上空を旋回していた	福本健他10名	行動 立川1B
401	チョウゲンボウ	2021/12/7	1羽	自宅(八王子市中野町)	み。AM11:05。玄関を出たら、電線にチョウゲンボウが止まっているのが見えた。斑もすくない成熟したみでした。爪に羽毛が付いていた。電線の下には羽根はなかったが食餌後にここに移動して食休みをしていたのかも知れない。20分ほどは止まっていたが、カラスに見つかって追われていった。ゆったり	今野美代子	行動 拝島6B

					としていたので証拠写真は撮れました。				
	407	ハヤブサ	2021/10/25	1羽	多摩川・多摩大橋付近	アマツバメを見ているとハヤブサが現れて、その後急降下した。	粕谷和夫他地元発見探鳥会	行動	立川 0C
	412	サンショウクイ	2021/8/2	1羽	国道 20 号水野橋付近	数回鳴き声が聞こえた。(リュウキュウと思われる)	加藤岸男	希少	与瀬 9E
	412	サンショウクイ	2021/10/24	3羽	松竹公園付近	亜種リュウキュウサンショウクイ 道路沿いのサクラの木に飛んできて止まる。	古山隆	希少	八王子 0K
F	412	サンショウクイ	2021/11/11	1羽	小山内裏公園 大田切池の東側	亜種リュウキュウサンショウクイ。ジョウビタキを見ていたら聞きなれない声が出た。ひと鳴きしては移動するのを繰り返していたが、しばらくしてようやく落ち着いてくれた。	岡田浩郎	希少	八王子 9C
F	412	サンショウクイ	2021/12/12	2羽	八王子市	(亜種リュウキュウサンショウクイ)。エナガの群れと一緒に木々の高い場所を移動してました。エナガに比べると一回り大きく飛び方も違うので直ぐに判りました。	村山和夫	希少	拝島 7A
	412	サンショウクイ	2021/12/18	1羽	多摩森林科学園	亜種リュウキュウサンショウクイ 上空から声	古山隆	希少	八王子 2H
	418	サンコウチョウ	2021/7/6	1羽	高尾山6号路	鳴き声が聞こえた。	菅野桂子、加藤岸男	希少	八王子 0E
	418	サンコウチョウ	2021/7/6	声	奥高尾一丁平付近(もみじ台分岐)	もみじ台分岐で声を聞く。	柚木育子	希少	与瀬 8E
F	418	サンコウチョウ	2021/8/5	5羽	八王子市	同じペアによる今シーズン 2 回目の繁殖です。巣立ち後バラバラの方向に飛び盛んに鳴き親に餌をねだっていました。翌朝には姿は見れませんでした。	村山和夫	繁殖 5	八王子 0H ①
	418	サンコウチョウ	2021/8/5	1羽	高尾山6号路	鳴き声が聞こえた。	菅野 加藤	希少	八王子 0E
F	418	サンコウチョウ	2021/9/15	1羽	日野市多摩川河川	散策中木の茂みの中で尾の長い鳥を見たので写真で確認したらサンコウチョウであった。移動中でしょう。	福本健	希少	立川 1C
	420	モズ	2021/9/5	1羽	堀之内寺沢里山公園南西側の畑地	AM8 時頃。畑地上に張られた電線の上で、何度もキィ・キィ・キィと高鳴きを繰り返す。	佐藤哲郎	初認	武蔵府中 1F
F	421	モズ	2021/9/19	1羽	高月水田	田んぼを見ていたらモズが居ました。今季初です。秋が来たんだなと感じました。	宮本真理	初認	拝島 6E
	422	アカハラ	2021/7/6	1羽	高尾山頂手前トイレ付近	数回さえずりが聞こえた。	菅野桂子、加藤岸男	希少	与瀬 9E
	429	オナガ	2021/9/16	10羽±	鎌水中学校正門脇	:10羽位の群れ。鎌水中学校正門脇の林。午前中と夕方中学校脇の林の木のてっぺんから鎌水小学校付近の木のの上に群れて飛んで行った。	市村緑	行動	八王子 9D
	429	オナガ	2021/11/16	10羽±	長房町郵便局北側	長房町郵便局北側の水路(船田運動公園～南浅川)。鳴きながら飛来水辺に降り、しばらくして飛び去った。	千葉慎子	行動	八王子 3J
	445	シジュウカラ	2021/9/14	7羽	石川町	シジュウカラが私の車の上を走る電線に3羽も留まって頻りに鳴いて居るのに気付く。ジージーと鳴き、「警戒しながら集まれ」と言っているよう。数分の間に7羽も集まる。スズメとハクセキレイ各1羽まで来る。10分程賑やかにしていた後散っていく。テレビなどでは見るが、直接この様な行動は初めて見た。全羽居なくなった後、集まっていた下や、周囲を見るが、ヘビなどは居なかった。	神谷古牧	行動	立川 0B
	455	ショウドウツバメ	2021/9/5	3羽	高月町水田	上空	多摩川滝山城跡下定期 C(古山)	通過	拝島 6E
	455	ショウドウツバメ	2021/10/11	2羽	高月水田	田んぼの上を飛んでいた。渡りの途中と思われる。	粕谷和夫	通過	拝島 6F
	457	ツバメ	2021/11/4	2羽	湯殿川・栄橋と春日人道橋の間	2羽のうち1羽は尾が長い成鳥、1羽は尾が短いので幼鳥と思われる。2羽が川の上を低空を飛び交い、電線にも止まった。10月23日にジュニアクラブ観察会が中央線鉄橋付近で観察した2羽のツバメと同一の可能性もある。また、2019年に北野八王子総合卸売市場で2羽が越冬したので、この2羽も越冬する可能性がある。	粕谷和夫	行動	八王子 9G
	459	コシアカツバメ	2021/7/22	5羽±	浅川左岸・平山橋から下流約300m位	4.5羽、雌雄不明。上空をダイナミックに飛びかっていた。川岸から民家の方まで。識別理由:腹部の立て縞 大きさ他の鳥との比較:燕より大きい 燕より広範囲を飛び回る。	岡本昭男、岡本昭子	行動	武蔵府中 0H
	459	コシアカツバメ	2021/8/29	6羽	八石下広場(八王子水再生センター屋上)	上空を小集団で通過	粕谷和夫	通過	拝島 9C
	459	コシアカツバメ	2021/8/31	3羽	日野市新井	成鳥1、雛2、集合住宅最上階の庇下部に巣があり、中にいる雛に親鳥が給餌してた。	菅野桂子	繁殖 5	武蔵府中 3K ①
	459	コシアカツバメ	2021/9/5	14羽	高月町水田	群れ 上空	多摩川滝山城跡下定期 C(古山)	通過	拝島 6E
F	459	コシアカツバメ	2021/9/20	30羽±	日野市クリーンセンター	30羽程のコシアカツバメがクリーンセンターの熱風が出ている煙突の上を延々と飛び回っていました。これまでも度々多い時は50羽位が集団で飛んでいて何かおいしい虫でもいるのでしょうか(右のは昨年のです)	浜田早苗	行動	武蔵府中 4K
	459	コシアカツバメ	2021/9/22	10羽	新井団地	群れて上空を旋回	古山隆	行動	武蔵府中 3K
F	459	コシアカツバメ	2021/10/4	90羽±	日野市石田	北川原公園の鉄塔の電線にコシアカツバメ90羽程が点々と並んで休んでいて暫くすると次々飛び立ってクリーンセンター周辺を飛び回っては又電線に集まって休むのを繰り返していました。今まで観た中では最多の羽数でした	浜田早苗	行動	武蔵府中 4K
	461	イワツバメ	2021/7/13	80羽±	浅川・大橋付近	下流側左岸の高圧線(一番上の架空地線)に並ぶように止まる 巣立ちした幼鳥?	古山隆	行動	八王子 7K
F	464	ウグイス	2021/12/12	1羽	湯殿川稲荷橋付近	河原のツルヨシの中からウグイスの地鳴きが聞こえ、姿も見せてくれた。	粕谷和夫	行動	八王子 6G

480	センダイムシクイ	2021/7/10	2羽	森林ふれあい館・あずさ霊園	さえずりが聞こえた。	加藤岸男	希少	八王子9 E・9D
F 484	メジロ	2021/11/21	2羽	八王子市横川町	ジョウビタキ(オス)が居た柿の木にメジロが2羽飛んで来て、荻島伸介松の木、モミジ、マユミ、サザンカの木を飛び回って餌探しを行っていた。	荻島伸介	行動	八王子4K
F 484	メジロ	2021/12/12	1羽	片倉城跡公園	マサキの木の中にいたメジロ、実から赤い種を取り出して啜え 粕谷和夫で行った。	粕谷和夫	行動	八王子7G
F 492	オオヨシキリ	2021/8/1	1羽	北浅川・中央高速道路橋脚上流側	繁殖期を過ぎたためなのか、鳴き声を出さないオオヨシキリを観察しました。	荻島伸介	行動	拝島4A
F 492	オオヨシキリ	2021/8/7	1羽	湯殿川・大橋と釜土橋のほゞ中間地	オギの中にオオヨシキリが出た。湯殿川定期カウントでは春から初夏にさえずりがないので、通過と判断します。	粕谷和夫	通過	八王子5G
492	オオヨシキリ	2021/9/16	1羽	浅川・浅川大橋下流側右岸	7:20 放水路横のヨシ原から地鳴きの声(ジリリ…)が聞こえた	古山隆	通過	八王子7K
F 492	オオヨシキリ	2021/10/4	2羽	浅川右岸 北野卸売センター前の川辺の茂み	7:50頃。茂みの中を2羽で移動。鳴き声なし。私の記録の中では最も遅い確認。	佐藤哲郎	終認	八王子9H
499	セッカ	2021/10/2	1羽	多摩川・昭和用水堰付近	昭和用水堰 右岸 餌(アオムシ)をくわえて草に止まる。周りを警戒する様子、育雛中の可能性あり。	多摩川滝山城 跡下定期C(古山) ①	繁殖	4 拝島6E
F 499	セッカ	2021/10/3	4羽±	八王子市	ノビタキと同じ場所にいました。複数でススキの茂みに出たり入ったりしていました。	宮本真理	行動	八王子5K
503	キバシリ	2021/12/4	1羽	大平林道大垂水峠分岐先	樹間を移動していた。	加藤岸男	希少	与瀬8E
504	ミソサザイ	2021/12/10	1羽	多摩川・昭和用水堰下流側右岸	段丘上のブッシュ	多摩川滝山城 跡下定期C(古山)	希少	拝島6E
F 504	ミソサザイ	2021/12/19	1羽	小宮公園・ひよどり沢	春のさえずり時期ではない冬期に木道の下を素早く6~7メートル移動して離れた場所に姿を見せる忍者のようなミソサザイの姿をとらえました。	荻島伸介	行動	拝島7A
506	ムクドリ	2021/9/17	不明	JR 八王子駅北口	ムクドリの群れとハウセキレイのねぐら入りらしい様子を見たので連絡します。17時30分ごろ、八王子駅北口のビルの屋上のアンテナに以前見たようなたくさんムクドリがいました。ビルはたぶんアクセスビルという名前だと思います。最近夕方になると集まってくるようです。	宇都宮信子	囀	八王子7J
506	ムクドリ	2021/10/15	2000羽±	JR 八王子駅北口二階デッキから観察(駅前通り紅花トチノキ及び周辺の街路樹等)	コロナの感染も大分落ち着いてきましたので今年3回目の囀り調査を実施しました。コスモスが見ごろになり街路樹の葉も心なしか色好き始めたかな? 1月と5月の調査ではムクドリの囀り確認できなく心配しましたが、今回は大分戻ってきました。16時30分~17時45分(晴れ)23°C 日没 17時08分。16時45分 J. COMアンテナに止まり始める。17時00分同上ビルに100羽。17時15分 800羽周辺より小単位で集結する。17時18分 チョウゲンボウ飛来、野村証券ビル上層部に止まる。17時20分 1500羽集まる。小単位で上空を旋回し徐々に街路樹等に入り始める。17時30分 2000±羽、駅前通り紅花トチノキ及び周辺の街路樹等で囀りが終了確認。	対中義雄	囀	八王子7J
506	ムクドリ	2021/10/23	3000羽+	日野市高幡(浅川ふれあい橋付近の河川敷)	6月にムクドリの報告をいたしました。その続きです。久しぶりにならぬうねりを作ってねぐら入りするムクドリの群れ。前回報告3,000羽以上としましたが、5,000近くいるかもしれません。数えきれないです。	小川圭太	囀	武蔵府中3K
F 506	ムクドリ	2021/10/23	3000羽+	日野市高幡	様々な形にうねりながら竹藪に入る姿を見ていると楽しいですね。	小川圭太	囀	武蔵府中3K
F 509	ムクドリ	2021/11/7	3000羽+	日野市(浅川ふれあい橋下流左岸)	先日ねぐら入りの写真をアップしましたが、こちらはねぐら立ちです。日の出少し前(朝6時)にいっせいに飛び立つ瞬間は迫力がああります。	小川圭太	囀	武蔵府中3K
F 506	ムクドリ	2021/11/28	500羽±	日野市 浅川高幡橋上流	大集団の水浴びで水煙が立つほどです。皆、一風呂浴びてねぐらへ帰ります。	小川圭太	行動	武蔵府中3K
521	シロハラ	2021/12/10	1羽	多摩御陵参道	13:00頃。参道、車道脇のツツジの中で餌を探していました。今年の1月から2月にかけて同じ場所で確認しています。	中山尊人、中山千晶	初認	八王子4H
F 521	シロハラ	2021/12/28	1羽	八王子市	落葉を掻き分けて採食していました。どこにでもいそうなシロハラですが今シーズンは出会いが無く初めての撮影になりました。	村山和夫	初認	八王子4H
F 522	アカハラ	2021/10/24	1羽	八王子市	柿を食べに来ていました。例年より随分早い到着です。	村山和夫	初認	八王子7G
F 525	ツグミ	2021/11/14	1羽	八王子市	疲れているのか日光浴か不明ですが殆ど動かず20分ほど休んでいました。	村山和夫	初認	八王子6H
525	ツグミ	2021/11/15	1羽	鎌水中学北側	鎌水中学北側のゆりの木のでっぺん。鳴き声でしたので暫く探していると木のでっぺん付近に留まっていた。暫くすると車の音に驚いてすぐに飛び去った。昨年は神子の沢公園の地面を歩く姿をよく見かけたが飛来したばかりなので高木の上に住たと思われま。	市村緑	初認	八王子9C
525	ツグミ	2021/11/18	声	北浅川・陵北大橋と沈下橋の間	ツグミの声、カシラダカ 2羽、オオバン 1羽	柚木育子	初認	拝島2B
525	ツグミ	2021/11/22	1羽	浅川・暁橋上流側	右岸 木のでっぺん	古山隆	初認	八王子7K
525	ツグミ	2021/11/29	2羽	豊田公園対面の浅川の河原に生える木	高い木に止まって迎りをいつまでも見回していた。写真:有	岡本昭男	初認	武蔵府中1J
525	ツグミ	2021/12/1	1羽	八王子駅北口 駐輪場	鳴き声 街中では初認	古山隆	行動	八王子7J

東側							
F	525 ツグミ	2021/12/13	1羽	八王子市	シーズン初めはツグミの警戒心が強く地面に降り来ず人を見ると直ぐに飛びます。シーズン終了前にはツグミは近距離で観察可能な個体も出てきます。越冬地で余程酷い目にあっているのでしょうか。	村山和夫	行動 拝島 7A
	525 ツグミ	2021/12/17	1羽	石川町西多摩運送前	9:30. 石川町西多摩運送前の中央分離帯。暗かったので電線に止まったのを写真に撮って、後から確認したらツグミだった。	今野美代子	行動 八王子 9K
	525 ツグミ	2021/12/17	1羽	糸原公園	11:30. 声がしなかったのですが、たまたま糸原公園でカワラヒワやシジュウカラを観察していたらひょっこり出て来ました。	今野美代子	行動 拝島 6B
	536 ルリビタキ	2021/11/15	1羽	小山内裏公園 大田切池	今年初めて見た。枝にちょっと止まってクツと鳴いては別の枝に跳び移り、時には地面に降りて何かをついばんでいた。	岡田浩郎	初認 八王子 9C
	536 ルリビタキ	2021/11/15	1羽	宇津貫緑地	オス、姿と声を確認	粕谷和夫他宇津貫カウント T	初認 八王子 6E
	536 ルリビタキ	2021/11/17	1羽	多摩御陵 昭和天皇陵近く	オス。まだ縄張り定まっていなかったのか昭和天皇陵手前の林の中でかなり激しく鳴いていた。綺麗なオスでした。	今野美代子	初認 八王子 2H
	536 ルリビタキ	2021/11/26	1羽	南高尾入沢川上流部(西山峠手前)	9時30分頃。オス。少し高い木の枝で、囀っていた。	加藤岸男	行動 八王子 0C
F	536 ルリビタキ	2021/11/26	1羽	別所の九兵衛坂公園と府中カントリークラブの間の小径	8:20 頃。♂。早朝散歩の帰りに通った道でルリビタキを確認。道端のフェンス上にとまっていたが、府中カントリークラブ側に飛び去る。鳴き声はしなかった。	佐藤哲郎	行動 武蔵府中 2E
F	536 ルリビタキ	2021/12/2	1羽	片倉城跡公園	今シーズン初認です。綺麗な真っ青なオスでした。	浜野知恵子	行動 八王子 7G
	536 ルリビタキ	2021/12/3	1羽	小山内裏公園	AM9 時過ぎ。♂。戦車道路を散歩中、鳴き声を聞き上げるとすぐ上の木に留まっていた。その後すぐに林の奥へ移動した(写真有)	市村緑	行動 八王子 9D
F	536 ルリビタキ	2021/12/10	1羽	八王子市	例年より遅く会いました。元気に飛び回っていました。	村山和夫	行動 八王子 6H
F	536 ルリビタキ	2021/12/12	3羽	八王子市	2羽は小さな争いをしていて1羽は単独で動いていました。	村山和夫	行動 拝島 7A
F	536 ルリビタキ	2021/12/26	1羽	小宮公園	観察したこの個体は、半径 50m 程度の狭い範囲で行動しているようで複数の人間の視線を強く感じる?と隠れ家?のアオキの葉陰に隠れた。	荻島伸介	行動 拝島 7A
F	536 ルリビタキ	2021/12/31	2羽	八王子市	雌タイプ 2羽が小競り合いをしていました。数日前から鳴声や横切る姿を確認していました。今シーズン3か所目の出会いです。	村山和夫	行動 八王子 4H
	540 ジョウビタキ	2021/10/21	1羽	長池公園	オス。声で気がつき、姿も確認	市村緑、門口一雄、粕谷和夫	初認 武蔵府中 1C
	540 ジョウビタキ	2021/10/22	1羽	自宅(西寺方町)	昼頃、ジョウビタキのオスが庭にやって来ました。朝、宝生寺団地内でも、それらしい声がかけていました。	柚木育子	初認 拝島 1B
F	540 ジョウビタキ	2021/10/23	1羽	八王子市	私自身の記録を見ると昨年より4日早く、一昨年より10日早い出会いです。	村山和夫	初認 八王子 6G
	540 ジョウビタキ	2021/10/24	1羽	中野上町1丁目付近	朝、自宅マンションで、今シーズン初めて、鳴き声(ヒツ...)を聞く。	古山隆	初認 八王子 6K
	540 ジョウビタキ	2021/10/25	1羽	自宅(中野町)	PM12:50 頃。♂。今年も来てくれました。今年の個体は雄でした。一生懸命縄張り宣言していました。	今野美代子	初認 拝島 6A
	540 ジョウビタキ	2021/10/25	1羽	高尾町 カフェマリポーサの庭	PM14:00 頃。高尾町 カフェマリポーサの庭。森久美、鹿戸衛(店主)、お客様一名。テラス席の椅子の上に止まったり、庭の低木に止まったりしながら、植木鉢で育てているコムラサキの実を啄んで戻り、を繰り返していた。一回離れたが、また戻ってきてコムラサキの実を啄んでいた。しばらくすると飛び去った。毎年、当店周囲ではメスのジョウビタキばかりを見かけていましたが、今年は♂が最初でした。	森久美他	初認 八王子 2G
	540 ジョウビタキ	2021/10/27	1羽	鎌水公園脇保育園の前	♀。鎌水公園脇保育園の前の戸建て住宅の庭	市村緑	行動 八王子 9C
	540 ジョウビタキ	2021/10/28	1羽	片倉城跡公園	♂。湯殿川沿いの道を歩いていると鳴き声したので見てみると民家付近の桜の木に留まり鳴いているみを見つけた。	市村緑	行動 八王子 7G
	540 ジョウビタキ	2021/10/28	1羽	南大沢学園 5 番街の西道路側の植栽	メス。植栽の中を飛び移っていて、植え込みの中に消えていった。	岡田浩郎	行動 八王子 9D
	540 ジョウビタキ	2021/10/28	1羽	南大沢五郵便局東側	オス。ハナミズキの木に止まって鳴いていた。ひとしきり鳴いた後、西側に飛び去った。	岡田浩郎	行動 八王子 9D
	540 ジョウビタキ	2021/10/28	1羽	城山手 1 丁目東西遊歩道	メス。植栽されている樹木に止まっていた。	千葉槇子	行動 八王子 3J
F	540 ジョウビタキ	2021/10/29	1羽	八王子市	近所で鳴き声が始めたなと思いながら、なかなか見れませんでした。去年と同じ場所に今年も来ていました。	宮本真理	行動 八王子 3E
F	540 ジョウビタキ	2021/10/30	2羽	八王子市	ジョウビタキは渡ってきて当初は縄張り確保の為に雄も雌も関係なく争う。	村山和夫	行動 八王子 6G
F	540 ジョウビタキ	2021/11/21	1羽	八王子市横川町	(オス)。2019年11月、2020年11月、そして今年もジョウビタキ(オス)を観察しましたので、3年連続になります。	荻島伸介	行動 八王子 4K
F	542 ノビタキ	2021/9/16	1羽	八王子市	収穫を終えた畑で時々地面に降りて昆虫を捕食していました。	村山和夫	通過 八王子 7G
F	542 ノビタキ	2021/9/25	2羽	八王子市	毎年、同じ場所に来ます。畑の中を飛び回っていました。畑の中に入るのは厳禁なので遠くから観察しました。	村山和夫	通過 八王子 6G
F	542 ノビタキ	2021/10/3	1羽	八王子市	初めてノビタキを見ました。見たいと思っていた鳥だったので感激です。出たり隠れたりしていました。	宮本真理	通過 八王子 5K
	542 ノビタキ	2021/10/9	1羽	浅川・萩原橋～鶴巻橋	右岸の河原、セイタカアワダチソウ他の中で冬羽の個体が行動していた。	宮越俊一(定期 C)	通過 八王子 6K

F 542	ノビタキ	2021/10/15	1羽	八王子市	遠くから見ても動きで直ぐに判ります。	村山和夫	通過	八王子 7G
549	インヒヨドリ	2021/7/2	2羽	自宅(高尾町)	雌1羽と幼鳥1羽。16時40分17時10分頃まで。夕方天候確認で外へ出たらインヒヨドリの鳴き声が聞こえ、周りを確認したところ自宅の2回のベランダの屋根でインヒヨドリに幼鳥が鳴いていたもの、雌親が西側住宅の入り口付近で採食していた。推測だが西側マンションマイキャッスルから巣立ちではないかと思った。幼鳥は暗くなるまで西側住宅の屋根にいたが17時35分ぐらいに確認しただけでなかった。	福本順吉	繁殖②	4八王子 2G
550	インヒヨドリ	2021/7/3	4羽	自宅(高尾町)	雌雄各1、幼鳥2羽。午前9時10分頃から午後5時15分頃まで。自宅周辺、隣家の屋根、電線など。朝9時10分頃外の様子を見ようと玄関を開けたところ門柱にインヒヨドリの幼鳥1羽がいたのでびっくり、門柱から駐車場の塀に止まっているのを撮る事ができた。すぐ周囲を確認、幼鳥はもう1羽いた、雌親が1羽の幼鳥に給餌していた、東側隣家の屋根で。門柱にいた幼鳥は雄親が給餌していた。親鳥は1羽ずつ分担して餌を与えているのが分かった。一つの証拠としていえるのが雄が給餌していた幼鳥の上を雌親が来て口を開けて餌を要求しているのに無視して担当の？ 幼鳥に給餌していたのを確認できた事。今回のインヒヨドリ親子は西側にあるマンションマイキャッスルからの2番子と思われる事。それは親がそのマンションマイキャッスルの手前にある住宅の庭に餌を捕りに行ったことなどがあげられる。夕方17時過ぎまで周囲を確認しながら観察と撮影を行った。撮影の一部は自宅のベランダから実施した。	福本順吉	繁殖②	4八王子 2G
549	インヒヨドリ	2021/7/5	2羽	湯殿川・白旗橋付近	左岸白旗橋下流100m、民家の屋根の♀親と巣立ち雛	粕谷和夫	繁殖②	4八王子 5F
549	インヒヨドリ	2021/7/7	3羽	自宅庭(高尾町)	雌1羽、幼鳥2羽。14時17分頃。自宅庭に来て庭日植えてあるブルーベリーの実を親鳥が飛びあがってついばみ幼鳥に与えていた。	福本順吉	繁殖②	4八王子 2G
549	インヒヨドリ	2021/7/13	1羽	自宅庭(高尾町)	雌1羽。16時40分から10分位の間、雌1羽が自宅前の道路で採食していた。そばへ寄って双眼鏡で覗くがすぐには逃げなかった。	福本順吉	繁殖	3八王子 2G
549	インヒヨドリ	2021/7/14	2羽	自宅庭(高尾町)	メス1羽、幼鳥1羽。14時17分頃。自宅庭に来てブルーベリーの実を地面から飛び上がってついばんでいた。そのあと幼鳥1羽に与えていた。	福本順吉	繁殖②	4八王子 2G
549	インヒヨドリ	2021/7/14	2羽	中野上町1丁目	幼鳥 マンションの植え込み付近で餌を探す	古山隆	行動	八王子 6K
549	インヒヨドリ	2021/7/20	1羽	南新町(ちびっこ広場付近)	雌型、広場隣の民家の庭から屋根に止まり、さらに飛び去った。	粕谷和夫	行動	八王子 6J
549	インヒヨドリ	2021/7/24	1羽	天神町(天神公園)	雌型(幼鳥のようである)、公園内隅の雑草が生えているところ(地上)で採餌、スズメ3羽も一緒にいた。	粕谷和夫	行動	八王子 6J
549	インヒヨドリ	2021/7/30	1羽	長房団地付近	♀1 カインズホーム西側の住宅の屋根に止まる	古山隆	行動	八王子 3H
549	インヒヨドリ	2021/8/12	1羽	自宅(高尾町)	昼食が済んで休憩中、外でけたたましく鳴き声があり双眼鏡持参で自宅周囲を探すが見つからず念為自宅東側にある横田マンションの屋上をのぞいたら南西角に止まっていた。雌雄確認している間に南側方面に飛び去ってしまったため未確認です。 8月13日も17時43分頃、自宅西側マンションマイキャッスル屋上北側角で雄1羽が囁いていた。	福本順吉	行動	八王子 2G
549	インヒヨドリ	2021/8/29	1羽	西八王子駅南口	朝6時頃 西八王子駅南口のスーパーアルプスの工事現場の宇都宮信子上にインヒヨドリのオスがいました。	宇都宮信子	行動	八王子 5J
549	インヒヨドリ	2021/8/31	1羽	日野市石田	♀。帰宅途中、通りがかった根川から飛びあがって近くの電線に止まった。	菅野桂子	行動	立川 3A
549	インヒヨドリ	2021/9/4	1羽	浅川・浅川橋下流	右岸の民家の屋根に1羽、とまっていた。	宮越俊一(定期C)	行動	八王子 6K
F 549	ヒヨドリ	2021/9/5	2羽	谷地川・多摩川合流付近	(親1羽子1羽)。親とまだ共に行動していると思われる幼鳥。	小川圭太	繁殖②	4立川 1B
549	インヒヨドリ	2021/9/4	1羽	北浅川・松竹橋手前	松竹橋手前の電柱にメス	青木静子他定期C参加者	行動	八王子 0K
549	インヒヨドリ	2021/9/5	1羽	長沼橋右岸側のアパート共用アンテナタワー上	インヒヨドリ成鳥雄1羽がさえずっていた	山崎久美子	行動	八王子 9G
549	インヒヨドリ	2021/9/6	3羽	浅川・浅川橋付近	18:00 夕方、あたりが暗くなる時間帯、2羽で左岸～右岸間で何往復もして、追いかかけ合い。一時、左岸のビルに止まるも、このビルにいたもう1羽も加わり3羽になることも。さえずりに似たような声も出す。	古山隆	行動	八王子 6K
549	インヒヨドリ	2021/9/10	1羽	湯殿川・大橋付近	♀。右岸南方50m付近の電線に止まっていた。	門口一雄	行動	八王子 5G
549	インヒヨドリ	2021/9/14	1羽	湯殿川の春日橋近くの電柱上	インヒヨドリ成鳥雄1羽がさえずっていた	山崎悠一	行動	八王子 9H
549	インヒヨドリ	2021/9/16	1羽	都宮鑓水団地北側	都宮鑓水団地北側の戸建て住宅の屋根の上、朝7時半頃雌が戸建て住宅の屋根から屋根へ飛び移りながら移動していた。この場所は昨年にも観察しています(写真有)その他鑓水団地目の前の林の隣のマンションの手摺りに留まり毎朝綺麗に鳴いているとの情報がありました。	市村緑	行動	八王子 9D
549	インヒヨドリ	2021/9/16	1羽	日野市豊田駅付近	日野市豊田駅付近住みです。8階のベランダでインヒヨドリ? のメスと思われる鳥を見ました。綺麗な鳴き声でしたのでベランダを見たところ全体的にグレーでお腹はマダラっぽい模様で羽にうっすら白っぽい線が入っていました。ヒヨドリよりは全然小さくムクドリより、少し小さい感じでした。時間は16時から	K	行動	武蔵府中 0J

				い。何の鳥かな?と思い検索してたらここに辿りつきましたのでメールさせていただきました。(会員外からの情報)					
549	イソヒヨドリ	2021/9/16	1羽	中野上町1丁目	7:10 自宅マンションの上部からさえずりの声が聞こえた	古山隆	行動	八王子 6K	
549	イソヒヨドリ	2021/9/18	1羽	橋原交差点付近(秋川街道)	三菱モーターズの建物、屋上の看板の中に飛んできて、入る。	古山隆	行動	拝島 4B	
549	イソヒヨドリ	2021/9/19	1羽	浅川右岸・高幡橋	雌。橋下の橋桁に立っていた。写真あります。	岡本昭子	行動	武蔵府中 2K	
549	イソヒヨドリ	2021/9/19	1羽	梶田町のマンション(北野街道要石附近、湯殿川白旗橋付近)	11 時頃、自宅マンションの立体駐車場(梶田町のレーベンスクエアリマインドヒルズ)で、イソヒヨドリの雄をみかけました。停まっている車の間を縫うようにして飛んでおり、時折留まっては良い声で鳴いていました。(会員外からの情報)	M	行動	八王子 5F	
549	イソヒヨドリ	2021/9/21	1羽	八王子駅北口	建設中の建物上部の金属パイプに止まり、囀る	古山隆	行動	八王子 7J	
549	イソヒヨドリ	2021/9/22	1羽	新井団地	14?号棟(新しい高階層の建物)のベランダで囀る	古山隆	行動	武蔵府中 3K	
549	イソヒヨドリ	2021/9/23	1羽	大栗川・内田橋付近(堀之内)	♂1。堀之内内田橋付近。遊歩道を歩いていたら突然綺麗な鳴き声が聞こえてきたので見てみるとキグナスの前の木から内田橋の下の河岸に雄のイソヒヨドリ1羽が飛び移り橋の下のブロック隙間に潜り込んだ。(写真有)	市村緑	行動	武蔵府中 2E	
549	イソヒヨドリ	2021/9/24	1羽	大栗川・大竹橋下流側	AM7:10。オス。川べりから左岸の電柱に飛び上がり、その後右岸のマンション最上部に移動。色鮮やかなオスの個体で、何か口にくわえていたように見えた。	佐藤哲郎	行動	武蔵府中 1E	
549	イソヒヨドリ	2021/9/25	1羽	八王子市寺町	オス。妙経寺鬼子母神(まや保育園)前の2階建物のアンテナでさえずっていた。	粕谷和夫	行動	八王子 6J	
549	イソヒヨドリ	2021/9/25	1羽	八王子駅北口	17:30 布屋パンのビル屋上で囀る	古山隆	行動	八王子 7J	
549	イソヒヨドリ	2021/9/27	1羽	八王子市松木	:♂。八王子市松木の焼肉キング南側松木整骨院並びの戸建て住宅の屋根の上。綺麗な鳴き声の方を見ると戸建て住宅の三角屋根のてっぺんで♂1羽を確認。近づくと直ぐに北方向に飛び移り今度は民家の物置き場の様な低い位置で羽ばたいていた。	市村緑	行動	武蔵府中 1E	
549	イソヒヨドリ	2021/10/2	1羽	北浅川・松竹橋手前	松竹橋手前の電柱にメス	青木静子他定期 C 参加者	行動	八王子 0K	
549	イソヒヨドリ	2021/10/2	1羽	浅川・新浅川橋下の柵	浅川・通称サイカチ池上流(北野町 新浅川橋下の柵)、♂幼鳥。橋の下にある 柵に止まったり動き回っていた。	門倉美登利 ジュニアクラブ 観察会参加者	行動	八王子 8J	
F	549	イソヒヨドリ	2021/10/2	1羽	八王子市大栗川公園(京王堀之内駅に近い)北側の内田橋	橋の下で、飛んでくる虫を跳び上がって捕らえていた。若ではないかと思えます。	岡田浩郎	行動	武蔵府中 1E
F	549	イソヒヨドリ	2021/10/4	1羽	浅川左岸水管橋	9:40 頃、オス。水管橋の左岸橋脚付近で、イソヒヨドリのオス若鳥がフライキャッチを繰り返していた。	佐藤哲郎	行動	八王子 8J
F	549	イソヒヨドリ	2021/10/6	1羽	大田川・峯ヶ谷戸橋北側たもと(八王子市松木)	オス。何度も柵に飛び乗ったり、地面に降りたりしていた。足下近くまで来ても全く逃げる様子になかった。若いオスと思われる。	佐藤哲郎	行動	武蔵府中 1E
F	549	イソヒヨドリ	2021/10/15	1羽	八王子市	ハナミズキの実を食べていました。	村山和夫	行動	八王子 6G
	549	イソヒヨドリ	2021/10/17	1羽	高尾駅南口	高尾駅南口のダイエーの上のマンション。(オス。)会員外からの情報)	T	行動	八王子 2G
	549	イソヒヨドリ	2021/11/2	1羽	浅川・浅川橋 下流側	♂ 川の浅瀬から飛び立ち、橋の橋脚に止まる。たぶん水飲み。	古山隆	行動	八王子 6K
	549	イソヒヨドリ	2021/11/5	1羽	多摩川・JR 中央線鉄橋 近く	オスの若鳥が民家の屋根に止まっていた。ここで見るのは久しぶりです。	福本健他 10 名	行動	立川 1B
	549	イソヒヨドリ	2021/11/22	1羽	自宅近所(日野市豊田)のマンション裏の駐車場	近所のマンション裏の駐車場のフェンス。雄。フェンスから柱に移りその後飛び去った。	岡本昭男、岡本昭子	行動	武蔵府中 1J
F	549	イソヒヨドリ	2021/11/24	1羽	八王子市	橋の下、柵の上、民家の屋根、物置の上と人工物が好きなようで軽々と移動していました。本来の生息場所の海岸の岩に見立てているのでしょうか。	村山和夫	行動	八王子 6G
F	549	イソヒヨドリ	2021/11/28	1羽	八王子市	バス通り沿いの自動車販売店の屋根上を移動していました。	村山和夫	行動	八王子 4G
	549	イソヒヨドリ	2021/12/4	1羽	八王子駅北口	♂ 建設中の建物屋上	古山隆	行動	八王子 7J
	549	イソヒヨドリ	2021/12/5	1羽	北浅川・中央高速道路橋脚より下流 100m 付近	♂。09:00 頃。北浅川・中央高速道路橋脚下流側約 100m の右岸側、耕作地の柵らしき柱に暫くとまっていたが、カメラの準備中に飛び去った。	荻島伸介、山浦秀雄、木野孔司(定期カウ ントメンバー)	行動	拝島 4A
	549	イソヒヨドリ	2021/12/6	1羽	甲州街道八幡町交差点付近	オス、甲州街道 20 号と横浜街道 16 号交差点(八幡町信号)付近の歩道脇の花壇にいて、近くの建物の屋上に移動した。	粕谷和夫	行動	八王子 6J
	549	イソヒヨドリ	2021/12/6	1羽	高尾山口駅付近	7:15 頃。オス。探鳥会参加のために高尾山口駅に着いたところ、案内川沿いの柵上にイソヒヨドリがとまっていた。その後駅舎屋根上に飛び移る。オスの個体で鳴き声はしなかった。	佐藤哲郎	行動	八王子 1F
	549	イソヒヨドリ	2021/12/9	1羽	高尾町大光寺墓地	オス幼鳥。浅川郵便局の南側、中央線脇、民家の庭にいて墓地のフェンスに移動した。	粕谷和夫	行動	八王子 2G
	549	イソヒヨドリ	2021/12/10	1羽	南浅川・横山橋の橋脚の上	♀。13:30頃。橋脚の上、昨年は、12月20日に同じ場所で観察出来ました。今年の1月31日以来となります。	中山尊人、中山千晶	行動	八王子 4H
	549	イソヒヨドリ	2021/12/20	1羽	みなみ野駅前のアクロスモール	東側の屋上にオス	粕谷和夫他宇津貫定期カウ ントG	行動	八王子 6F
	549	イソヒヨドリ	2021/12/20	1羽	兵衛川中村橋付近	2 階アパートの屋根にメス	粕谷和夫他宇	行動	八王子 6E

						津貫定期カウ ントG		
549	イソヒヨドリ	2021/12/20	1羽	兵衛川荒田橋付近	民家2階の屋根にオス	粕谷和夫他宇 津貫定期カウ ントG	行動	八王子6F
549	イソヒヨドリ	2021/12/28	1羽	鎌水浜街道緑地付近	AM7:35分。♂。鎌水浜街道緑地付近、戸建て住宅前の崖の上市村緑 で採餌していた。以前も同じ場所前のマンション建設現場で1 羽を確認しています。		行動	八王子9C
549	イソヒヨドリ	2021/12/28	1羽	日野市高幡(自宅マンシ ョン内)	オス。玄関(マンション6F)前にいた。私がドアを開けると飛び 立ち、場内の機械式駐車場へとまった。マンション内で見たの は今年春以来2度目。	小川圭太	行動	武蔵府中 3K
F	552 エゾビタキ	2021/9/20	2羽	八王子市	野生の山椒の赤い実に興味があるようで何度か来ましたが食 べる場面は確認していません。	村山和夫	通過	八王子7G
F	552 エゾビタキ	2021/10/9	1羽	八王子市	朴の天辺から盛んにフライングキャッチを繰り返して虫を捕食し ていた。	村山和夫	通過	八王子7G
F	558 キビタキ	2021/9/15	1羽	日野市多摩川河川	茂みの中を移動した鳥がいたので写真に撮った。キビタキと 判断した。	福本健	通過	立川1C
	558 キビタキ	2021/10/25	1羽	鎌水公園脇の植え込み の中	♂。こんな時期にキビタキが・・・なのですが赤い実が付いて いる低めの植え込みの中に居た。急いでカメラを向けるとすぐ に林の奥の方に飛んで行ってしまった。	市村緑	通過	八王子9C
	558 キビタキ	2021/11/4	1羽	高尾山3号路	3号路にキビタキ♂が未だいて、喉から胸にかけてのオレンジ 色が鮮やかだった。	菅野桂子他定 期カウント参加 者	行動	八王子0E
F	564 ヒバリ	2021/9/20	2羽	八王子市	畑で採食しているところに会いました。	村山和夫	行動	八王子6G
F	564 ヒバリ	2021/10/9	1羽	八王子市	50メートル四方の狭い範囲を餌場にしてます。日によって 1羽から4羽と個体数は違いますが場所は同じです。数週間 程度で移動するようです。	村山和夫	行動	八王子6G
	569 スズメ	2021/7/31	700羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	開始18:00 終了19:00 晴れ。日の入り時刻18:46。ねぐ ら入り合計:700羽(前年350羽)。近づく、すでにビル屋上 にスズメが群れていた。続々と現れ、瞬間に「縁」にギッシ リ! 次々と下の柵に入っていく。この時! 「四方八方睨み」で、 700羽(前年の倍)をカウント! 正に、息もつかせぬバトルで あった。賑やかな鳴き声が、辺りを包む。スズメ達の「元氣さ」 を頂き「頑張らねば」と帰路についた。	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	569 スズメ	2021/8/6	100羽+	JR 八王子駅南口	19時ちよい前ぐらいたったと思うのですが八王子南口、サザン スカイタワー東広場の植木にかなりの数のスズメが罫入りして いるのを見ました。急いでいたのでちょっと数は数えられな かったのですがなかなか大規模なねぐらになっているようで飛 び込んでいるのや動いている個体だけでも軽く100オーバー はいたと思われます。	今野美代子	罫	八王子7J
	569 スズメ	2021/8/30	540羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	「京王高幡ショッピングセンター」ビル鉄柵内。ねぐら入り開始1 7:30 終了18:15 晴れ。日の入り時刻18:12。今日も元氣 一ぱい飛んで来た540羽のスズメを見上げていた。同じように 何処かで見上げている、飛べなくなった老雀が、時を待つ姿が 胸をよぎった。「自然の摂理」とは重い言葉だ。うるさいほど賑 やかな鳴き声を背にし、帰路についた。	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	569 スズメ	2021/9/29	590羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	「京王高幡ショッピングセンター」ビル前。日の入り時刻17:28 晴れ。ねぐら入り開始16:40 終了17:27。590羽(前年同月 1000羽 対前年410羽減)。早めにと急いだ、16時40分 には、もう入り出していた。17時10分、突如! チョウゲンボウ が逃げるスズメを追って柵内まで入り込んだが、失敗! しば しの静寂! 天敵の残影は消えたが、ねぐら入りも同時に終わ っていた。柵内から徐々に、元氣な鳴き声が大きくなり、楽しい お喋りタイムが賑やかに続いていた。何となく立ち去り難く、佇 んでいた。	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	569 スズメ	2021/10/10	10羽士	浅川・大和田橋 右岸	17:30 イチョウの木の中から鳴き声 罫 実際の羽数は不明	古山隆	罫	八王子8J
	569 スズメ	2021/10/30	540羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	16:25~17:00 晴れ。日の入り時刻16:49 ねぐら入り1 6:30 終了16:55。ねぐら入り合計:540羽(前年同月590 羽)。16:25高幡不動駅前は、選挙カーの大音響! スズメど ころではない! 雀影ナン。16:30突如! 無言?の(拡声器 大音量)スズメ小群大群、忙しくビル上空から柵イン、続く。1 6:55 540羽でブツン! マイクの残音のみ響く。ひと月! 満を持して出陣したが、なんの見せ場もなかった。	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	569 スズメ	2021/11/27	100羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	ねぐら入り開始16:26 終了16:46。日の入り時刻16:29 ねぐら入り合計:100羽(前年30羽)。寒さと強風のせい、元 氣なスズメ達ばかり、まっしぐらに柵に突っ込む。尾羽打ち枯 らしたスズメは、見たこともない。存在しないのかも知れない。 羨ましい限りだ。	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	569 スズメ	2021/12/30	20羽	京王線高幡不動駅南口 「京王高幡ショッピング センター」	16:40~16:45 晴れ。日の入り時刻16:49 ねぐら入り開 始16:40 終了16:45。ねぐら入り合計:20羽(前年同月20 羽)。駅ビル入口ベンチで待機。スズメの鳴き声で見上げると、 バサバサと15羽、窓柵に飛び込んだ。寿命約1年2ヶ月。常に 元氣な姿! 尾羽根打ち枯らした老雀は皆無! 人類には真似 できない生涯、と思はれる。日々精一杯生きる! 峻烈な自然 の掟であろうか。ともかく、「今日に生きる!」と云うこと か。・スズメ数チェック:本年2890羽(前年3690羽22%減)。 8年合計29169羽(2014年~2021年)	渡辺敬明	罫	武蔵府中 3K
	574 ハクセキレイ	2021/9/17	不明	JR 八王子駅北口	ムクドリ群れとハクセキレイのねぐら入りらしい様子を見た	宇都宮信子	罫	八王子7J

				ので連絡します。17時30分ごろ、八王子駅北口のビルの屋上のアンテナに以前見たようなたくさんのムクドリがいました。ビルはたぶんアクセスビルという名前だと思います。最近夕方になると集まってくるようです。					
574	ハクセキレイ	2021/9/17	10羽	羽	西八王子駅南口	18時ごろ。西八王子駅南口のメタセコイアの木から小鳥の音が聞こえたので見てみたらハクセキレイらしい鳥が10羽位いました。双眼鏡を持っていなかったのではっきりしませんが、昨年の秋に見たのと同じなのでハクセキレイだと思います。	宇都宮信子	堺	八王子 5J
574	ハクセキレイ	2021/10/15	444羽	羽	JR 八王子駅北口二階デッキから観察(学園都市センタービル・オクトーレ)	17時10分 オクトーレ屋上に飛来確認。17時20分 周辺より徐々に飛来、ムクドリとは違い単独にて集まります。17時30分 チェッカーにてオクトーレの窓枠に止まるハクセキレイ44羽をカウントしました。	周 辺 中 義 雄	堺	八王子 7J
F 574	ハクセキレイ	2021/11/11	1羽	羽	南浅川	セグロセキレイ同士の喧嘩を長めながら飛ぶハクセキレイの広がった羽の美しさを初めてとらえることができました。	木野孔司	行動	八王子 3H
574	ハクセキレイ	2021/11/30	50羽	羽	西八王子駅南口	西八王子駅南口のメタセコイアの木をめぐらしているハクセキレイのこと連絡いたします。 11/6 19:30頃 20羽位が動かずにいた /7 18:30頃 20羽位が飛び込んでいた /16 16:50~17:10 約50羽位が駅舎の屋根や近くのビルの屋上に集まってから木に飛び込んでいた /21 5:30頃 50羽位がいたが、一部は動き始めていた /25 16:50頃 50羽位が木の周りを飛んでいた /30 16:40頃 50羽位が駅舎の屋根やビルの屋上から飛び始めていた	宇都宮信子	堺	八王子 5J
575	セグロセキレイ	2021/11/3	112羽	羽	八王子市二分方小学校西側 桑畑	集団めぐら入りカウント。16.30~17.10。桑畑。晴れ、北の風 弱い。めぐら入り羽数112羽。桑畑の葉は青く一部黄色み ている。枝は3M位に伸びている。	関根伸一。関 根光世	堺	拝島 3A
F 582	タヒバリ	2021/11/2	3羽	羽	八王子市	畑に撒かれた牛糞付近で採食していました。セキレイの仲間は牛糞に発生する虫を狙ってくるようです。	村山和夫	初認	八王子 7G
584	タヒバリ	2021/11/1	20羽	羽	高月水田	タヒバリが帰ってきた。20羽の群れであった。警戒心が強く写真は撮れなかった。	粕谷和夫	初認	拝島 6F
584	タヒバリ	2021/11/13	8羽	羽	多摩川・中央線鉄橋から多摩大橋の間	下水処理場からの排水路。戻る方向に居たので、近付くと一斉に飛び去る。	神谷古牧	初認	立川 0C
F 584	タヒバリ	2021/12/11	1羽	羽	北浅川・松枝橋下流	キビタキとセグロセキレイの近くにタヒバリが飛んで来ました。過去の記録によると、この付近でタヒバリを確認したのは、4~5年ぶりです。	荻島伸介	初認	拝島 4B
586	アトリ	2021/12/4	30羽	羽	大平林道学習の道分岐先	群れで飛び回っていた。	加藤岸男	希少	与瀬 8E
592	ベニマシコ	2021/11/5	1羽	羽	北浅川・松枝橋上流	スズメに混じって川原の中の中州の草を食べていた	中村后子(定期カウント)	希少	拝島 3B
592	ベニマシコ	2021/11/25	1羽	羽	浅川・暁橋脇	14時ごろ。メス。河川敷。声が聞こえたので、そこでランチをしていたら、下流側からひょっこり目の前に飛んできて、きよろきよろしてすぐ下流側へ飛んで行ってしまいました。	今野美代子	希少	八王子 7K
592	ベニマシコ	2021/12/3	1羽	羽	浅川・浅川大橋 上流側 右岸	声を聞く	古山隆	希少	八王子 7K
592	ベニマシコ	2021/12/3	1羽	羽	小仏城山の一丁平寄り	伐採された左側の斜面	柚木育子	希少	与瀬 8F
592	ベニマシコ	2021/12/4	1羽	羽	浅川・浅川大橋 下流側 右岸	グランド横 鳴き声のみ	古山隆	希少	八王子 7K
F 600	シメ	2021/11/23	1羽	羽	八王子市	遠くの枝に留まり直ぐに飛び立ちました。	村山和夫	初認	八王子 6H
F 600	シメ	2021/12/13	1羽	羽	八王子市	水路に降りて水を飲んでいました。今シーズンはシメ、ツグミ、シロハラ等野鳥と出会う機会が少ないです。	村山和夫	行動	拝島 7A
602	イカル	2021/11/29	15羽	羽	鎌水中学北側のゆりの木のてっぺん付近	AM8時43分。鳴き声と共にゆりの木とその下の木(エノキ?)の中で採餌したり枝から枝へ飛び移ったりしていた。昨年この場所や近くの神子の沢公園で群れで確認している。	市村緑	行動	八王子 9C
F 602	イカル	2021/12/10	10羽	羽	八王子市	榎の実が食べ頃になると各所にイカルの群れが現れます。実を食べ木の股に溜まった水を飲んでいました。	村山和夫	行動	八王子 6H
F 617	カシラダカ	2021/12/5	10羽	羽	浅川・多摩川合流地点	合流地点のブッシュに10羽程度の群れで身を隠していました。	小川圭太	初認	武蔵府中 4K
624	アオジ	2021/11/1	1羽	羽	多摩川右岸昭和用水堰上流河原	ウグイスが地鳴きしているオギの原近くで、アオジの姿を確認できた。	粕谷和夫	初認	拝島 6E
F 901	コジュケイ	2021/12/19	12羽	羽	長池公園	AM7:50頃。寒い朝、霜の降りた田んぼでコジュケイが群れで餌を食べていました。長池公園で見た群れとしては最多です。	佐藤哲郎	行動	武蔵府中 1C
908	カオグロガビチョウ	2021/7/初旬	3羽	羽	石川町	家で玄関から外に出ると、「ビュービュー」と言う声が聞こえました。見ると家に植えてある白樺の木にカオグロガビチョウが3羽も留まって鳴いていました。暫く鳴いていましたが、やがて電線に移り、更に遠くへ飛んで行きました。家に来たのは初めてですし、これを見たのも随分久しぶりです。過去の経験でも、必ず複数羽で居ます。	神谷古牧	外来種	立川 0B
F 908	カオグロガビチョウ	2021/7/10	1羽	羽	八王子市	以前見た川沿いから数百メートル離れた畑と隣接している林にいました。ヴオヴオヴオと聞こえる張り伸びのある大声で鳴いていて遠くから直ぐに存在が判りました。	村山和夫	行動	八王子 6G
908	カオグロガビチョウ	2021/7/20	1羽	羽	多摩川・多摩大橋下流	多摩大橋下流のトラック道路左側。道路脇の低木の上で聞き覚えのない、けたたしい声で鳴いていた。	黒柳正得	行動	立川 0C
F 908	カオグロガビチョウ	2021/9/21	3羽	羽	八王子市	鳴き方は聞きたびに違う気がしますが、伸びと艶と張りのある声は他鳥と間違える事は無いです。	村山和夫	行動	八王子 6G

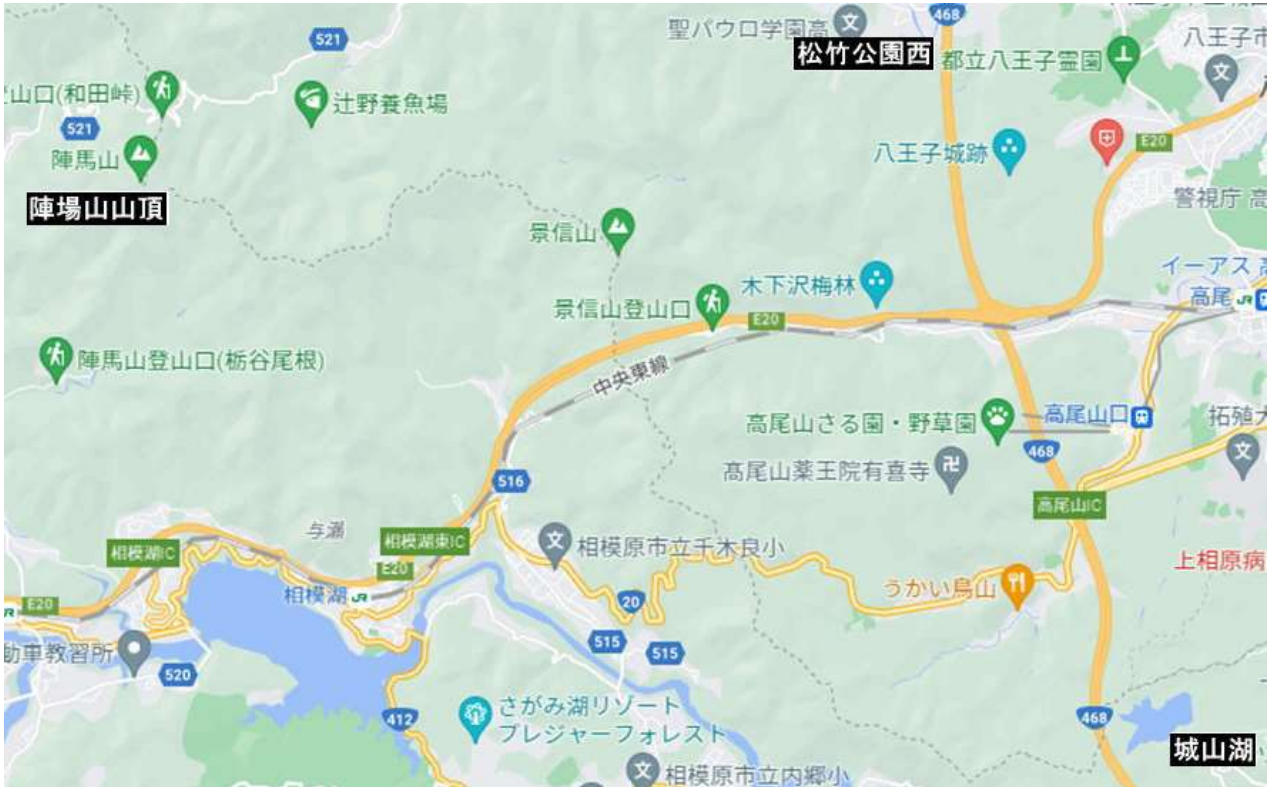
F	908	カオグロガビチョウ	2021/10/25	1羽	八王子市	柿の実を食べていました。カオグロは畑、雑木林、藪、休耕地 村山和夫 が入り組んだ場所を好みます。	外来種	八王子 6G
F	908	カオグロガビチョウ	2021/12/17	3羽	八王子市	200メートル先から判る声で鳴いていました。	村山和夫	外来種 八王子 6G
	909	ガビチョウ	2021/7/下旬	3羽+	石川町	幼鳥が3羽(+)、家の近所の同じ所に1週間程留まっています 神谷古牧 た。巣立ち直後はこの様な習性があるのでしょうか。	繁殖 5立川 0B ⑤	
	910	ソウシチョウ	2021/7/6	声	高尾山いろはの道下り はじめ(4号路分岐附 近)	いろはの道下りはじめて鳴き、大分下ったところでも鳴く。	柚木育子	行動 与瀬 9E
	910	ソウシチョウ	2021/12/18	3羽	多摩森林科学園	盛んに囀る	古山隆	行動 八王子 2H
F	910	ソウシチョウ	2021/12/25	10羽+	多摩森林科学園	年内最終日の園内は非常に静かでキジバト、ヒヨドリ、ジョウ ビタキ程度だったが、終盤に群で移動するソウシチョウを観察 しました。	荻島伸介	行動 八王子 2H
F	910	ソウシチョウ	2021/12/26	3羽	八王子市	歩道で採食していました。この場所で見たのは初めてです。笹 村山和夫 藪が多く如何にも相思鳥が好きそうな環境です。	行動 八王子 4H	
	910	ソウシチョウ	2021/12/27	20羽±	高尾山1号路・いろはの 森コース分岐付近	谷側の木立の中を鳴きながら、移動していた。	千葉禎子他会 員外9名	行動 与瀬 9E
		タヌキ	2021/10/22	1頭	暁町1-40	今回のタヌキは疥癬ではなくもふもふしておりました。 23:40。今野美代子 パチンコ屋裏の細い道。	哺乳類	八王子 7K
		タヌキ	2021/12/3	1羽	浅川・浅川大橋 上流側 右岸	15:15 道路脇で散歩中の犬と対峙	古山隆	哺乳類 八王子 7K
F		モクズガニ	2021/9/19	1頭	湯殿川・釜土橋付近	夜行性で昼間に見るのは珍しいと思います。最大甲羅径が10 村山和夫 センチですがハサミ、脚を含めた大きさは20センチを超えてる ように見えた。湯殿川にいるとは驚きです。	甲殻類	八王子 6G
F		キツネ	2021/7/12	2頭	八王子市	今年生まれの若キツネ2頭が日光浴をしていました。東京で 村山和夫 キツネを見るのは大変珍しいと思います。	哺乳類	八王子 2H
F		イタチ	2021/10/30	1頭	八王子市	頭が小さく胴長で体が柔らかく狭い排水溝やブロックの隙間な 村山和夫 ど難なく入ります。動作が素早く水陸両用のハンターです。	哺乳類	八王子 6G
		スッポン	2021/7/5	1匹	湯殿川・稲荷橋から約 200m下流	水面からずれずれに出ているコンクリートブロックの上で甲羅 粕谷和夫 干し、甲羅が30C cmくらいの大型。	爬虫類	八王子 6G
		ヒバカリ(ヘビ)	2021/9/11	1羽	北浅川・松竹橋上流	タカの渡り調査ポイントの下 水の中を泳ぎ、石の下に隠れ 古山隆 る。	爬虫類	八王子 0K

2021年 秋のサシバ等渡り調査結果

まとめ： 粕谷 和夫

2021年は前年に引き続き主に3ヶ所（松竹公園西、陣場山山頂、城山湖）で、9月15日から10月13日まで、通過するサシバ、ハチクマ等の渡り鳥及び渡りをする蝶アサギマダラをカウントした。

調査には延べ216名の会員が参加した（第1表）が、この他会員外との共同調査者やビジターと一緒に調査した。本年も eメールを使い関東近辺の調査グループと情報の相互交換を行うとともに、「タカ渡り全国ネットワーク」のホームページとリンクしてカワセミ会ホームページに毎日の調査結果を当日の夜までにタイムリーに発信した。



(第1表) 調査参加者数

	松竹公園西	陣場山山頂	城山湖	その他	計		松竹公園西	陣場山山頂	城山湖	その他	計
9月15日			2			10月1日					
16日	1		1			2日	11	3	2		
17日			2			3日	9	1	5	2	
18日			5			4日	5	2	3		
19日	4					5日	7	1	2		
20日	8	1	2			6日	4		2		
21日	5		2			7日	2	1	1		
22日	6	3	2			8日	3	1	2		
23日	10	4	3			9日		1	1		
24日	5	2	3			10日			4		
25日	1		1			11日					
26日	11	1	3			12日					
27日	5	2	3			13日					
28日	9	3	4			計	122	32	60	2	216
29日	11	4	3								
30日	5	2	2								

2021年調査参加者 44名（参加回数無関係）：

青木静子、市橋ゆみ、市村緑、岩崎和代、植木裕子、岡本昭男、岡本昭子、小川圭太、荻島伸介、粕谷和夫、加藤岸男、門口一雄、門倉美登利、河村洋子、菅野桂子、木澤隆雄、久保山嘉男、小林克、小林理恵、小林匠、小張昌子、清水盛通、白川司、白川史子、関根伸一、対中義雄、玉手しのぶ、千葉楨子、角田幸男、中村后子、馬場隆進、馬場啓子、浜野建男、浜野知恵子、水渡トシ子、福島孝子、福本順吉、古山隆、宮本真理、武藤邦子、村田靖雄、柚木鎮夫、柚木育子、横山重子

1. サシバ、ハチクマの通過羽数（数のカウント）と経年変化

第2表の通りで、全体ではサシバは1,356羽で、2018年以来3年ぶりに1000羽を越えた。地区別では城山湖で特に多かった。本年は 9月27日が最大通過日であり、この日を含め3日連続で100羽を越えた。10月は3日が多数通過日となった。ハチクマは 16羽を記録したが、2016年以降減少傾向が続いている。

（第2表）2020年のサシバ、ハチクマの通過数

月日	降水量 mm	最高気温 ℃	サシバ(単位:羽)						ハチクマ(単位:羽)					
			松竹公園西	陣場山山頂	城山湖	その他	日最大値	延べ計	松竹公園西	陣場山山頂	城山湖	その他	日最大値	延べ計
9月15日	3.5	27.8			0		0	0			0		0	0
16日	0.0	26.6	0		2		2	2	0		0		0	0
17日	5.5	24.4			0		0	0			0		0	0
18日	35.5	26.8					0	0					0	0
19日	0.0	29.4	11		1		11	12	0		1		1	1
20日	0.0	28.3	21	8	11		21	40	0	1	0		1	1
21日	0.0	27.7	46		2		46	48	0		0		0	0
22日	7.0	29.0	9	0	0		9	9	2	0	0		2	2
23日	0.0	32.3	53	7	1		53	61	0	0	0		0	0
24日	0.0	29.8	25	8	15		25	48	0	0	0		0	0
25日	0.0	22.4	0		0		0	0	0		0		0	0
26日	0.0	20.2	1	0	9		9	10	0	0	0		0	0
27日	0.0	22.9	66	1	421		421	488	3	0	1		3	4
28日	0.0	24.7	81	7	154		154	242	0	0	0		0	0
29日	0.0	27.7	106	65	6		106	177	0	1	0		1	1
30日	0.5	27.3	8	3	0		8	11	1	0	0		1	1
10月1日	53.0	20.4					0	0					0	0
2日	3.0	29.4	14	0	55		55	69	0	0	2		2	2
3日	0.0	27.5	32	1	75		75	108	0	0	3		3	3
4日	0.0	29.1	5	0	0		5	5	0	0	0		0	0
5日	0.0	29.2	5	2	0		5	7	0	0	0		0	0
6日	0.0	29.1	6		0		6	6	0		0		0	0
7日	0.0	21.7	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0
8日	0.0	30.1	0	1	0		1	1	0	0	0		0	0
9日	0.0	27.1		0	3	9	9	12		0	0		0	0
10日	0.0	26.7			0		0	0			1		1	1
11日	0.0	29.1					0	0					0	0
12日	5.0	21.6					0	0					0	0
13日	10.0	17.9					0	0					0	0
			489	103	755	9	755	1,356	6	2	8	0	15	16

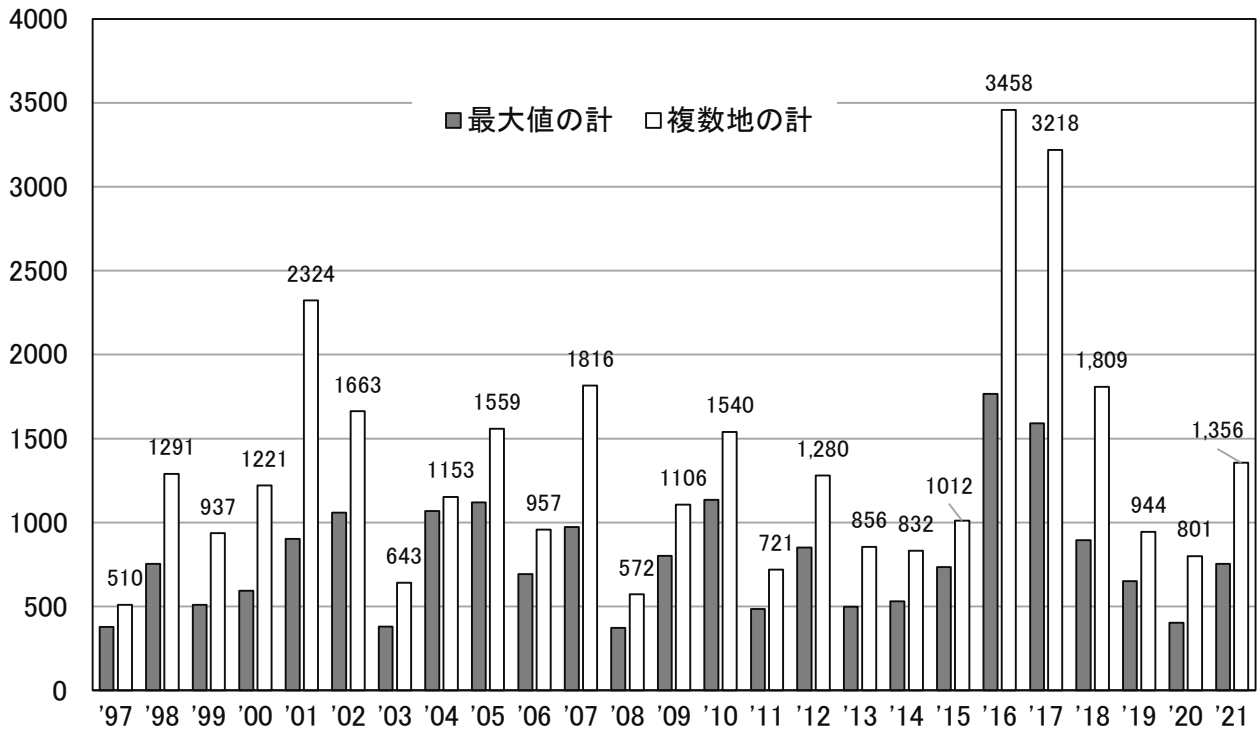
注)①観察日に通過した羽数で当日の滞留羽数は含まれていない。②10/9その他は小仏川と圏央道交差付近である。

③「0」は観察したが、渡り羽数なし、「空欄」は観察無しである。

(第1図) 八王子上空を通過するサシバ、ハチクマ総数の経年変化

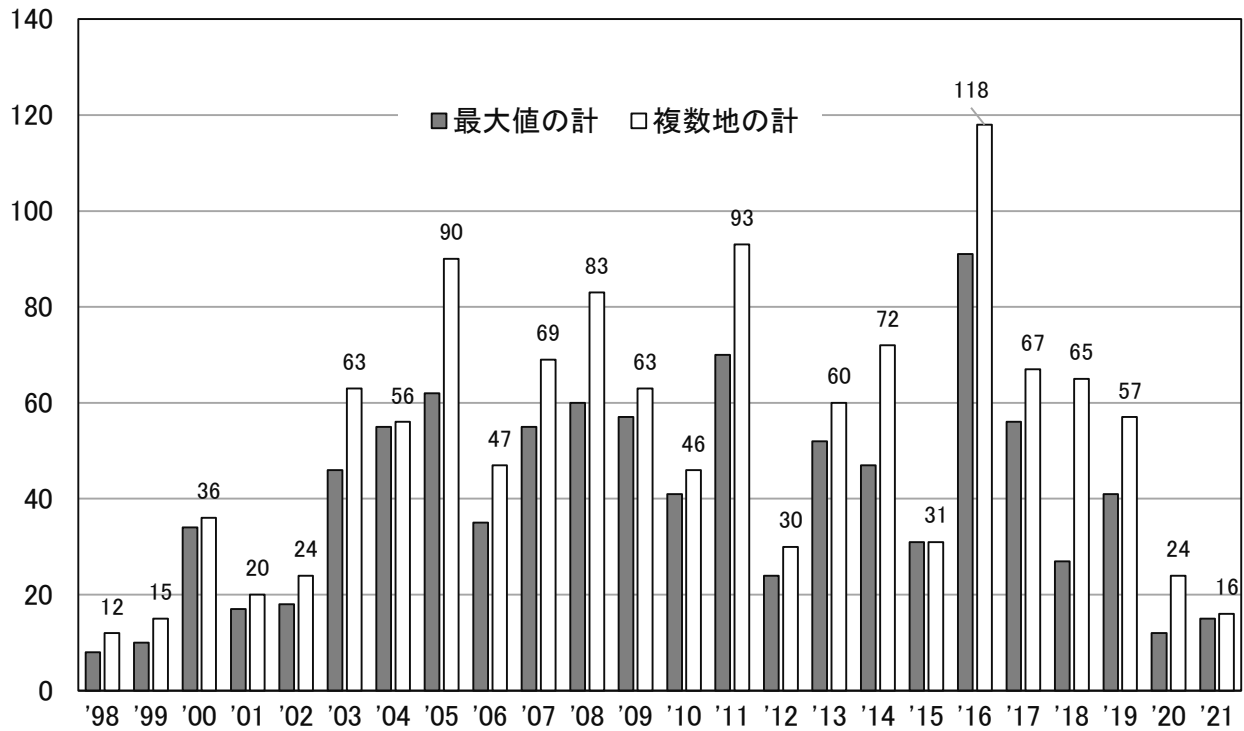
サシバ通過数の経年変化

羽数



ハチクマ通過数の経年変化

羽数



2. 多数通過日と飛翔ルート、時間帯

概ね 100 羽以上が渡った多数通過日は 9/27 : 488 羽、9/28 : 242 羽、9/29 : 177 羽及び 10/3 : 108 羽の 4 日間であった。第 3 表には 4 日間の地点毎の 10 分刻みの時間帯別通過数と通過方向がまとめられている。観察地点から見て本年も西又は南西方向に向かうものが多い。9/27 城山湖を多数通過したものは北東方面から現れたものであるが、松竹公園西ではこれを捉えていないことが読み取れる。ただし、この日松竹公園西から 12:40~12:49 に南西方向に向かった 60 羽と約 10 分後の 12:50~12:59 城山湖に北から来た 40 羽と関連があるかも知れない。

(第3-1表) サシバが多く出た日のデータ9月27日

時:分	松竹公園西		陣場山山頂		城山湖 ダムサイト	
	八王子OK		与瀬3H		八王子2C	
	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)
10:30-10:39						
10:40-10:49	1	北→南				
10:50-10:59						
11:00-11:09						
11:10-11:19			1	東→西		
11:20-11:29	1	東→西			43	北東→南
11:30-11:39						
11:40-11:49					173	北東→南
11:50-11:59					11	北東→南
11:50-11:59						
12:00-12:09					31	北東→南
12:10-12:19					23	北東→南西
12:10-12:19					47	北東→南
12:20-12:29					53	北→南
12:30-12:39						
12:30-12:39						
12:40-12:49	60	東→南西				
12:50-12:59					40	北→南西
13:00-13:09						
13:10-13:19	4	北→南西				
13:20-13:29						
計	66		1		421	

(第3-2表) サシバが多く出た日のデータ・9月28日

時:分	松竹公園西		陣場山山頂		城山湖 ダムサイト	
	八王子OK		与瀬3H		八王子2C	
	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方向)
08:10-08:19	17	北東→西				
08:20-08:29						
08:30-08:39					6	北→南西
08:40-08:49	9	北西→南西	5	北東→南西		
08:50-08:59						
08:50-08:59						
09:00-09:09						
09:10-09:19						
09:20-09:29						
09:30-09:39	1	北→南				
09:40-09:49	9	北→南				
09:50-09:59			2	北東→南西		
10:00-10:09	14	北→南西				
10:00-10:09						
10:10-10:19						
10:20-10:29						
10:30-10:39						
10:40-10:49					20	北東→西
10:50-10:59						
11:00-11:09	1	北東→南西			1	北→西
11:10-11:19					52	北東→西
11:20-11:29						
11:30-11:39					75	東北東→南西
11:40-11:49						
11:50-11:59	20	北→西				
11:50-11:59						
12:00-12:09	6	北→西				
12:10-12:19						
12:20-12:29						
12:30-12:39						
12:30-12:39						
12:40-12:49						
12:50-12:59	1	北→南				
13:00-13:09						
13:10-13:19						
13:20-13:29	3	北→南				
13:30-13:39						
計	81		7		154	

(第3-3表) サシバが多く出た日のデータ・9月29日

時:分	松竹公園西		陣場山山頂		城山湖 ダムサイト	
	八王子OK		与瀬3H		八王子2C	
	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)
08:50-08:59						
09:00-09:09	1	東→南西			1	北東→西
09:10-09:19	5	東→南西				
09:20-09:29	3	北東→西				
09:20-09:29	1	北→南西				
09:30-09:39						
09:40-09:49						
09:50-09:59						
10:00-10:09					1	北東→西
10:00-10:09						
10:10-10:19			7	北東→南西		
10:20-10:29	2	北東→南西				
10:30-10:39	30	北→南西				
10:40-10:49					1	北東→西
10:50-10:59					1	北東→西
11:00-11:09			18	北東→南西		
11:10-11:19	17	北→南西				
11:20-11:29	3	東→西				
11:30-11:39						
11:30-11:39						
11:40-11:49	25	北→南西				
11:40-11:49						
11:50-11:59	7	北→南西				
12:00-12:09						
12:10-12:19	6	北→南西			1	東→南
12:20-12:29	1	北→南西	25	東→西	1	北→南
12:30-12:39						
12:40-12:49	1	北→南西	15	北→南		
12:50-12:59	3	北→西				
13:00-13:09						
13:10-13:19	1	北→西				
13:20-13:29						
計	106		65		6	

(第3-4表) サシバが多く出た日のデータ・10月3日

時:分	松竹公園西		陣場山山頂		城山湖ダムサイト	
	八王子OK		与瀬3H		八王子2C	
	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)	羽数	飛行方向 (発見方向 ⇒飛去方 向)
08:50-08:59						
09:00-09:09					1	北→南西
09:10-09:19						
09:20-09:29						
09:30-09:39						
09:40-09:49						
09:50-09:59						
10:00-10:09						
10:00-10:09						
10:10-10:19						
10:20-10:29						
10:30-10:39						
10:40-10:49						
10:50-10:59						
11:00-11:09					1	東→西
11:10-11:19						
11:20-11:29	13	西→南西				
11:30-11:39	1	西→南西				
11:30-11:39						
11:40-11:49						
11:40-11:49						
11:50-11:59					42	北東→南西
12:00-12:09						
12:10-12:19					19	北東→南西
12:10-12:19					9	東→南南西
12:20-12:29						
12:20-12:29						
12:30-12:39						
12:40-12:49	16	北→南西				
12:50-12:59	1	西→南西				
13:00-13:09			1	北東→南	1	北→西
13:10-13:19						
13:20-13:29						
13:30-13:39	1	西→南西				
13:40-13:49						
13:50-13:59					2	北→西
14:00-14:09						
計	32		1		75	

3. 他の野鳥やアサギマダラの出現数

前年までと同様にサシバ、ハチクマ以外のワシタカや渡りの途中と思われるアマツバメ類、ツバメ類が同時に観察された。第4表は「延べ」であり、実数ではない。ワシタカ類では、ミサゴ、トビ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、クマタカ、チョウゲンボウ、チゴハヤブサ、ハヤブサが観察された。他のワシタカ類は、地付のものと渡り途中のものが含まれ、その判別が難しい。特にノスリは延べ79羽カウントされたが、このうち何羽が渡りのものであったか、特定が困難である。

渡り途中と思われるヒタキ類で記録されたものはノビタキ、エゾビタキキである。ヒヨドリとの渡りと思われる集団通過のものは3489羽で、前年の3456羽とほぼ同じであった。渡りのものと思われるアサギマダラは20頭で前年の61頭を大幅に下回った。

(第4表) サシバ、ハチクマ以外の野鳥等出現羽数又は回数(2021)

			松竹公園西	陣馬山山頂	城山湖	その他	計(延べ計)
地着き又は通過のワシタカ	339	ミサゴ	3	0	18	0	21
	342	トビ	232	4	767	0	1,003
	354	ツミ	21	2	20	0	43
	355	ハイタカ	2	5	1	0	8
	358	オオタカ	10	0	34	0	44
	358	ノスリ	23	3	53	0	79
	364	クマタカ	6	2	0	0	8
	401	チョウゲンボウ	0	0	18	0	18
	404	チゴハヤブサ	0	0	1	0	1
	407	ハヤブサ	3	0	5	0	8
通過のアマツバメ、ツバメ類(ヒメアマツバメは地着き含む)	191	ハリオアマツバメ	0	0	0	0	0
	193	ヒメアマツバメ	24	22	0	0	46
	192	アマツバメ	19	65	77	0	161
	455	ショウドウツバメ	0	0	5	0	5
	457	ツバメ	25	8	19	0	52
	459	コシアカツバメ	0	0	0	0	0
	461	イワツバメ	152	0	17	0	169
通過のその他の野鳥、蝶	187	ツツドリ	0	0	0	0	0
	463	ヒヨドリ	1,500	0	1,989	0	3,489
	542	ノビタキ	0	0	1	0	1
	552	エゾビタキ	0	3	0	0	3
	553	サメビタキ	0	0	0	0	0
	554	コサメビタキ	0	0	0	0	0
		アサギマダラ	3	9	8	0	20

注)①単位は羽数であり、タカ類で地着きのものは同じ個体が何度か出現するので延計である。

②タカ類には渡り(通過)と推定されるものも含まれる。

2021 年浅川流域イワツバメ営巣調査

まとめ： 粕谷 和夫

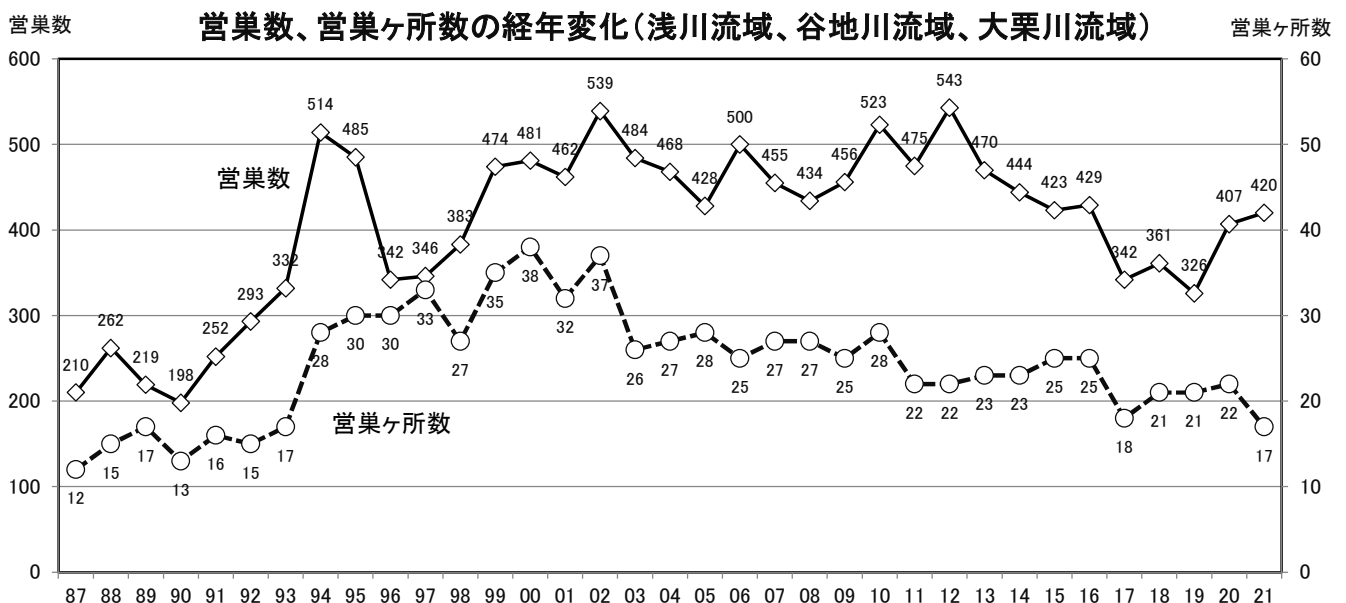
この調査は 1987 年から毎年行っているもので 2021 年は 35 年目となった。調査方法は前年までと同じで、5 月から 7 月の間に 2 回以上、その年に繁殖に利用している巣の数をカウントした。浅川流域を川筋別に 16 に分割し、その他に谷地川、程久保川及び大栗川を加えて行った。

調査区域と調査者は第 1 表、結果は第 2 表の 2021 年欄の通りである。営巣カ所数の減少傾向が本年も続き、営巣数は前年に比べ少し回復した。

調査担当者から以下のコメントがあった。青木静子：5 月 1 日定期カウント（北浅川松竹公園西～陵北大橋）時に 20 羽カウントしたが営巣の気配無し。荻島伸介：北浅川中央高速道橋のイワツバメの営巣は、今年は確認できませんでした。10 カ所程度有ったイワツバメの巣は、4 カ所はヒメアマツバメの巣に代わり、3 カ所は、自然崩壊状態で、1 カ所はスズメが利用しています。営巣しなかった原因は不明ですが、巣作りの時期の河川工事が関係している可能性があります。北浅川中央高速道橋のイワツバメは、横川橋に移動した可能性も考えられます。角田幸男：今年は京王線高尾駅ホームに 4 つの巣があった一方東電のマンションは 0 となりました。浜野建男：一回目の調査のときは巣のあるライオンズマンションの附近の上空をイワツバメ 2 羽が飛び回っていたが、巣に入るのの確認できなかった。二回目の調査のときはイワツバメの気配は全く無かった。木澤隆雄：谷地川八方地橋で 2012 年以来 9 年ぶりに営巣が確認できました。

(第 1 表)2021年イワツバメ営巣調査地域と調査者

	調査地域	調査者
①	北浅川(大沢橋～陵北大橋)	青木静子
②	北浅川(陵北大橋～松枝橋)	中村后子
③	浅川本流(松枝橋～鶴巻橋)	荻島伸介
④	浅川本流(鶴巻橋～大和田橋)	宮越俊一
⑤	浅川本流(大和田橋～長沼橋)	佐藤哲郎
⑥	浅川本流(長沼橋～一番橋)	山崎悠一・久美子
⑦	浅川本流(一番橋～多摩川合流)	玉木雅治
⑧	川口川(川口橋～明治橋)	対中義雄
⑨	川口川(明治橋～浅川合流)	小澤礼子
⑩	南浅川(案内橋～敷島橋)	角田幸男
⑪	南浅川(敷島橋～浅川合流)	小池一男
⑫	城山川(月夜峯新橋～浅川合流)	木村晴美
⑬	山田川(山田橋～浅川合流)	浜野建男、浜野知恵子
⑬	山田川・JR八王子駅	浜野建男、浜野知恵子
⑭	湯殿川(白旗橋上流部)	加藤岸男
⑮	湯殿川(白旗橋～時田橋)	粕谷和夫
⑯	湯殿川(時田橋～浅川合流)	門口一雄
⑯	湯殿川(都立片倉高校周辺)	門口一雄
⑰	程久保川	武藤邦子
⑱	谷地川(月夜橋～新左入橋)	浅野恵美子
⑱	谷地川(新左入橋～田島橋)	木澤隆雄
⑱	谷地川(田島橋～多摩川合流)	中村美弥子
⑳	大栗川(鑓水～大竹橋)	工藤正子
㉑	大栗川(大竹橋～横倉橋)	登坂久雄



(第2表) 2021イワツバメ営業調査結果の報告書

単位: 巢数 (ー: 未調査)

建物区分 A:コンクリート建物 B:コンクリート道路橋下 C:コンクリート鉄道高架下 D:その他
メッシュ No.略記号 八:八王子 武蔵:武蔵府中

浅川の流域	建物区分	メッシュNo	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
①北浅川(恩方第1小学校)	A	八王子0K	0	15	6	0	4	0	0	0	0
②東京天使病院	A	拝島2B	0	0	2	0	0	0	0	0	0
②松枝住宅	A	拝島3B	0	1	0	0	0	0	0	0	0
③北浅川中央高速道橋	B	拝島4A	0	0	0	0	0	3	3	3	0
③市立第2中学校	A	拝島5A	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④浅川萩原橋	B	八王子6K	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④浅川浅川橋	B	八王子6K	2	2	2	2	0	0	0	0	0
④浅川暁橋	B	八王子7K	1	3	11	1	1	2	0	0	7
④浅川浅川大橋	B	八王子7K	115	116	101	123	122	115	123	44	28
⑤浅川大和田橋	B	八王子8J	56	88	90	86	73	81	61	89	66
⑤北野清掃工場	A	八王子8J	-	-	-	-	0	0	0	-	-
⑤ヤマ生コン工場→西東京生コン	A	八王子8H	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤浅川JR中央線鉄橋高架	C	八王子9H	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥浅川長沼橋	B	八王子9H	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥浅川滝合橋	B	武蔵府中0H	3	6	7	5	3	8	5	6	5
⑥平山中学校	A	武蔵府中1H	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦浅川一番橋	B	武蔵府中1J	108	66	41	35	21	19	11	133	152
⑦浅川高幡橋	B	武蔵府中2K	31	24	8	19	18	13	0	50	52
⑧川口児童館	A	拝島2C	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨陶器小学校	A	拝島4C	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨中央道中野山王町高架	B	拝島6A	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨清水小学校	A	拝島5A	-	-	-	-	-	-	-	0	0
⑨檜原中学校	A	拝島5B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨川口川崎守橋	B	拝島6A	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩京王高尾山口駅	A	八王子1F	4	0	0	0	9	17	42	37	34
⑩案内川高尾橋詰橋本屋	A	八王子1F	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩京王高尾駅	A	八王子2G	4	10	15	10	0	0	2	6	13
⑩高尾駅南口マンション、東電寮	A	八王子2G	30	20	40	40	28	27	8	3	0
⑩東浅川小学校	A	八王子3G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩京王線東浅川小学校前	C	八王子3G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑪南浅川横山橋	B	八王子4J	0	0	0	0	0	0	0	0	23
⑪南浅川東横山橋	B	八王子4J	0	8	9	9	8	4	3	3	3
⑪都立八王子工校体育館	A	八王子4J	0	0	0	0	0	0	-	-	-
⑪八王子総合福祉センター	A	八王子3H	-	0	0	0	0	0	0	-	-
⑪NTT八王子	A	八王子4H	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑪南多摩病院	A	八王子5J	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑪ライオンズマンション西八王子駅前	A	八王子5J	0	0	0	0	0	2	10	0	0
⑪台町市民センター	A	八王子5J	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑪都立第2商業高校	A	八王子5J	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑫城山川(月夜峯新橋~浅川合流)		八王子3K4K	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑬JR八王子駅	D	八王子7J	54	30	35	39	32	14	19	0	0
⑭湯殿川西田中橋下	B	八王子5H	-	-	-	-	-	5	2	2	0
⑭湯殿川境橋	B	八王子5H	-	-	-	-	-	-	2	0	0
⑭湯殿川和合橋	B	八王子5H	-	-	-	-	-	-	3	3	15
⑭柵田中学校	A	八王子5H	-	-	-	-	-	-	3	1	1
⑭ハヨーカ-八王子店駐車場ビル5階	A	八王子3H	-	-	-	-	-	19	15	5	0
⑭八王子はざま住宅	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑭メジロ台ハイム	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑭ヤマダ電気八王子高尾店	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑭大信工業kk	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑭スバル研修センター	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑭東建狭間マンション	A	八王子3G	-	-	-	-	-	0	0	0	0
⑯湯殿川大橋	B	八王子5G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑯湯殿川釜上橋	B	八王子6G	1	-	0	1	0	0	0	0	0
⑯湯殿川殿田橋	B	八王子6G	1	1	1	2	0	1	1	6	3
⑯JR片倉駅	A	八王子7G	5	4	5	5	-	-	2	0	0
⑯片倉陸橋下(片倉高校北)	B	八王子7F	-	-	4	3	2	2	0	0	0
⑯片倉台小学校	A	八王子7F	-	-	0	-	0	-	0	0	0
⑯片倉サンライズ幼稚園	A	八王子7F	-	-	0	-	0	-	0	0	0
⑯湯殿川東橋	B	八王子7G	6	2	2	-	-	-	0	0	0
⑯兵衛川横浜線鉄橋	C	八王子7G	10	8	3	5	3	2	0	0	0
⑯湯殿川横浜線鉄橋	C	八王子8H	0	4	0	1	6	2	0	0	0
⑯湯殿川打越大橋	B	八王子8G	0	0	0	-	-	-	0	1	0
⑯湯殿川時見橋	B	八王子8G	-	-	-	-	-	-	0	0	0
⑯北野ハケスタビル	A	八王子8G	-	-	0	-	-	-	0	0	0
⑯京王北野駅	A	八王子8G	0	0	10	6	0	0	0	0	0
⑯京王北野駅~長沼駅	C	八王子9G	0	0	0	-	-	-	-	-	-
⑯京王長沼駅	A	八王子9G	0	0	0	-	-	-	-	-	-
⑯都立片倉高校	A	八王子7F	-	-	0	0	0	-	0	0	0
⑯柵田中学校	A	八王子4F	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑯花王八王子センター倉庫	A	八王子6F	-	-	6	13	-	-	0	-	-
繊維工業団地(下恩方)	A	拝島0A	3	4	0	2	-	-	-	-	-
合計営業数(I)			434	412	398	407	330	336	315	382	402
営業力所数(I)			17	19	20	20	14	18	18	16	13

程久保川、谷地川、大栗川の流域	建物区分	メッシュNo	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
⑰程久保川			0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑬谷地川城山下橋	B	拝島6D	15	20	7	5	5	0	2	4	0
⑬谷地川黄金橋	B	拝島6C	0	3	-	-	-	0	-	0	0
⑲中央高速下石川西児童公園	B	拝島9A	2	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川鶴巻橋	B	拝島9B	2	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川西野橋	B	拝島8A	0	-	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川八幡宿橋	B	拝島7C	4	0	-	-	-	-	-	-	-
⑲カレツツア駐車場	A	拝島7B	0	-	-	-	-	-	-	-	-
⑲いちよう接骨院	A	拝島8B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川青木橋	B	拝島8B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川八方地橋	B	拝島8B	0	0	0	0	0	0	0	0	2
⑲谷地川万年橋	B	拝島9A	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川新日向橋	B	拝島9B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲JR八高線小宮八石陸橋	B	拝島9C	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川新鶴見橋	B	立川0B	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑲谷地川新漕水橋	B	拝島8B	0	0	1	-	-	0	0	0	0
⑲谷地川新左入橋	B	拝島7B	-	3	5	5	3	3	5	10	4
⑳京王南大沢駅	A	武蔵府中0D	-	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳南大沢舞の橋歩道橋	B	武蔵府中0D	-	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳南大沢駅ラフェット多摩歩道橋	B	武蔵府中0D	-	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳南大沢駅駐輪場歩道橋	B	武蔵府中0D	-	0	0	2	1	6	4	2	2
⑳太田川おかんどう橋	B	武蔵府中1D	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳太田川峯が谷戸橋	B	武蔵府中1E	0	0	0	0	0	0	-	3	0
⑳太田川板橋	B	武蔵府中1E	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳太田川川幡橋	B	武蔵府中1E	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳ハローマック多摩NT店	A	武蔵府中1E	0	-	-	-	-	-	-	-	-
⑳京王堀之内駅	A	武蔵府中2E	0	-	-	0	-	-	-	-	-
⑳堀之内駅150m多摩センター寄り高架下	C	武蔵府中2E	0	-	-	-	-	-	-	-	-
⑳大栗川大片瀬橋	B	武蔵府中0E	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳大栗川富士見橋	B	武蔵府中0E	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑳大栗川山下歩道橋	B	武蔵府中0E	-	0	0	0	0	0	0	0	0
㉑大栗川新川橋	B	武蔵府中3F	9	6	8	0	0	0	0	5	12
㉑大栗川常盤橋	B	武蔵府中3F	4	0	4	9	3	16	0	1	0
㉑大栗川宮田橋	B	武蔵府中3F	0	0	0	0	0	0	0	0	0
㉑大栗川横倉橋	B	武蔵府中4G	0	0	0	1	0	0	0	0	0
⑳南大沢駅前中郷公園トイレ	A	武蔵府中0D	-	0	0	0	-	-	0	-	0
合計営巣数(Ⅱ)			36	32	25	22	12	25	11	25	18
営巣力所数(Ⅱ)			6	4	5	5	4	3	3	6	4

浅川流域とその周辺の合計

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
合計営巣数(Ⅰ)	434	412	398	407	330	336	315	382	402
合計営巣数(Ⅱ)	36	32	25	22	12	25	11	25	18
合計営巣数(Ⅰ+Ⅱ)	470	444	423	429	342	361	326	407	420
営巣力所数(Ⅰ)	17	19	20	20	14	18	18	16	13
営巣力所数(Ⅱ)	6	4	5	5	4	3	3	6	4
営巣力所数(Ⅰ+Ⅱ)	23	23	25	25	18	21	21	22	17

N, 中村后子 K河村洋子

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/5	3/5	4/2	5/7	6/3	7/3	8/6	9/4	10/2	11/5	12/5
			8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	6:30	13:00	6:00	7:50	7:00	8:00	8:00
			10:00	11:10	11:10	11:30	10:35	8:30	15:05	7:40	9:00	8:50	10:40	10:40
			晴れ	晴れ	晴れ	曇り	曇り	晴れ	晴/曇り	晴れ	曇/雨	晴れ	晴れ	晴れ
			N	N	N	N, K	N	N	N	N	N	N, K	N, K	N, K, 村田靖雄
5	キジ	14		3	3	10	14	9	1					
30	マガモ	9											9	
32	カルガモ	19			11	14	2	5	2	19	6		9	5
35	オナガガモ	2												2
62	カイツブリ	1												1
74	キジバト	16	10	15	14	16	10	4	3	14	5	7	8	8
127	カワウ	3	3	2	2	2		1		2		1		
144	アオサギ	11	7	2	8	5	8	3	2	11		2	7	2
146	ダイサギ	18	6	5	4	5	9	8	6	18	1	2	5	2
175	オオバン	2												2
185	ホトギス	1						1						
192	アマツバメ	1				1								
202	イカルチドリ	2	1	2			2			2				
203	コチドリ	2				2	2							
244	イソシギ	2	2				1							
342	トビ	3	2	2	2	2		1				2	1	3
383	カワセミ	4	1	2	4	2	2	3		2			2	1
388	アリスイ	1		1										
390	コゲラ	4	2	1	3	2	1	4					1	
393	アカゲラ	1		1										
420	モズ	8	1	3	4	4	2		1			8	4	1
429	オナガ	6			1	6								
435	ハシボソガラス	12	7	8	9	11	4	9	9	4	4	6	2	12
436	ハシブトガラス	3	1			1	2		2		3		1	1
445	シジュウカラ	25	22	25	25	19	5	18	3	11	9	11	10	21
457	ツバメ	21				8	5	21	15	2				
461	イワツバメ	10							10					
463	ヒヨドリ	53	25	34	15	26	16	6	12	7	9	53	45	38
464	ウグイス	14		1	8	11	14	8	7	5			7	8
466	エナガ	23				2						7	23	
485	メジロ	11	11	8	2	5	1	8		2		4	3	7
492	オオヨシキリ	1					1	1		1				
501	ヒレンジャク	7			7									
506	ムクドリ	24	9	9	11	24	21	1	2			1		2
521	シロハラ	1		1										
522	アカハラ	1	1	1										
525	ツグミ	13	2	9	13	12								
540	ジョウビタキ	7	1	4	7								5	2
569	スズメ	87	37	70	31	11	20	10	6	12	22	6	34	87
573	キセキレイ	6	2	5	6	1	4			1			3	3
574	ハクセキレイ	13	8	7	13		3	5	1	5	1	1	2	2
575	セグロセキレイ	18	15	16	7	6	18	7	2	8	3	3	8	8
584	タヒバリ	1		1										
587	カワラヒワ	61	33	52	34		2		5	1			4	61
592	ベニマシコ	1											1	
600	シメ	16		3	1	1							2	16
602	イカル	38	1	38	11	1	2							
610	ホオジロ	12	2	12	3	1	3	2	2	1				7
617	カシラダカ	25	3	25	2									11
624	アオジ	16	12	15	16	6							5	7
	出現総羽数	650	227	383	277	217	174	135	91	128	63	114	201	320
	種類数	50	28	33	30	30	27	22	19	20	10	15	25	27
901	コジュケイ	2				2	1						1	
903	カワラバト(ドバト)	40	1	5	40			2			20	8		
909	ガビチョウ	10		3	3	7	7	10	5	5	4	1	4	1
928	雑種ガモ	1			1	1								
420-1	モズ♂	2		2	1	2	1					2	2	
420-2	モズ♀	2		1	1	1						1	2	
420-3	モズ幼鳥	1				1								
420-4	モズ不明	5	1		2		1		1		5			1
540-1	ジョウビタキ♂	3		2	3								2	1
540-2	ジョウビタキ♀	3		2	3								1	
540-3	ジョウビタキ不明	2	1		1								2	1

調査者記号: o:荻島伸介 i:岩崎和代 kn:木野孔司 y:山浦秀雄 yn:吉野秀夫

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/7	3/7	4/4	5/2	6/6	7/5	8/1	9/5	10/9	11/7	12/5
			8:00	7:30	7:05	7:05	6:55	6:30	8:00	6:30	6:50	7:05	7:05	7:30
			11:15	10:40	10:35	10:15	9:30	9:15	10:00	8:45	8:50	9:20	9:15	10:35
	晴	晴	曇	晴のち曇り	晴	曇	曇	晴	曇	曇	晴のち曇り	晴		
	o	o	o	o,i,y	o	o	o	o	o	o	o,y	o,kn	o,kn,y	
5	キジ	15	1	3	2	8	13	15	2		6		1	1
32	カルガモ	10				9	10	9	4		2	10	3	
38	コガモ	40	40±	30±	7	12	5						8	15
74	キジバト	19	18	19	18	13	6	13	11	12	8	16	15	13
127	カワウ	3		3		3	1		1	2				
144	アオサギ	6	2	3	2	4	1	1		2	2	3	6	2
146	ダイサギ	5	2	2	3	3	3	1	2	2	2	3	5	4
185	ホトトギス	1							1					
193	ヒメアマツバメ	11		1		11		7	5	5		7		
202	イカルチドリ	6	2	6	2	3	3				2	2	1	4
203	コチドリ	2				1	1		2					
241	キアシシギ	3								3				
244	イソシギ	3		1		1					1		1	3
342	トビ	3			1			1	3		1	1		1
354	ツミ	1									1			
383	カワセミ	7			1	1		1		2		1	7	1
390	コゲラ	1				1							1	
397	アオゲラ	1												1
420	モズ	11	2	3	1	3	4	1			1	11	2	
429	オナガ	30		8	30±			5	7		12	2		
435	ハシボソガラス	20	8	12	15	12	4	13	7	5	8	20	10	9
436	ハシブトガラス	3	2	2	1	3	1	1				3		
445	シジュウカラ	13	5	2	6	7	4	4	3	1	4	3	10	13
457	ツバメ	8				5	3	4	8	6				
461	イワツバメ	20				20	2	3	2	5				
463	ヒヨドリ	75	15	2	2	75±	8	10	6	3	8	20	16	20
464	ウグイス	5			3	5	5	5	4	2				2
466	エナガ	1											1	
485	メジロ	1												1
492	オオヨシキリ	1								1				
499	セッカ	1								1				
506	ムクドリ	50	15	40±	22	17	17	25±	16	50±	30±	25±	15	21
525	ツグミ	13	2	10	13	12								1
540	ジョウビタキ	6	1	2	1								6	1
549	イソヒヨドリ	1		1										1
569	スズメ	40	33	20±	15±	5	10	30±	11	40±	7	14	7	30±
573	キセキレイ	4	4	4	4	2		1		3	2	1	2	4
574	ハクセキレイ	11	2	4	7	5	5	5		8		2	2	11
575	セグロセキレイ	20	15	15	11	10	11	12	4	9	4	6	17	20
587	カワラヒワ	60	60±	20±	30±	13	3	30±	9	4			30±	32±
600	シメ	5	3		5									
610	ホオジロ	6	2	3	6	4	1	1					2	6
617	カシラダカ	9	6	6	9	1								5
624	アオジ	8	5	2	8									5
	出現総羽数	559	245	224	225	269	121	198	108	166	101	150	168	227
	種類数	44	23	27	27	30	23	24	20	21	18	19	23	27
903	カワラバト(ドバト)	50	30±	30±	30±	50±	15	15	8	8	20	12	11	30±
909	ガビチョウ	8		1	1	1	3	8	6	3	1	2	2	
420-1	モズ♂	4		1	1	1	1					4	1	
420-2	モズ♀	2	2					1			1	1		
420-3	モズ幼鳥	1					1							
420-4	モズ不明	6		2		2	2					6	1	
540-1	ジョウビタキ♂	3	1		1								3	1
540-2	ジョウビタキ♀	2		2									2	
540-3	ジョウビタキ不明	1											1	

2021年定期カウント報告

調査コース: 4. 浅川(鶴巻橋~大和田橋)

担当者氏名: 宮越 俊一

調査者記号: KIn 井上京子, KIc 一場香里, SO 小澤節子, YK 久保山嘉男, RK 小納良一, NT 高梨則子, YT 対中義雄,
TF 古山隆, KM 武藤邦子, LM 宮越リカ, SM 宮越俊一

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/6	3/7	4/10	5/1	6/5	7/4	8/8	9/4	10/9	11/7	12/5
			8:30	8:30	8:30	8:30	9:00	8:40	9:40	10:20	8:45	8:30	8:30	8:30
			11:50	11:40	11:20	11:20	12:00	10:05	11:30	12:10	11:00	11:00	11:10	11:30
			晴	快晴	曇	快晴	晴/曇	曇	曇時々雨	雨時々曇	曇時々雨	曇のち晴	曇	晴
			SM,LM	SM,LM	SM,LM	SM,LM	SM,LM	FT	SM,LM	SM,LM	SM,LM	SM,LM	SM,LM	SM,LM
5	キジ	4			1	4	3	4	1					
32	カルガモ	17			11	17	9	9	5	4	4	6	10	
38	コガモ	22		4	22	16							5	1
74	キジバト	10	8	6	10	3	8	7	6	2	2	7	3	4
127	カワウ	48	3	3	5	1	3	3	1	2	2			48
144	アオサギ	8	7	3	2	3	3	3	2	2	1	6	5	8
146	ダイサギ	27	27	7	16	8	5	6	2	2	5	5	8	14
148	コサギ	2	1	2		1								
192	アマツバメ	16										16		
193	ヒメアマツバメ	2				2								
202	イカルチドリ	6	4		6	2			1	2			2	5
244	イソシギ	3	2	3	2	2		2	1			2	2	1
342	トビ	3	2	1	3	3	3					3	1	1
356	オオタカ	1										1		
383	カワセミ	5	5	3	3			3			2	5	4	4
401	チョウゲンボウ	1				1	1	1						
420	モズ	5	3	3	1			1				5	3	4
429	オナガ	24	24					1					1	
435	ハシボソガラス	25	16	9	19	11	15	11	7	11	4	25	11	6
436	ハシブトガラス	3						3						
445	シジュウカラ	11		2	2	3	3	11	6	3				2
452	ヒバリ	1				1	1	1	1					
457	ツバメ	41				20	13	18	15	41	6			
461	イワツバメ	75				49	75	47	47	3	10			
463	ヒヨドリ	14	8	5	1	4	10	9	3	5	2	14	8	10
464	ウグイス	2					2	1						1
485	メジロ	4				2	1	4	1					
492	オオヨシキリ	1									1			
499	セッカ	5				2	2	4	2	5	2			
506	ムクドリ	98	32	24+	39	26	21	85	16	98	2	40	8	7
525	ツグミ	8	8	5+	7	4								
540	ジョウビタキ	4	2	1	1								4	2
542	ノビタキ	1										1		
549	イソヒヨドリ	1	1	1		1					1			
569	スズメ	89	89±	50±	25	20	10	38	13	47	55	33	56	65
573	キセキレイ	4	4	1	1					1		1	2	3
574	ハクセキレイ	10	10	5	8	4	2	5	1	6	2	6	7	7
575	セグロセキレイ	15	15	5	9	7	3	5	3	7	2	4	11	12
584	タヒバリ	2				2								
587	カワラヒワ	88	52±	88±	14	8	3	9	2	37	10	23	15	23
600	シメ	1	1											
610	ホオジロ	6	4	5	3	2	2	6			1		1	2
617	カシラダカ	6	5		6									
624	アオジ	3		2	3									
628	オオジュリン	1												1
	出現総羽数	723	333	238	220	229	198	297	136	280	117	203	167	231
	種類数	45	25	24	26	30	23	27	21	19	19	19	21	23
903	カワラバト(ドバト)	135	92±	61±	77	55	78	82	88	66	65	135	58	99
909	ガビチョウ	2								1	2			
420-1	モズ♂	2	1	1								1	2	2
420-2	モズ♀	1		1				1					1	1
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	4	2	1	1							4		1
540-1	ジョウビタキ♂	3	1		1								3	2
540-2	ジョウビタキ♀	1	1	1									1	
540-3	ジョウビタキ不明	0												

調査者記号: サ: 佐藤哲郎

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/3	3/4	4/2	5/4	6/2	7/10	8/2	9/7	10/4	11/2	12/9
			8:00	7:20	7:25	7:20	7:10	7:15	7:05	7:10	7:15	7:15	7:15	7:15
			10:55	10:20	10:30	10:45	10:10	10:10	9:40	9:40	9:50	10:10	10:10	10:20
			晴	晴	晴/曇	曇	晴	曇	晴	晴	曇	晴	晴/曇	曇/晴
			サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ	サ
5	キジ	3			2	1	1	2	1					3
30	マガモ	10	10	1										
32	カルガモ	15	6	4	13	5	6	6	1	2	7	4	4	15
38	コガモ	55	12	19	55	6								8
62	カイツブリ	1						1						
74	キジバト	16	16	9	9	12	11	13	6	7	6	10	8	11
127	カワウ	48	13	12	3	3	2	4	3	12	21	28	48	4
144	アオサギ	5	3	4	2		3	3	3	3	4	5	5	3
146	ダイサギ	36	26	36	7	5	3	9	3	7	5	12	20	8
175	オオバン	4	4	1	4									
193	ヒメアマツバメ	7										7	5	
202	イカルチドリ	7		2	5	7	3	7	2			4	2	1
203	コチドリ	1					1							
244	イソシギ	1		1									1	
342	トビ	2	1		1	2	1	1	2	1	1	1		2
355	ハイタカ	1												1
383	カワセミ	3	2	2	2	3	2	1	2	1	2	3	3	3
390	コゲラ	2		1		1	1	1	1		1			2
401	チョウゲンボウ	1							1					
420	モズ	5	3	3	4	2			1	1	2	5	3	
429	オナガ	6											6	1
435	ハシボソガラス	21	8	8	13	9	8	21	14	8	9	15	11	9
436	ハシブトガラス	2	1		1	2	1			1	1	2	1	1
445	シジュウカラ	12	4	10	12	6	5	10	5	6	5	6	4	7
457	ツバメ	16				14	14	16	9	5	5	2		
461	イワツバメ	30				25	30+	30+	25+	3	4	1		
463	ヒヨドリ	41	20	14	8	22	11	25	13	12	9	41	17	18
464	ウグイス	3	2	1	3	2	2	1					1	2
466	エナガ	5		5										
485	メジロ	4	3	2		2		2		1		1	4	
492	オオヨシキリ	2					1					2		
499	セッカ	6				2	6	5	3	2				
506	ムクドリ	170	37	26	35	28	16	170+	19	150+	60+	60+	28	34
525	ツグミ	10	7	2	9	10								4
540	ジョウビタキ	4	3	2	1								4	3
549	インホヨドリ	3	1				1					1	3	
569	スズメ	125	55	90+	55+	30+	30+	35+	20+	70+	35+	125+	120+	26
573	キセキレイ	3		1	2						1	3	2	1
574	ハクセキレイ	5	3	4	4	4	5	1	1	1	1	3	4	5
575	セグロセキレイ	11	9	11	7	11	6	4	1	3	4	7	6	6
580	ビンズイ	2				2								
584	タヒバリ	1	1		1									
587	カワラヒワ	150	139	52	140+	50+	3	8	6	5	12	40+	55+	150+
600	シメ	3	1	3	2	2								1
610	ホオジロ	14	4	14	10	4	3	4	3	3		1	6	7
617	カシラダカ	8		8	5									5
624	アオジ	12	4	5	12	3								4
628	オオジュリン	2			2									
	出現総羽数	894	398	353	429	275	176	380	145	304	195	389	371	345
	種類数	48	29	31	31	30	27	25	24	22	21	26	26	30
903	カワラバト(ドバト)	29	5	11	8	5	9	29	7	4	4	6	9	7
909	ガビチョウ	3					2	3						
420-1	モズ♂	3	1	2	3	1			1			1	2	
420-2	モズ♀	4	2	1	1	1				1	2	4	1	
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	0												
540-1	ジョウビタキ♂	3	3		1								1	3
540-2	ジョウビタキ♀	2		2									1	
540-3	ジョウビタキ不明	2											2	

調査者記号: Y=山崎悠一、y=山崎久美子

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/6	3/6	4/3	5/1	6/6	7/11	8/3	9/5	10/9	11/3	12/4
			8:00	7:20	6:40	6:15	5:30	5:10	5:45	6:00	7:20	8:10	6:40	7:00
			12:25	11:30	11:15	10:35	9:30	8:40	9:20	9:40	10:40	11:20	10:45	11:05
			晴 Y,y	晴 Y,y	晴 Y,y	晴 Y,y	晴 Y,y	曇 Y,y	晴 Y,y	晴 Y,y	曇 Y,y	曇 Y,y	晴 Y,y	晴 Y,y
5	キジ	7		2	7	7	4	6	2		2	3	1	5
28	ヒドリガモ	6			6									
30	マガモ	5												5
32	カルガモ	19	2		9	13	3	19	17	10	9	2	6	17
38	コガモ	3	2		3									
62	カイツブリ	4	4	3	2	4	3		3	1	2	3	1	2
74	キジバト	12	6	7	11	12	5	8	9	11	12	2	4	2
127	カワウ	61	12	12	5	4	3	5		2	2	10	6	61
144	アオサギ	17	6	5	4	3	2	7	10	13	12	15	4	17
146	ダイサギ	62	7	14	16	9	13	7	4	9	14	41	42	62
148	コサギ	9			9	1		1		1		1	1	
175	オオバン	1	1											
185	ホトギス	1							1					
193	ヒメアマツバメ	2										2		
202	イカルチドリ	7	3	2	1	1	2	3	2			7		
203	コチドリ	3					3							
219	タシギ	4			4									
244	イソシギ	1			1		1	1	1		1			
342	トビ	2		1	2				1	1		1	1	
356	オオタカ	1				1								
383	カワセミ	8	2	3	6	8	5	6	6	1	3	4	4	3
390	コゲラ	1					1					1		
401	チョウゲンボウ	1	1		1			1			1			
420	モズ	13	1	6	1	1	2	1			1	10	13	3
429	オナガ	2			2		2			2				
435	ハシボソガラス	31	23	22	31	29	13	8	16	12	14	14	24	21
436	ハシブトガラス	5	1	4	4	3	5	3	2	2	2	3	3	2
445	シジュウカラ	10	4	10	9	8	4	8	5	2	1	9	5	4
457	ツバメ	34				9	21	21	34	19	1	1		
461	イワツバメ	52				36	30	31	52					
463	ヒヨドリ	48	13	12	12	48	12	12	13	9	11	42	16	27
464	ウグイス	5			5	2	3	4	4	2				
466	エナガ	5												5
485	メジロ	3				3			2					
492	オオヨシキリ	1				1	1							
499	セッカ	8				4	8	3	5					
506	ムクドリ	168	41	38	46	23	18	56	11	4	1	21	67	168
525	ツグミ	14	2	5	14	6								5
540	ジョウビタキ	5	1	3	3								5	2
549	インヒヨドリ	4						4						
569	スズメ	114	95	90	103	102	91	102	72	65	34	108	73	114
573	キセキレイ	3	3		2		1	1	1				1	2
574	ハクセキレイ	21	11	8	21	10	4	3	3	5	5	6	21	4
575	セグロセキレイ	19	13	8	7	5	7	5	3	5	4	10	19	17
584	タヒバリ	2	2	1										
587	カワラヒワ	87	29	38	87	23	23	21	11	5	34	13	37	23
600	シメ	3		3	1								1	1
602	イカル	2		2										
610	ホオジロ	17	8	17	13	6	9	5	6	4	1	6	8	5
624	アオジ	8	4	8	8	4							2	7
628	オオジュリン	5			5									
	出現総羽数	926	297	324	461	386	299	357	294	190	167	335	365	584
	種類数	51	27	26	35	30	30	28	27	23	22	25	25	26
901	コジュケイ	1			1		1							
903	カワラバト(ドバト)	54	43	33	54	34	34	21	22	35	29	36	18	2
909	ガビチョウ	2			1	2	1	2	1	1		1	1	1
420-1	モズ♂	8		5			2	1			1	4	8	2
420-2	モズ♀	1	1	1	1								1	1
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	6				1						6	4	
540-1	ジョウビタキ♂	3	1	2	3								1	
540-2	ジョウビタキ♀	2		1									2	2
540-3	ジョウビタキ不明	2											2	

調査者記号:K:門口一雄、Ky:門口裕子、Km小張昌子、D出口富子、Kk:管野桂子、M:武藤邦子、T:玉木、

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9 8:00 11:45 晴れ K、Ky、T	2/3 8:00 10:40 晴れ K.T	3/1 8:00 11:30 晴れ K、Ky、T	4/ 8:00 11:45 晴れ K、T	5/6 8:00 10:50 晴れ K、T	6/1 7:50 10:40 晴れ K.T	7/5 8:00 11:00 曇り K.T	8/2 7:40 10:10 晴れ K.T	9/4 8:00 9:40 曇り小雨 K.T	10/2 8:00 12:10 晴れ K.T	11/1 8:00 11:45 晴れ K、Km、D、T	12/2 8:00 12:30 晴れ K、Km、KK、M
5	キジ	6			1	5	6	3	2				1	
30	マガモ	2			2									1
32	カルガモ	13	1	2	6	12	10	10	7	5	2	7	4	13
62	カイツブリ	1											1	1
74	キジバト	36	36	19	17	5	6	7	13	8	9	17	9	7
127	カワウ	82	18	5	6	6	6	14	13	6	82		2	1
144	アオサギ	19	7	4	9	8	8	5	7	6	19	5	9	9
146	ダイサギ	35	31	7	15	7	20	4		9	35	12	16	14
147	チュウサギ	1					1							
148	コサギ	11			9		2	1			5	2	11	1
166	クイナ	1		1	1									
175	オオバン	12	12											
192	アマツバメ	1					1							
193	ヒメアマツバメ	65		8				5				65		
202	イカルチドリ	8	4	2	2	1	3	2	7	4	6	2	6	8
203	コチドリ	2				1	2	1	1					
241	キアシシギ	3					3							
244	イソシギ	1	1	1	1		1			1	1			
339	ミサゴ	1												1
342	トビ	4	2	1	2	4	4	3	2	3	1	4	1	3
356	オオタカ	2						2						
358	ノスリ	1										1		1
383	カワセミ	8	4	4	8	3	2	2	3	2	4	3	3	5
390	コゲラ	9	9	2	5	1		1	1		1			1
401	チョウゲンボウ	1										1		1
420	モズ	14	3	7	4	2	4		2	1	1	14	10	11
429	オナガ	16	2				16	1	6	2		3	1	
435	ハシボソガラス	39	20	28	39	11	10	19	17	6	23	8	12	17
436	ハシブトガラス	13	8	13	9	9	8	8	10	3	6	5	3	2
442	ヤマガラス	1	1											
445	シジュウカラ	52	52	43	37	13	8	8	9	8	2	12	9	17
452	ヒバリ	5		3	4	4	5	5	4					
457	ツバメ	53				21	24	53	45	41	36	2		
459	コシアカツバメ	29					10	29	8	5	8	7		
461	イワツバメ	89			15	45	50	70	35	1		89		
463	ヒヨドリ	39	30	22	21	18	19	22	29	13	15	25	39	24
464	ウグイス	9	3	2	6	5	6	9	1	1	2		2	1
466	エナガ	24	24	5		4						4		
485	メジロ	35	35	15		2	5	11	4	3	6	2		5
492	オオヨシキリ	8					8	2		2				
499	セッカ	12				3	10	12	4	6	5			
506	ムクドリ	99	35	37	72	16	25	99	70	29	34	72	30	10
525	ツグミ	21	21	11	19	1								1
540	ジョウビタキ	8	5	5	4	2							8	5
549	イソヒヨドリ	1												1
569	スズメ	129	129	71	64	33	35	43	46	29	35	36	63	66
573	キセキレイ	4	4	4	3		2		1	2			2	3
574	ハウセキレイ	18	18	17	9	4	3	4	8	7	6	5	7	16
575	セグロセキレイ	25	25	20	19	7	4	8	9	12	12	17	13	12
584	タヒバリ	4	4	4	2									
586	アトリ	10				10								
587	カワラヒワ	81	81	43	64	15	7	14	16	2	9	6	41	50
592	ベニマシコ	2	1	2										
600	シメ	6	6	1										
602	イカル	50	50	2										
610	ホオジロ	36	22	28	36	6	2	9	7	4	11	6	7	23
617	カシラダカ	65	65	26	16									3
624	アオジ	28	23	18	28	9								5
628	オオジュリン	5	5		4									
	出現総羽数	1,355	797	483	559	293	336	486	387	221	376	432	310	339
	種類数	59	37	36	35	33	36	33	30	29	27	28	26	34
901	コジュケイ	1	1											
903	カワラバト(ドバト)	29	21	19	12	4	27	8	13	12	29	7	27	19
909	ガビチョウ	6	1	1	4	6	3	3	4	2	2	4	2	2
420-1	モズ♂	5		4	1	1	1		1			3	5	5
420-2	モズ♀	4	2	3	1					1		2		4
420-3	モズ幼鳥	1			1									
420-4	モズ不明	9	1		1	1	3		1		1	9	5	2
540-1	ジョウビタキ♂	3	3	3	1									2
540-2	ジョウビタキ♀	3	2	2	3								2	1
540-3	ジョウビタキ不明	6				2							6	2

調査者記号: 対中義雄 た 市橋ゆみ い 植田益夫 う 坂本良子 さ 氷渡トシ子 ひ 杉森ユリ す 村田靖雄 む 植木裕子 U
北村環奈 き 広岡房江ふ

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/7	3/7	4/4	5/2	6/6	7/3	8/1	9/5	10/3	11/7	12/5
			8:00	8:00	8:00	8:00	7:30	7:30	10:00	7:30	7:30	8:00	8:00	8:00
			10:20	10:35	10:25	10:20	9:35	9:20	12:00	9:45	9:25	10:00	20:20	10:25
			晴れ	晴れ	曇り	曇り	晴れ	小雨	曇り	晴れ	曇り	晴れ	曇り	晴れ
			た	た	た	たいうす ひふむ	た	た	た	た	た	たうさひ	たういさい むひ	たいうす む
5	キジ	1				1	1				1			
27	ヨシガモ	5	3	5	5									
28	ヒドリガモ	1		1										
32	カルガモ	38	21	38	32	11	17	5	13	8	13	15	19	12
38	コガモ	17	13	17	16	14							8	12
62	カイツブリ	5	2	2	2	2	5	1	4	1	2	1		
74	キジバト	21	12	21	15	8	13	14	16	10	18	14	11	10
127	カワウ	5		2	2	3	1	2		5				
144	アオサギ	4	1	3				3	4	1	1	1	1	3
146	ダイサギ	6	1	4	5	4	1			1	4	2	6	2
185	ホトギス	2						2						
193	ヒメアマツバメ	3					2			3				
203	コチドリ	1							1					
342	トビ	4	1	2	2	1	1	1	1		1		4	3
355	ハイタカ	1	1											
356	オオタカ	1												1
358	ノスリ	1				1				1				
383	カワセミ	4	2	3	4	3	1	3			3	3	2	4
390	コゲラ	2	1	2			2	1				1	1	
401	チョウゲンボウ	1		1	1									
420	モズ	4	2	4	2	3	1		1	1	4	4	4	4
429	オナガ	16									16			
435	ハシボソガラス	15	8	8	5	11	9	10	8	4	6	7	15	7
436	ハシブトガラス	5	1		2	4	3		3	5		2		2
445	シジュウカラ	11	5	9	11	3	5	8	5	2	6	1	7	9
457	ツバメ	32				32	18	31	27	16	1			
463	ヒヨドリ	27	11	13	14	25	11	9	9	10	20	27	23	16
464	ウグイス	5	1		3	3	1	3	3	1			5	3
485	メジロ	12	12		1			3	2		2	1	6	3
492	オオヨシキリ	1							1	1				
506	ムクドリ	102	102	17	43	12	19	16	9	3	96	20	20	9
521	シロハラ	1	1											
525	ツグミ	7	6	7	3									2
540	ジョウビタキ	5	4	3	4								5	4
569	スズメ	125	56	36	41	24	22	14	43	46	23	90	125	47
573	キセキレイ	5	4	5		2		1	1	1		3	5	4
574	ハクセキレイ	13	8	9	6	7	3	4		3	2		13	4
575	セグロセキレイ	12	10	6	12	3	5	6	1	2	3	3	11	3
587	カワラヒワ	51	6	28	51	2	1	3	4	6	2		28	2
600	シメ	1		1										1
602	イカル	33			33		2							
617	カシラダカ	3		3	1									
624	アオジ	10	4	6	10	3							2	2
	出現総羽数	619	299	256	326	182	144	140	156	131	224	195	321	169
	種類数	43	28	28	27	24	23	21	20	22	20	17	22	25
903	カワラバト(ドバト)	6	6											
909	ガビチョウ	3				2	3	2		2		2		2
910	ソウシチョウ	0												
420-1	モズ♂	2	2	2		1					2	2	2	1
420-2	モズ♀	3		2	2	1					2	2	1	3
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	1				1	1		1	1			1	
540-1	ジョウビタキ♂	5	3	1	2								5	3
540-2	ジョウビタキ♀	2	1	2	2									1
540-3	ジョウビタキ不明	0												

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/9	2/7	3/6	4/3	5/5	6/5	7/5	8/7	9/7	10/9	11/6	12/5
			8:05	8:45	8:05	8:10	8:05	8:15	9:30	8:00	8:00	8:10	8:10	8:10
			晴れ	晴れ	曇り	晴れ	曇り	曇り	曇り	雨	曇り	曇り	晴れ	晴れ
			粕谷和夫	粕谷和夫	粕谷和夫	粕谷和夫、植木裕子、坂本良子、関谷孝、関谷潤一、対中義雄、武藤邦子	粕谷和夫 b	粕谷和夫	粕谷和夫	粕谷和夫	粕谷和夫	粕谷和夫、植木裕子、関谷孝、関谷充孝、対中義雄、坂本良子、星野光雄、森田公子、山梨菊惠 9名	粕谷和夫、植木裕子、関谷孝、坂本良子、佐久間幸夫、森田公子、会員外(阿部) 7名	粕谷和夫、植木裕子、関谷孝、関谷充孝、星野光雄、会員外1名 6名
5	キジ	4			1	4	3	2				1		
32	カルガモ	35	12	8	8	8	4	8	13	35	5	18	4	15
38	コガモ	52	20	36	46	52	20					10	29	46
62	カイツブリ	3	2	2	3	1						1	1	1
74	キジバト	10	1	5	7	6	10	3	8	9	5	5	2	8
127	カワウ	3	1	1	1	3	1		1	2	2	2		1
144	アオサギ	3	1	1					1	3	1	2	1	1
146	ダイサギ	3	1	1	1	3					1		2	1
166	クイナ	2	1		1	2								
174	バン	2	2	1	1	2	1				1	1	1	2
175	オオバン	3		3	2								1	2
185	ホトトギス	2						2						
244	イソシギ	1	1		1	1						1	1	1
356	オオタカ	1							1					1
383	カワセミ	6	2	1	2	2	1	2	1	1	2	2	6	6
420	モズ	8	2	3	3	3			1	1	2	8	4	3
435	ハシボソガラス	10	5	10	6	2	2	2	2	3	4	2	5	2
436	ハシブトガラス	12	2	2	6	7	6	4		8	12	2	6	9
442	ヤマガラ	3										3		
445	シジュウカラ	16	2	2	4	6	4	2				6	6	16
457	ツバメ	17				1	7	6	17	7	3			
461	イワツバメ	6				4	6		6					
463	ヒヨドリ	12	7	10	6	10	8	6	4	6	6	12	9	6
464	ウグイス	3				3	2	3	2					1
466	エナガ	8				2								8
485	メジロ	5	2			2	2					5	2	2
492	オオヨシキリ	1								1				
506	ムクドリ	55	55	5	7	8	14	9	22	15		20	35	7
525	ツグミ	4		4	1	3								
540	ジョウビタキ	6	2	3	2								6	2
549	イソヒヨドリ	2							2					
569	スズメ	78	4	22	10	8	16	4	2	6	70	40	78	50
573	キセキレイ	5		3	2	1	2					5	1	1
574	ハクセキレイ	18	3	3	1	3	2	1	2	1	1	5	18	2
575	セグロセキレイ	9	5	8	7	4	1		6	2	3	6	9	7
587	カワラヒワ	15	10			15	2	1						5
624	アオジ	4	3	3		4								
	出現総羽数	427	146	137	129	170	116	55	91	100	118	157	227	206
	種類数	37	24	23	24	29	22	15	17	15	15	22	22	27
903	カワラバト(ドバト)	3					2			3				
908	カオグロガビチョウ	2		2										
909	ガビチョウ	4			2		4	2	2		2			
420-2	モズ♂	4	2	2	3	1					1	4	2	3
420-3	モズ♀	2		1		2					1	2	1	
420-4	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	2							1	1		2	1	
540-1	ジョウビタキ♂	3	1	1	2								3	2
540-2	ジョウビタキ♀	3	1	2									3	
540-3	ジョウビタキ不明	0												

調査者記号: 古山FT

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/2	2/5	3/5	4/4	5/3	6/6	7/10	8/3	9/5	10/2	11/3	12/10
			8:50	8:40	9:05	7:20	7:45	7:10	8:10	8:00	7:50	7:30	7:45	9:15
			10:40	10:25	10:55	8:50	9:30	8:40	9:25	9:10	9:30	9:00	9:35	11:07
				曇	晴	晴	曇	晴	晴	曇り	快晴	快晴	晴	
				FT	FT	FT	FT	FT	FT	FT	FT	FT	FT	
5	キジ	3		1	3	3	2	1				3		
32	カルガモ	9		7		2	6	9	3		6	8		
38	コガモ	2											2	
58	ミコアイサ	1			1									
62	カイツブリ	8	2	3	3	2	1					1	8	3
74	キジバト	8	6	7	2	3		4	3	3	2	1	1	8
127	カワウ	55		4	3	5	51	55	5	12	20	11	3	3
144	アオサギ	16	1	1		4	5	16	7	6	5	6	2	2
146	ダイサギ	17	2	2	2	1	14	17	3	2	6	2	2	3
175	オオバン	21											21	9
185	ホトギス	2						2	1	1				
187	ツツドリ	1									1			
192	アマツバメ	4				4								
193	ヒメアマツバメ	1								1				
202	イカルチドリ	9		9	2		2	4					1	
203	コチドリ	6				6	2	1	3					
219	タシギ	1				1								
239	クサシギ	1									1		1	
244	イソシギ	3		1							3		1	
251	トウネン	3									3			
339	ミサゴ	1									1			
342	トビ	3	3	2	3	2	3	1	2	1	1	3	1	2
355	ハイタカ	1		1									1	
356	オオタカ	1				1								1
358	ノスリ	1												1
383	カワセミ	2			2	2	1	1	1			1	1	1
390	コゲラ	3	2	2	3	2	3	2	1			1	1	1
397	アオゲラ	2				1			1	2	1		1	
407	ハヤブサ	1	1											
420	モズ	9	1	4	3	2	2		1	2	1	9	5	1
429	オナガ	9						1						9
435	ハシボソガラス	60	24	19	18	13	31	13	17	23	16	22	38	60
436	ハシブトガラス	18	7	2	11	8	5	4	2	6	12	5	11	18
442	ヤマガラス	1											1	
445	シジュウカラ	10	8	6	8	6	5	6	9	1	3	9	8	10
452	ヒバリ	2				1							2	
455	ショウドウツバメ	3									3			
457	ツバメ	11				2	7	3	2	9	11			
459	コシアカツバメ	14									14			
461	イワツバメ	1								1				
463	ヒヨドリ	27	27	8	7	14	10	13	14	8	18	6	10	13
464	ウグイス	15	1	1	9	15	11	11	14	11	1	1	9	2
466	エナガ	13	7	13	4	2		1				2	1	
485	メジロ	12	10	4	3	6	3	4	12		1	12	7	6
492	オオヨシキリ	6					3	6	3					
499	セッカ	3					1	1	1		3	2		
500	キレンジャク	1			1									
504	ミソサザイ	1												1
506	ムクドリ	11	2		9		11		10					
521	シロハラ	1	1	1										1
525	ツグミ	14	6	9	14	5								1
540	ジョウビタキ	2	1	1									2	2
569	スズメ	47		15	2	4	7	4	7	17	44	12	18	47
573	キセキレイ	2		1		1						2	1	1
574	ハウセキレイ	17	6	6	3	2	2	1		11	17	9	9	11
575	セグロセキレイ	11	5	5	4	4	1	5	6	3	6	6	11	5
584	タヒバリ	7	2	2		2							1	7
586	アトリ	1	1											
587	カワラヒワ	35	35	3	8	8		1		1	1	5	12	22
592	ベニマシコ	1	1	1	1									
600	シメ	7	7	1	4	2							1	5
602	イカル	50	50											
610	ホオジロ	7	4		3	2	5	4	3	1		2	4	7
617	カシラダカ	55	55	6	5									16
624	アオジ	16	8	16	7	6							5	8
625	クロジ	2	2		2	1								
628	オオジュリン	2			2								1	
	出現総羽数	690	288	164	152	141	198	191	131	121	202	141	203	288
	種類数	67	31	33	32	35	27	28	25	20	28	25	35	34
	不明鳥-1	2					1						2	
	不明鳥-2	1											1	
901	コジュケイ	4			2	1	2	2		3	2	3		4
909	ガビチョウ	11	2	2	3	10	8	11	2	4	2	5	5	6
903	カワラバト(ドバト)	31		2	2	31					2			
420-1	モズ♂	4		2	1		1					4	2	
420-2	モズ♀	2	1	2	1		1							
420-4	モズ不明	5			1	2			1	2	1	5	3	1
540-1	ジョウビタキ♂	0												
540-2	ジョウビタキ♀	1	1	1										
540-3	ジョウビタキ不明	2											2	2

2021年定期カウント報告

調査コース: 11・多摩川(通称ひょうたん池から中央線鉄橋) 担当者氏名: 福本 健

調査者記号: A=浅野恵美子、D=出口富子、F=福本健、H=浜田早苗、H2=畠山嘉郎、H3=平賀甫 K=神谷古牧、K2=菅野桂子、K3=小塩菊子、K4=粕谷和夫、
 K5=河田徳子、K6=久保山嘉男、M=武藤邦子、M2=村田靖雄、N=中村后子、S2=佐藤サヨ子、F1=藤田淳子、Y2=山沢良雄 O=小川圭太 O1=萩島伸介、
 S3=佐藤哲郎、T=高梨規子、T2=対中義雄、W2=渡辺正樹 M3=森田公子 W3=渡辺敬明 U=植木裕子 A3=青木京子 I=岩崎和代 S4=坂本良子 Y=山崎久美子

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/8	2/5	2021/3/	4/2	5/7	6/2	2021/7/	8/8	9/5	10/8	11/5	12/3
			8:00	7:50	7:50	7:50	8:00	7:50	8:00	7:30	7:50	7:50	7:50	7:50
			12:20	11:35	12:15	11:55	12:15	12:20	10:50	10:25	10:30	11:55	11:40	12:00
			晴れ	晴れ	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	晴れ	曇り	晴れ	快晴	晴れ
			F,K2	F	F	F,A,I,H3,M, M2,S4,U,Y, Y2	F	F	F	F	F,O	F,A,I,H,H3, K2,K5,M,O, S4,U	F,D,H3,K2, K5,M,M2,O S4,U,Y	F,A,K2,M, O,O1,S4,U
5	キジ	7		2		7	2		1					1
26	オカヨシガモ	1	1											
28	ヒドリガモ	9		2	9	8								
30	マガモ	5	1	3	5		2					1		1
32	カルガモ	28	5	7	15	20	20	22	3	28	8	11	5	5
34	ハシビロガモ	1			1									
38	コガモ	198	198	166	46	25						55		56
42	ホシハジロ	1											1	
46	キンクロハジロ	2			2	2							1	
62	カイツブリ	5	2	3	5	3			1	1	1	3	1	4
74	キジバト	13	4	7	11	13	13		4	5	4	8		7
88	コハクチョウ	8	8											
127	カワウ	84	7	43	7	15	17	9	6	4	21	84	72	70
144	アオサギ	14	6	6	3	4	10	7	6	9	3	8	14	4
146	ダイサギ	65	6	10	5	5	9			3	12	7	65	60
148	コサギ	40			1								40	23
166	クイナ	1					1							
175	オオバン	47	20	28	12	12							14	47
185	ホトギス	2						2						
202	イカルチドリ	16		2									16	6
203	コチドリ	2				2	2							
244	インシギ	3	2	1	1					3	1		1	1
339	ミサゴ	1											1	1
342	トビ	4	3		3	1	3		2		1	3	4	1
355	ハイタカ	1			1	1								
356	オオタカ	2	2	1		1	1					1	1	
358	ノスリ	2	2		1									1
383	カワセミ	5	5	3	4	4		3	1	4	1	1	1	1
390	コゲラ	1	1	1		1		1	1	1		1		
397	アオゲラ	1	1		1									
401	チョウゲンボウ	1				1	1						1	
420	モズ	7	4	4	4	6	1	2				7	7	4
429	オナガ	10	10	8			2	3	2	3	9	4	0	4
435	ハシボソガラス	17	8	4	13	17	14	5	3	1		10	5	5
436	ハシブトガラス	4	2	3	3	4	2	1				1		1
445	シジュウカラ	22	10	18	10	20	8	6	22	5	3	19	5	12
452	ヒバリ	4	4	1		1	1	2	2					
457	ツバメ	24			2	10	18	15	19	24	7			
459	コシアカツバメ	7						3	2	7	2	4		
461	イワツバメ	7				7	4							
463	ヒヨドリ	250	12	6	5	20	14	13	12	12	10	250±	15	15
464	ウグイス	17	2	3	15	17	15	14	15	12		2	4	7
466	エナガ	26		2	2	4			26	10		13	9	13
485	メジロ	11	1	4		11		3	3			3	6	1
492	オオヨシキリ	18					18	17	15	1				
499	セッカ	15				4	13	15	12	8	2			
506	ムクドリ	50	41	29	27	50	32	25	41		12	9	18	3
521	シロハラ	2	2											
522	アカハラ	1	1											
525	ツグミ	19	6	8		19								
540	ジョウビタキ	8	5	2	4								8	4
549	イソヒヨドリ	1											1	
569	スズメ	62	56	30	38	29	22	45	23		62	22	15	23
573	キセキレイ	8	4	8	2	1	1			1		3	3	4
574	ハクセキレイ	12	9	8	9	3	6	4	3	2	3	6	12	8
575	セグロセキレイ	8	6	2	7	1	3	2		4	2	3	4	8
584	タヒバリ	6	1	2		1							6	3
586	アトリ	10	10	5	7	2								
587	カワラヒワ	98	75	22	98	12	5	2	3	1	2	4	2	50
592	ベニマシコ	2		2										1
600	シメ	3		2	3	3								1
610	ホオジロ	17	11	2	17	13	2	7	10	5		3	2	3
617	カシラダカ	33	27	33	6									
624	アオジ	7	3	2	6	7								3
	出現総羽数	1,356	584	495	423	387	263	228	238	163	166	546	361	462
	種類数	64	42	41	40	42	32	25	26	25	20	29	35	38
	不明鳥-1	1					1					1	1	
	不明鳥-2	1										1		
901	コジュケイ	2			1	1	2			1		2		
903	カワラバト(ドバト)	8			4			2		8	8		2	
909	ガビチョウ	13	3	1	3	8	13	7	4	3	3	4	11	2
420-1	モズ♂	4	3	1	2	4	1	1				1	3	1
420-2	モズ♀	5	1	1	2							5	2	3
420-3	モズ幼鳥	1						1						
420-4	モズ不明	2		2		2						1	2	
540-1	ジョウビタキ♂	4	1	2									4	2
540-2	ジョウビタキ♀	4	4		2								2	2
540-3	ジョウビタキ不明	2			2								2	

調査者記号: wa 渡辺正樹 fu 福本健 ka 菅野桂子 ki 木澤隆雄 mu 武藤邦子

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/11 8:30 11:35 曇 wa	2/3 8:30 11:20 晴~曇 wa	3/1 8:30 10:40 晴 wa	4/12 8:30 12:06 晴 wa ka ki fu mu	5/4 8:30 10:55 晴 wa	6/7 8:30 10:40 曇~小雨 wa	7/12 8:35 10:40 晴 wa	8/2 8:30 11:05 晴 wa	9/6 8:30 11:10 曇 wa	10/4 8:30 11:30 晴 wa ka mu	11/1 8:30 10:00 曇 wa ka ki mu	12/6 8:30 12:00 曇 wa ka ki mu
5	キジ	1			1	1	1							
26	オカヨシガモ	70												70±
28	ヒドリガモ	1												1
30	マガモ	8	8			5								7
32	カルガモ	32	7	3	5	29	11	32	11	15	2		9	
34	ハシビロガモ	7	1			7								
38	コガモ	96	96	94	5		4						6	10
46	キンクロハジロ	10				10								
62	カイツブリ	14	9	3	14	4							1	5
74	キジバト	8	8	4	1	3	3	1	3		4	5	3	7
127	カワウ	119	6	33	6	9	54±	8	21	119	100±	66	28	90±
144	アオサギ	10	4	5			3	9	2	9	5	6	10	3
146	ダイサギ	64	45	16	4	7	21	7		11	15	17	64	39
148	コサギ	1											1	
174	バン	2				2								
175	オオバン	120	4	7	10	4							16	120±
193	ヒメアマツバメ	20	18	4		20±						7	10	
202	イカルチドリ	3		3			1			2		2		
203	コチドリ	2							2					
307	コアジサシ	2					2							
339	ミサゴ	1										1	1	
342	トビ	5		1	1	5	2		2	1	1	1	1	2
356	オオタカ	2	1								2			
383	カワセミ	1									1		1	
390	コゲラ	2	1			1	1	2						1
397	アオゲラ	1	1				1	1						
401	チョウゲンボウ	1		1									1	1
420	モズ	12	1		1	3	2				4	12	8	
435	ハシボソガラス	67	10	67	26	8	4	4	4		4	2	4	13
436	ハシトガラス	40	40±	3	2	3	3	6	5		1	2	1	14
442	ヤマガラス	2						2						
445	シジュウカラ	18	5	2	3	18	9	11	2	5	13	5	8	
452	ヒバリ	3			3	1	3			2			3	
457	ツバメ	23				9	6	23	14	11	18			
459	コシアカツバメ	6								6		5		
461	イワツバメ	20				20±	3					13		
463	ヒヨドリ	34	20	8		16	14	12	17	5	7	19	19	34
464	ウグイス	5		3	2	5	5	3	2	2			3	2
466	エナガ	16		3					16					7
485	メジロ	4							2			2	1	4
499	セッカ	3				3	2	3	3	3				
506	ムクドリ	120	1	68	29	36	23	23	2		120±	18	10	
521	シロハラ	1	1		1									
525	ツグミ	22	6	10	8	19								22
540	ジョウビタキ	3	3		1								3	2
549	イソヒヨドリ	1	1											
569	スズメ	49		49	2	13	4	37	7	8		13	10	12
573	キセキレイ	3				1								3
574	ハクセキレイ	28	4	7	7	8	1	2	12	8	8	10	15	28
575	セグロセキレイ	6	2	6	2	6	2					1	4	5
584	タヒバリ	2	1		1	2								2
587	カワラヒワ	69	69	32	17	28							3	68
592	ベニマシコ	2	2	2										
600	シメ	7	1											7
602	イカル	30	30±											
610	ホオジロ	6	1	1		6	1	3	3	3	1	2	2	
617	カシラダカ	12	12	6										2
624	アオジ	3	1	3	1									
	出現総羽数	1169	336	434	152	266.86	131.81	186.8	127.8	207.82	85.819	207.83	244.77	299.85
	種類数	58	29	25	24	32	27	20	20	17	16	22	30	27
903	カワラバト(ドバト)	80	38	31	25	60±	21	5	12	12	42	38	80±	32
909	ガビチョウ	5		1	1	5	2	5	1	3	2	2	2	1
420-1	モズ♂	3	1			1	1				1	3	3	
420-2	モズ♀	3				1	1					4	3	
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	2			1	1					3	5	2	
540-1	ジョウビタキ♂	1	1											
540-2	ジョウビタキ♀	1			1									
540-3	ジョウビタキ不明	2	2											2

調査者記号: 井上京子ik、市村緑im、植木裕子uy、小太刀昭夫koa、小太刀菊子kok、武藤邦子muk、村田靖男my、森田公子mok、渡辺正樹wtm、木澤隆雄kt

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/14 8:40 10:15 快晴 kt	2/10 8:10 10:05 晴 kt	3/11 8:30 10:15 快晴 kt	4/8 8:40 10:55 晴 ik,im,mok ,muk,uy, y	5/14 8:00 9:30 晴 kt	6/10 8:00 9:45 快晴 kt	7/10 8:00 10:15 晴 kt	8/12 8:00 10:05 くもり kt	9/10 8:00 9:35 くもり kt	10/14 8:40 11:05 晴 ik,koa,ko k,muk,uy, ky	11/11 8:40 11:18 快晴 ik,im,uy, muk,wtm, kt	12/09 8:40 11:05 曇後晴 ik,uy,my, wtm,kt
5	キジ	2		1		2	1	1				1	1	
30	マガモ	4			3								4	
32	カルガモ	4				4	2							
38	コガモ	6			4	6								
74	キジバト	4	2	3	2	1	1	2	4	2	1	2		4
342	トビ	1	1	1	1				1			1		
355	ハイタカ	1											1	
356	オオタカ	1	1	1	1		1	1	1					
383	カワセミ	2				2						2		
390	コゲラ	11	5	3	6	3	7	4	2	4	1	9	2	11
393	アカゲラ	1										1		1
397	アオゲラ	1	1	1	1				1				1	
420	モズ	8	2	3		2	1					8	3	
435	ハシボソガラス	6	2	3	2	1	3	2	2	4	1	6	2	4
436	ハシブトガラス	12	3	4	5	1	6	4	5	5	12	7	6	6
442	ヤマガラ	5	3	5	1	2	3	2	2	2		3	4	1
445	シジュウカラ	19	12	15	15	15	15	10	8	7	3	19	17	16
457	ツバメ	7				2	3	2	7					
463	ヒヨドリ	145	17	18	17	20	21	13	13	10	13	145	21	30
464	ウグイス	7	2	3	4	7	6	4	6	3			5	2
466	エナガ	22	12	10	8	3	3	5				11	8	22
485	メジロ	16	13	9	9	12	9	15	12	13	8	5	9	16
506	ムクドリ	30		8	12	14	6	5	4					30+
521	シロハラ	3	1	3	1									3
525	ツグミ	12	3	12	8	10								1
536	ルリビタキ	4	1	1										4
540	ジョウビタキ	3	1	1									3	2
558	キビタキ	3					3	1						
569	スズメ	7	5	3		4		7	2	2		2		
573	キセキレイ	2				2								
574	ハクセキレイ	12	2	2				2	1			12	7	3
575	セグロセキレイ	4											2	4
587	カワラヒワ	80		3	3	5			2	11			7	80+
588	マヒワ	20				20±								
602	イカル	20			2	1					20±			
610	ホオジロ	6	1	1	1	2	2	1	2	2	1	6	4	1
624	アオジ	1	1	1		1								1
	出現総羽数	492	91	115	106	142	93	81	75	65	60	240	107	242
	種類数	37	22	25	21	25	18	18	18	12	9	17	19	21
901	コジュケイ	3		2	3	1	1	1	1	2		1		1
903	カワラバト(ドバト)	40	11	10		10			20	15		40	24	20
909	ガビチョウ	18	3	10	12	18	17	15	13	11	2	7	7	4
420-1	モズ♂	2	1	2		1						2	1	
420-2	モズ♀	2	1	1		1						2	2	
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	4					1					4		
536-1	ルリビタキ♂	1												1
536-2	ルリビタキ♀型	1	1	1										
536-3	ルリビタキ不明	3												3
540-1	ジョウビタキ♂	1											1	1
540-2	ジョウビタキ♀	2	1	1									2	1
540-3	ジョウビタキ不明	0												

調査者記号: H(浜野建男) HC(浜野知恵子)

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/7	2/4	3/4	4/2	5/6	6/3	7/10	8/3	9/7	10/5	11/2	12/2
			8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	7:55	8:14	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00
			10:00	10:00	9:55	9:30	9:27	9:16	9:18	9:30	9:25	9:15	9:50	10:00
		晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴	
		H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	H,HC	
32	カルガモ	4	2	4	2	2	2	2			1	2	2	2
38	コガモ	1											1	
74	キジバト	13	5	13	10	4	8	4		3	7	7	4	8
127	カワウ	2	2										1	
144	アオサギ	2		1			1	1		2		1		1
146	ダイサギ	2	1		2									
174	バン	1	1		1	1							1	1
356	オオタカ	1	1											1
357	サシバ	1				1								
383	カワセミ	2	1		2	1	1	1	2	2		1	2	2
390	コゲラ	3	1		3	3		3	2	1		1	2	1
397	アオゲラ	1	1	1					1				1	
420	モズ	4	2	4								4	4	2
435	ハシボソガラス	6	1		3	2	1	4	1		4	6	1	1
436	ハシブトガラス	7	3	5	5	5	1	2	4	5	3	7	5	5
442	ヤマガラ	10	5	4	10	2	1	2		3	1	2	1	1
445	シジュウカラ	18	9	10	15	11	8	18	5	13	6	6	5	6
457	ツバメ	4				2	4		4	3	3			
461	イワツバメ	3							3					
463	ヒヨドリ	33	30	33	31	16	16	26	8	16	8	21	25	33
464	ウグイス	5	1	1	3	2	1	2	2	2				5
466	エナガ	17	8	12	17	5		4						
485	メジロ	16	8	7	7	16	4	4	4	16		3	6	12
506	ムクドリ	19	1	5		4	7	2	19					
518	クロツグミ	1					1							
521	シロハラ	3	1	1	3	1								1
525	ツグミ	2	2	2	2	1								
536	ルリビタキ	2	1		1									2
540	ジョウビタキ	2	2		2								2	2
549	インビヨドリ	1	1											
558	キビタキ	1					1							
569	スズメ	31	12	5	4	5	7	6	7	7		31	20	
573	キセキレイ	1	1	1	1		1						1	
574	ハクセキレイ	5	3	2	1	5						1	1	
575	セグロセキレイ	3	1		3	2								
587	カワラヒワ	42	42	3	1	1	3							10
600	シメ	4	1	4	2	1								
602	イカル	30	1	30		1				2				
610	ホオジロ	1												1
617	カシラダカ	4	4											
624	アオジ	5	5	5	4	4								1
	出現総羽数	313	160	153	135	98	68	81	62	75	33	93	85	98
	種類数	41	33	22	25	25	18	15	13	13	8	14	19	21
901	コジュケイ	2		1	2	1	1			1			1	
903	カワラバト(ドバト)	1					1							
909	ガビチョウ	6	1	1	2	6	6	4	1	5	1	2	3	1
420-1	モズ♂	2		1								1	2	
420-2	モズ♀	2	2	1								1	2	2
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	2		2								2		
536-1	ルリビタキ♂	1	1		1									1
536-2	ルリビタキ♀型	1												1
536-3	ルリビタキ不明	0												
540-1	ジョウビタキ♂	2	1		1								2	1
540-2	ジョウビタキ♀	1	1		1									
540-3	ジョウビタキ不明	1												1

調査者記号: k門口一雄、S坂本良子、kk粕谷和夫、knk管野桂子、H、広岡房江、m村田靖雄、kh門口裕子、T対中義雄、
U植木裕子、D出口富子、I岩崎和代、M武藤邦子、

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/7 8:00 11:10 晴 k、s、	2/8 8:00 11:05 晴 k、	3/7 7:50 10:10 曇 k、kk、	4/8 8:00 11:35 晴 k、knk、 聞、m、	5/7 7:40 10:00 曇 k、	6/7 8:30 11:15 曇 k、	7/13 8:10 11:00 曇 k	8/7 7:30 10:45 晴 k	9/10 8:00 10:35 晴 k、kh	10/5 8:00 11:20 晴 k	11/10 8:00 10:55 晴 k、T、U、S、H、 D	12/10 8:00 10:50 曇 K、I、U、Knk、 S、D、H、M、 m、9名
74	キジバト	8	6	1	8	2	5	4	7	3	4	6	1	3
127	カワウ	300												300±
144	アオサギ	1											1	1
185	ホトギス	2							2	1				
193	ヒメアマツバメ	11	1									11		1
339	ミサゴ	1										1		
342	トビ	1		1				1						
355	ハイタカ	1	1											
356	オオタカ	2			2			2						1
390	コゲラ	9	9	7	7	7	3	5	5	2	1	3	2	2
397	アオゲラ	3	2	1	1	3	1	2	1	2	3	2		1
401	チョウゲンボウ	1												1
420	モズ	3	3	1	1		1					3	2	2
435	ハシボソガラス	5	3	3	2	4	5	5	3	4	2	2	3	5
436	ハシブトガラス	12	4	4	3	2	6	9	9	3	5	12	2	3
442	ヤマガラ	14	13	14	9	10	9	2	3	2	3	7	7	4
445	シジュウカラ	28	28	17	12	17	18	27	12	2	16	20	22	15
457	ツバメ	5					3	1	5	1		2		
463	ヒヨドリ	44	27	25	18	17	36	37	44	18	3	36	29	21
464	ウグイス	20	9	3	9	8	14	8	20	6	1	2	16	4
466	エナガ	43	43	16	8	6	2	8			7		26	25
485	メジロ	41	34	19	23	19	16	33	41	17	16	24	34	21
506	ムクドリ	11	7	3	8	3	2	4	8				1	11
521	シロハラ	4	2	4	2									2
525	ツグミ	4	1	3	4	2								2
536	ルリビタキ	3		1										3
540	ジョウビタキ	4			1								2	4
549	イソヒヨドリ	1											1	
558	キビタキ	3					3	1	1					
569	スズメ	11	2	11	9	1	3		3	1		9	3	1
573	キセキレイ	2	2	2			1	1	1					
574	ハクセキレイ	2					1					2	2	2
575	セグロセキレイ	1				1	1						1	
587	カワラヒワ	30	1	2	3	5	2	2		1			1	30±
600	シメ	1	1											1
602	イカル	2	1	1				2		1				
610	ホオジロ	3												3
617	カシラダカ	2		2										
624	アオジ	4	2	2	4	2							3	2
	出現総羽数	643	202	143	134	109	132	154	165	64	61	142	159	471
	種類数	39	23	23	20	17	20	19	16	15	11	16	20	28
901	コジュケイ	8	3	3	8	3	4	2	2	4		5	3	
903	カワラバト(ドバト)	4		2			4							
909	ガビチョウ	44	11	9	17	27	34	30	44	25	7	23	27	7
910	ソウシチョウ	2				2			2				2	2
420-1	モズ♂	1	1	1								1	1	1
420-2	モズ♀	1	1									1		1
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	1	1		1		1					1	1	
536-1	ルリビタキ♂	1		1										1
536-2	ルリビタキ♀型	0												
536-3	ルリビタキ不明	2												2
540-1	ジョウビタキ♂	3											2	3
540-2	ジョウビタキ♀	1			1									
540-3	ジョウビタキ不明	1												1

調査者記号: K・粕谷和夫 * T・對中義雄 * KM・門倉美登利 * C千葉禎子

第7版番号(新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/6	1/10	3/10	4/7	5/12	6/10	7/7	8/4	9/8	10/7	11/10	12/10
			8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	11:00	8:15	8:00	8:00	8:00	8:00
			9:30	9:30	9:40	10:00	10:00	10:00	13:00	10:05	10:10	16:15	9:40	9:30
			曇/曇少々	晴	晴	曇	曇時々晴	晴	曇	晴	曇一時小雨	曇一時小雨	晴	曇
			K・T・C	C	C	T・KM・C	C	C	C	C	C	KM・C・体	K・KM・C	C・KM・体験参加者
74	キジバト	3	2			2			1		2	3		
146	ダイサギ	1		1	1									
185	ホトトギス	1						1						
342	トビ	5	2		1		1				1	3	5	
390	コゲラ	6		1	2	6		2					3	
397	アオゲラ	1					1							
418	サンコウチョウ	1							1					
420	モズ	1		1								1		
427	カケス	2		2										
435	ハシボソガラス	9		2	1	5	3	5				1	3	9
436	ハシブトガラス	18	2	5	1	4	2	4			2	18	5	6
442	ヤマガラ	3		2	1	1	3	2						
443	ヒガラ	1					1							
445	シジュウカラ	16	5	11	5	16	9	15		2		3	7	
457	ツバメ	15				5	15	10	8	3				
463	ヒヨドリ	33	19	9	16	14	15	15	16	1	6	33	9	5
464	ウグイス	15		5	5	9	15	7	2	1		2		1
465	ヤブサメ	1						1						
466	エナガ	10				2		10				2		
485	メジロ	11	7	2	9	11	3		2			8	1	2
504	ミソサザイ	1											1	
506	ムクドリ	20				11	7	7				20		
512	カワガラス	1											1	
521	シロハラ	1	1											
540	ジョウビタキ	2	1	2	2								1	
549	イソヒヨドリ	1			1	1								
569	スズメ	16				2	4	16			2			
573	キセキレイ	7	6	1	7	5	4	6					1	1
574	ハクセキレイ	2				2						2		
575	セグロセキレイ	2	1		2							1	1	
580	ビンズイ	11	4										11	
587	カワラヒワ	20		20										
602	イカル	1						1	1					
617	カシラダカ	6	6											
624	アオジ	7	3	3		7								1
	出現総羽数	251	59	67	54	103	83	102	31	7	13	97	49	25
	種類数	35	13	15	14	17	14	15	7	4	5	13	13	7
901	コジュケイ	4				1					4	1		
909	ガビチョウ	4				1	1	1		1		2	1	4
420-1	モズ♂	0												
420-2	モズ♀	0												
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	0		1								1		
540-1	ジョウビタキ♂	1	1	1	1								1	
540-2	ジョウビタキ♀	1			1									
540-3	ジョウビタキ不明	1		1										

調査者記号: k・粕谷和夫 * T・對中義雄 * KM・門倉美登利 * C・千葉槇子

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/6	2/10	3/10	4/7	5/12	6/10	7/7	8/4	9/8	10/7	11/10	12/10
			9:30	9:30	9:40	10:00	10:00	10:00	13:00	10:05	10:10	10:50	9:40	9:30
			14:10	14:10	15:00	15:40	15:30	15:00	15:30	15:30	15:40	16:15	15:30	15:00
			曇 曇少々 K・T・C	晴 C	晴 C	曇 T・KM・C	曇晴 C	晴 C	曇 C	晴 C	一時雨・曇 C	一時小雨霧 KM・C・ 体験参加 者1	晴 K・KM・C	曇 KM・C・ 体験参加 者1
74	キジバト	6	1	3	4	4	6				3			1
342	トビ	2	1		1		1						2	
356	オオタカ	1	1		1									
390	コゲラ	9	1	5	2	9	5			2		5		2
393	アカゲラ	1	1											
397	アオゲラ	8	1	1		1	8				3	1		1
427	カケス	9	2			2	1				2	9	1	2
435	ハシボソガラス	4			2				4					
436	ハシブトガラス	11	4	8	1	7	6	1			3	11	8	9
442	ヤマガラ	28	28	10	6	6	3			17	2	13	2	
443	ヒガラ	4	2			1	3				2	4	2	
445	シジュウカラ	16	16	9	13	12	3	4		8		6	3	8
463	ヒヨドリ	45	21	26	28	32	13	8			3	30	28	45
464	ウグイス	21	1			21	13	5	1	4			1	2
465	ヤブサメ	1					1	1	1					
466	エナガ	23	23	20+	2		9			5		2		5
485	メジロ	20	20	11	7	4	4	1		8	2	11	1	9
504	ミソサザイ	1			1									
521	シロハラ	2	2											
536	ルリビタキ	1												1
558	キビタキ	12					12	6	1					
561	オオルリ	4				4	4							
573	キセキレイ	2	1			2	2	1					1	1
586	アトリ	9	9											
602	イカル	4					2	4				3	2	
624	アオジ	1												1
	出現総羽数	245	135	93	68	105	96	31	7	44	20	95	51	87
	種類数	26	18	9	12	13	18	9	4	6	8	11	11	13
903	カワラバト(ドバト)	4												4
909	ガビチョウ	16	1			4	5	6		6	2		6	16
536-1	ルリビタキ♂	0												
536-2	ルリビタキ♀型	0												
536-3	ルリビタキ不明	1												1

調査者記号: k菅野桂子 kk加藤岸男 ik石橋公子 ne西村恵里子 yy横山由美子 kh木村晴美 oy冲山吉和

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/7	2/5	3/6	4/2	5/10	6/3	7/6	8/5	9/10	10/5	11/4	12/9
			9:00	9:00	8:55	9:05	9:00	8:55	8:55	8:10	8:55	9:00	9:05	9:00
			14:15	14:20	14:15	14:35	13:55	14:30	13:45	12:45	14:20	14:45	14:30	14:00
			晴れ	快晴	晴れ	曇り/晴れ	晴れ	曇り	曇り/雨	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
			k kk	k kk	k kk	k kk ne yy	k kk	k kk	k kk	k kk	k kk	k kk ik ne	k kk kh oy	k kk ne
32	カルガモ	1						1						
74	キジバト	4		1	4	2	2	3	2	2	1			1
78	アオバト	2			1			2						
146	ダイサギ	1		1										
185	ホトトギス	1						1						
342	トビ	6				1					2	6	6	
358	ノスリ	1										1		1
390	コゲラ	8	4	7	8	4	2	5			5	4	3	7
397	アオゲラ	3	1	1	1	1	3	2	1	2	1	1	1	
412	サンショウクイ	4	1			1		3				4		
418	サンコウチョウ	4					4	2	1	1				
427	カケス	4	1	1	4	3	1	2	2	2		3	3	2
435	ハシボソガラス	2	2	1					1		2		1	
436	ハシブトガラス	10	9	5	10	4	3	5	5	5	4	8	3	5
442	ヤマガラ	17	2	13	17	14	7	5	8	1	5	8	13	5
443	ヒガラ	9		1	8	9	7	4	4	5		2	7	3
445	シジュウカラ	25	7	11	14	18	6	4	7	12	24	25	20	6
457	ツバメ	4						2	4					
461	イワツバメ	40					30±	30±	40±					
463	ヒヨドリ	56	47	56	43	52	33	28	27	16	6	31	25	27
464	ウグイス	15			1	15	11	10	6	4		2	5	1
465	ヤブサメ	6					6	6	3					
466	エナガ	35	19	16	15	15	4	6			7	35	10	13
480	センダイムシクイ	2					2							
485	メジロ	45	45	22	11	18	18	10	13	31	7	26	40	5
504	ミソサザイ	2			1	2								
518	クロツグミ	4					3	4	2					
522	アカハラ	1							1					
525	ツグミ	1	1											
536	ルリビタキ	2		1										2
540	ジョウビタキ	2	1										2	1
558	キビタキ	17					17	12	8				1	
561	オオルリ	3					3	2	2					
569	スズメ	6	2	1	6	3		1					3	1
573	キセキレイ	5	1		1	5	4	3	2		5	1	3	1
574	ハクセキレイ	2	1	1	2	2	1		1			1	2	
575	セグロセキレイ	1	1	1										
587	カワラヒワ	2		1									2	
599	ウソ	1		1										
602	イカル	30	2	1	1	1	4	4	2	2	30+	1	1	1
624	アオジ	1												1
	出現総羽数	385	147	143	148	170	171	157	142	83	99	159	151	83
	種類数	41	18	20	18	19	22	26	22	12	13	17	20	18
901	コジュケイ	1			1									
909	ガビチョウ	9	9	6	5	4	5	8	6	7	2	1	5	1
910	ソウシチョウ	20	20±		3	3	1	2	2	15			10	2
536-1	ルリビタキ♂	1												1
536-2	ルリビタキ♀型	1		1										
536-3	ルリビタキ不明	1												1
540-1	ジョウビタキ♂	1	1										1	
540-2	ジョウビタキ♀	0												
540-3	ジョウビタキ不明	1											1	1

調査者記号: kk加藤岸男 tm玉木雅治 tt玉木ちづ子

第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
			1/6	2/1	3/1	4/3	5/1	6/1	7/10	8/2	9/1	10/3	11/2	12/4	
			8:40	9:00	8:40	7:50	7:55	7:15	8:00	7:30	7:55	7:40	8:00	8:20	
			12:45	11:55	11:30	11:25	11:05	10:00	10:40	10:05	10:15	10:20	10:30	10:55	
		曇り kk tm tt		快晴 kk		晴れ kk		晴れ kk		曇り kk		快晴 kk		曇り kk	
32	カルガモ	1					1								
74	キジバト	7	1	1	3	7	3	3	2	5	5				
78	アオバト	1				1			1	1					
144	アオサギ	1					1								
185	ホトトギス	2						2	1	1					
187	ツツドリ	1					1								
193	ヒメアマツバメ	6								6					
342	トビ	2				1						2			
354	ツミ	1				1									
357	サシバ	1				1									
390	コゲラ	5	3	2	4	5		4	1	1	2	3	2	1	
397	アオゲラ	2				1	1	1		2	1	2	1		
412	サンショウクイ	2					1			1		2			
418	サンコウチョウ	1						1							
420	モズ	1		1											
427	カケス	12	2	2	2	12			1		1	3	3		
435	ハシボソガラス	2			1	2		1							
436	ハシブトガラス	11	3	4	3	11	5	2	2	3	4	5	6	5	
441	コガラ	1								1					
442	ヤマガラ	8	4	6	8	5	4		4	4		2	6	2	
443	ヒガラ	17	1		5	17	6	4	2	2		2		2	
445	シジュウカラ	36	6	10	15	4	12	11	10	11	13	36	9	18	
457	ツバメ	8							5	8					
463	ヒヨドリ	29	26	22	19	29	29	27	20	7	13	21	12	23	
464	ウグイス	26	2	3	4	17	26	18	16	12	2	2	4	6	
465	ヤブサメ	5					3	5	1						
466	エナガ	23	23	8	10	2	2			2	9	17	12	2	
480	センダイムシクイ	3					2	3	2						
485	メジロ	24	15	8	3	24	19	9	24	15	18	10	5	3	
503	キバシリ	1													1
504	ミソサザイ	3	3	2	1	2			1						1
514	トラツグミ	1		1											
518	クロツグミ	4					4	4							
521	シロハラ	2	1	1	2										2
536	ルリビタキ	5	2	1											5
540	ジョウビタキ	6	6	3	2								2		4
558	キビタキ	16					16	10	1	1					
561	オオルリ	5					5	2	1						
569	スズメ	6		2		5	2		2	6					
573	キセキレイ	6	1	2	2	6	4	1	2	2	3	5	3		
586	アトリ	30													30±
587	カワラヒワ	2		2		2			2						
599	ウソ	4		4		1									
602	イカル	4		4			2	2					2		
610	ホオジロ	6	4		4	5	4	6	4	1	5	3	4	2	
624	アオジ	4	1	2		3									4
	出現総羽数	344	104	91	88	164	153	116	105	92	76	115	71	111	
	種類数	46	18	22	17	24	23	20	22	21	12	15	14	17	
901	コジュケイ	1				1									
909	ガビチョウ	5				2	5	4	5	2	1	5	3		
910	ソウシチョウ	2											2		
420-1	モズ♂	1		1											
420-2	モズ♀	0													
420-3	モズ幼鳥	0													
420-4	モズ不明	0													
536-1	ルリビタキ♂	4													4
536-2	ルリビタキ♀型	1	1	1											
536-3	ルリビタキ不明	1	1												1
540-1	ジョウビタキ♂	1	1												
540-2	ジョウビタキ♀	2	2	2											
540-3	ジョウビタキ不明	4	3	1	2								2		4
599*2	アカウソ	1		1											

調査者記号: 柚木鎮夫Y、柚木育子y

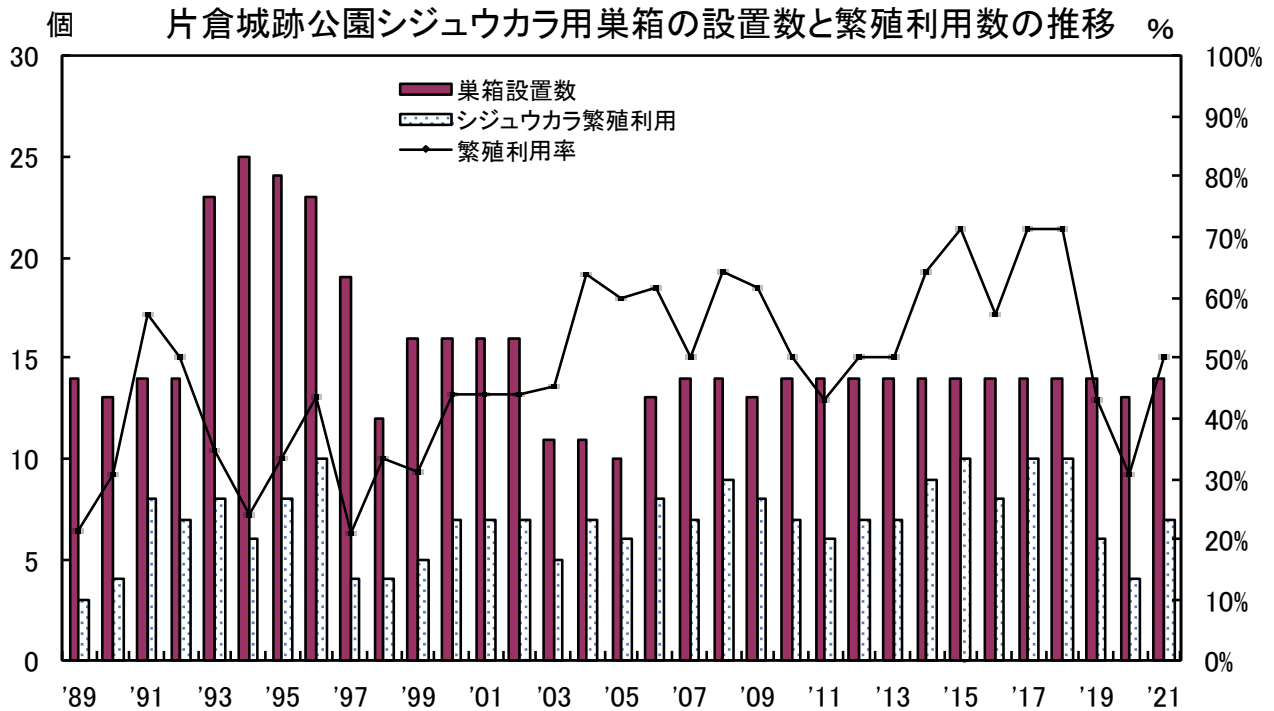
第7版 番号 (新)	月*日 開始 時:分 終了 時:分 天候(前後) 調査者記号	年最大	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
			1/8	2/1	3/3	4/2	5/2	6/2	7/6	8/6	9/8	10/4	11/7	12/3
			7:30	7:20	7:20	6:45	6:00	6:25	5:45	5:05	5:45	6:00	6:50	7:00
			晴れ	晴れ	晴れ	曇	晴れ	晴れ	曇	晴れ	晴れ	晴れ	曇	晴れ
			柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子	柚木育子
74	キジバト	9		4	2	3	2	1	9	3	4	3		
78	アオバト	1				1			1	1				
185	ホトトギス	2						1	2	1				
187	ツツドリ	1					1							
342	トビ	1			1		1							
356	オオタカ	1								1				
390	コゲラ	6	4	4	2	2	2	6	1	2	5	2	6	3
393	アカゲラ	1			1									
397	アオゲラ	4		1	1	4	2	2	2	3	4	4	1	1
412	サンショウクイ	1						1						
418	サンコウチョウ	1						1	1					
420	モズ	1											1	
427	カケス	7	2	4	5	7	5		1	2	4	4	4	2
435	ハシボソガラス	1			1									1
436	ハシブトガラス	6	5	3	5	4	6	6	2	3	6	4	5	6
442	ヤマガラ	17	17	11	12	15	10	11	5	13	15	15	11	17
443	ヒガラ	9		4	4	8	9	8	5	7	5	3		
445	シジュウカラ	13	10	10	11	8	9	11	7	10	13	7	8	6
457	ツバメ	1					1							
463	ヒヨドリ	35	22	18	19	12	18	20	23	15	8	35	16	23
464	ウグイス	23	1		5	16	23	22	17	11	8	8	2	2
465	ヤブサメ	8					6	8	7		3			
466	エナガ	18	2	1	11	4	10			7	11		12	18
485	メジロ	17	16	10	2	11	17	13	10	17	12	15	12	17
504	ミソサザイ	4	1	4	3	1								1
518	クロツグミ	6					3	3	6	3				
521	シロハラ	2	1	2	1									
525	ツグミ	1												1
530	コマドリ	1					1							
536	ルリビタキ	8	2	3										8
540	ジョウビタキ	2	1	2	1								1	1
558	キビタキ	23					19	23	11					
561	オオルリ	9					9	4	2					
573	キセキレイ	2	1			1		1			1	1		2
587	カワラヒワ	1						1						
588	マヒワ	25		14	25									
592	ベニマシコ	1												1
599	ウソ	8			8								1	
602	イカル	8		1		8	3	5	2	3				
610	ホオジロ	11		11	11	7	6	3	4	3	1	4	6	4
617	カシラダカ	4		4	3									
624	アオジ	3		1	1	1							3	
625	クロジ	4		4										
	出現総羽数	307	85	116	135	113	163	151	118	105	100	105	89	114
	種類数	43	14	21	23	18	22	21	20	18	15	13	15	18
901	コジュケイ	2	1		1	2		1						
909	ガビチョウ	9		1	1	4	9	3	6	7	6	7	4	7
910	ソウシチョウ	7	7						2				3	1
420-1	モズ♂	0												
420-2	モズ♀	0												
420-3	モズ幼鳥	0												
420-4	モズ不明	1											1	
536-1	ルリビタキ♂	0												
536-2	ルリビタキ♀型	1		1										
536-3	ルリビタキ不明	8	2	2										8
540-1	ジョウビタキ♂	0												
540-2	ジョウビタキ♀	0												
540-3	ジョウビタキ不明	2	1	2	1								1	1

2021年 片倉城跡公園巣箱設置調査報告

まとめ： 浜野建男、浜野知恵子

カワセミ会が片倉城跡公園に設置しているシジュウカラ用巣箱の利用状況調査と巣箱の清掃を 2021年 12月 12日に実施した。調査には湯殿川探鳥会に参加した 16名の会員が参加した。

結果は下図推移のとおり、繁殖に利用した巣は 7個で繁殖利用率は 50%、昨年よりは多くなった。

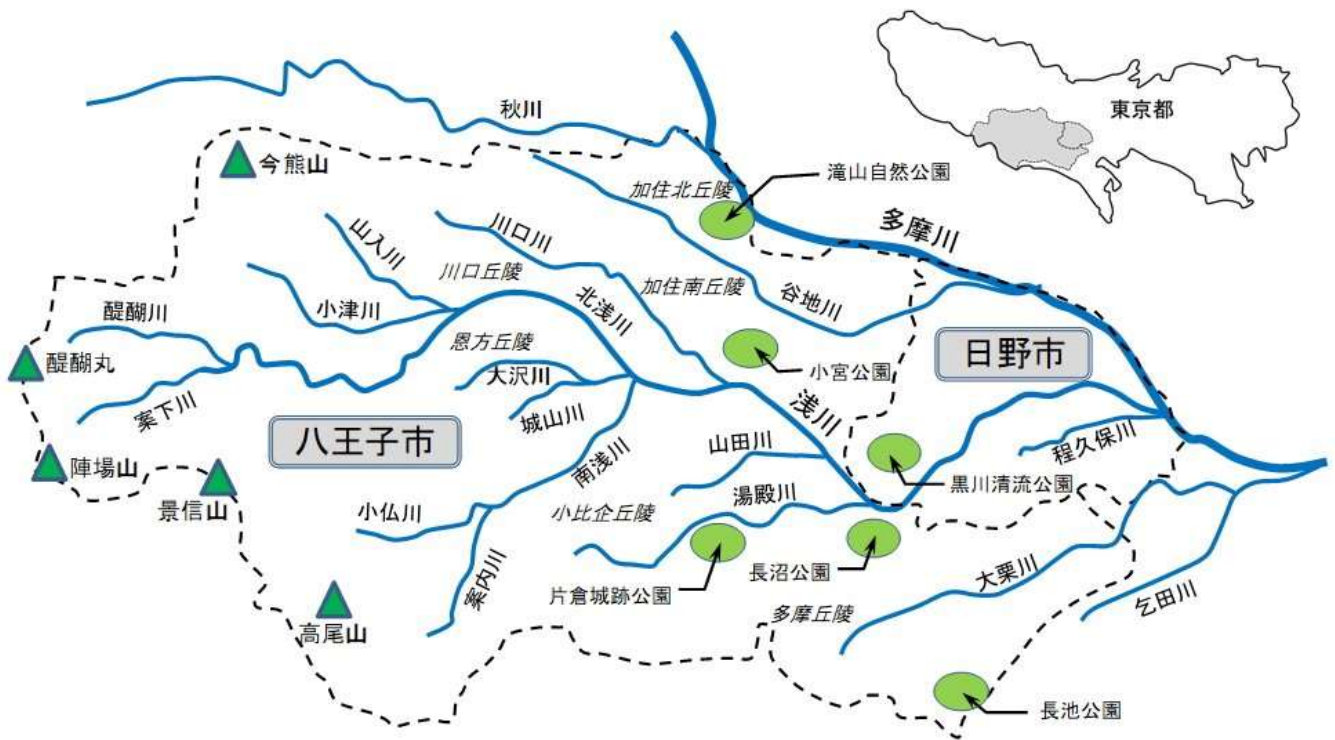


11月に実施した事前の確認で、二の丸に設置した巣箱が一つ落ちて(?)下に置かれており、持ち帰って補修した。この時点で中は入っていなかったため、利用なしと判断した。

その他、今年の特徴

- ① 林縁部に設置した 8 個のうち繁殖に利用した巣は 4 個、林の中に設置した 6 個のうち 3 個について繁殖利用を確認した。管理棟付近や休憩広場など、人通りが比較的多いところは利用率が高いようである。
- ② 昨年、業者による木の伐採と共に外された場所については近くに新しく設置したが、利用されなかった。
- ③ 巣材はコケ・しゅろ・化繊・獣毛が利用されていた。3cm~8cmの厚さで産座も 5 個で確認できた。
- ④ 奥の沢の巣箱では、通常の立派な産座の上に白いボソボソした細かく切れた綿状のものが沢山載っていたが、何かは不明であった。
- ⑤ 今年は卵が残っていた巣箱や、ハチやヤモリなどの利用していた巣箱はなかった。(去年は 4 箇所あり)

八王子・日野カワセミ会の主な調査範囲



編集後記

本会報は 98 ページと、非常に充実した内容となった。30 周年記念号の会報 58 号(2017 年春)以降は 70 から 80 ページ台の会報が続いたが、今号はカワセミ会 35 周年記念事業の報告が複数掲載されたこともあるが、リレーコラムが前回同様 2 投稿、それ以外の投稿も 2 件と、会員からの活発な投稿が多くなっている。またコロナで遠出や宿泊の探鳥会は実施できないが、それに代わり、地元発見探鳥会が活発に行われ、新しい発見や会員の交流に役立っている。今後も新しい投稿や探鳥会が増えることを期待したい。

浜野 建男

かわせみ

2022年3月発行 第68号

発行 八王子・日野カワセミ会

発行人 粕谷 和夫

題字 河村 洋子

表紙イラスト 倉本 修 (エナガ)

表紙デザイン 青柳 圭 TEL: 042-397-3006

印刷 株式会社プリントパック

編集人 (連絡先) 浜野 建男

八王子市北野台5-14-10

hamano@mx.mesh.ne.jp